

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案)【国外外来種】 検討作業中

資料10-2

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献。

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境
184	224	イネ	シマズメノヒエ(ダリグラス)	<i>Paspalum dilatatum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載			
185	224	イネ	タチズメノヒエ(ベイズーグラス)	<i>Paspalum urvillei</i>	E小笠原・南西諸島	掲載			
186	224	イネ	ムラサキカオススキ	<i>Saccharum formosanum</i> var. <i>pollinoides</i>	E小笠原・南西諸島	掲載			
187	225	ヤシ	トウ廬の一種(カラムス)	<i>Calamus</i> sp.	E小笠原・南西諸島	掲載			
188	231	カヤツリグサ	シュロガヤツリ(カラカサヤツリ)	<i>Cyperus alternifolius</i>	E小笠原・南西諸島	掲載			
189	233	ショウガ	ハナショウガ(ショウガ、バタフライジンジャー)	<i>Hedychium coronarium</i>	E小笠原・南西諸島	掲載			

適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種) 産業又は生業を維持する上で重要で、代替性がなく、その利用にあたっては留意事項に拘って適切な管理を行うことが必要な外来種

190	203	キク	栽培キク属	<i>Chrysanthemum</i> cv.	B定着初期/分布限定	掲載		産業管理	
191	89	マタタビ	キウイフルーツ(シナサルナシ)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	C分布拡大期	掲載		産業管理	
192	102	バラ	セイヨウヤブイチゴ(ブラックベリー)	<i>Rubus armeniacus</i>	C分布拡大期	掲載		産業管理	
193	102	バラ	ヒワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	
194	103	マメ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	
195	103	マメ	ムラサキツメクサ(アカツメクサ、アカクローバ、レッドクローバ)	<i>Trifolium pratense</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	高山
196	103	マメ	シロツメクサ(ホワイトクローバ)	<i>Trifolium repens</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	高山
197	224	イネ	コヌカグサ(レッドトップ)	<i>Agrostis gigantea</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	湿原
198	224	イネ	カモヤガ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>	Dまん延期	掲載		産業利用	
199	224	イネ	オニウシケグサ(ホールフェスク、ケンタッキー-31フェスク)	<i>Festuca arundinacea</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	
200	224	イネ	ドムギ属(ネズミムギ(イタリヤンライグラス)、ホムギ(ペレニアルライグラス)、ネズミホムギ(ハイブリッドライグラス)等)	<i>Lolium</i> spp. (<i>L. multiflorum</i> , <i>L. perenne</i> , <i>L. x hybridum</i>)	Dまん延期	掲載		産業管理	
201	224	イネ	オオアワガエリ(チモシー)	<i>Phleum pratense</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	
202	224	イネ	ギネアキビ(ギニアグラス、ギネアキビ、イヌキビ)	<i>Panicum maximum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載		産業管理	
203	224	イネ	アメリカズメノヒエ(バヒアグラス、オニスズメノヒナピアグラス(ネビアグラス、エレファントグラス、ペルーグラス))	<i>Paspalum notatum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載		産業管理	
204	224	イネ		<i>Pennisetum purpureum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載		産業管理	

評価を行ったものの掲載種(案)としなかった種

206	189	キツネノマゴ	ヒメタテハグロ(ハイグロフィラ・ボリスベルマ)	<i>Hydrophila polysperma</i>	A未定着				
207	204	オモダカ	セイヨウオモダカ	<i>Sagittaria sagittifolia</i>	A未定着				
208	204	ハナイ	ハナイ(ハナクサイ)	<i>Butomus umbellatus</i>	A未定着				
209	205	トチカガミ	ヨーロッパフロッグビット	<i>Hydrocharis morsus-ranae</i>	A未定着				
210	205	トチカガミ	ストラティオテス・アロイデス	<i>Stratiotes aloides</i>	A未定着				
211	216	ミアアオイ	ハイボテアアオイ	<i>Eichhornia azurea</i>	A未定着				
212	46	ヤナギ	ギンドロ(ウラジロハコヤナギ、ハクウ)	<i>Populus alba</i>	B定着初期/分布限定				
213	173	ミツガシワ	ハナガガバ(バナナプランツ)	<i>Nymphaeoides aquatica</i>	B定着初期/分布限定				
214	108	アマ	キバナマツバ(ニンジン)	<i>Linum medium</i>	C分布拡大期				
215	109	トウダイグサ	シナアブラギリ(オオアブラギリ)	<i>Vernicia fordii</i>	C分布拡大期				
216	183	シソ	ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>	C分布拡大期				
217	183	シソ	マルバハッカ(ニガハッカ)	<i>Mentha suaveolens</i>	C分布拡大期				
218	183	シソ	アメリカハッカ	<i>Mentha x gentilis</i>	C分布拡大期				
219	186	ゴマノハグサ	コテングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia</i> ssp. <i>serpyllifolia</i>	C分布拡大期				
220	224	イネ	ハガワリトシガラ	<i>Festuca heterophylla</i>	C分布拡大期				
221	64	ナデシコ	ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	Dまん延期				
223	95	アブラナ	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>	Dまん延期				
224	95	アブラナ	シヨカツサイ(ハナダイコン、オオアラセイトウ、ムラサキハナナ)	<i>Orychophragmus violaceus</i>	Dまん延期				
225	150	アカバナ	マツツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	Dまん延期				
226	150	アカバナ	アレチマツツヨイグサ	<i>Oenothera parviflora</i>	Dまん延期				
227	150	アカバナ	マツツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i>	Dまん延期				
228	176	アカネ	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i>	Dまん延期				
229	178	ヒルガオ	マルバヒルガオ	<i>Ipomoea coccinea</i>	Dまん延期				
230	178	ヒルガオ	マメアサガオ(ヒメアサガオ、ヒラミホシアサガオ)	<i>Ipomoea lacunosa</i>	Dまん延期				
231	186	ゴマノハグサ	ピロドモウズイカ(ニウタバコ)	<i>Verbascum thapsus</i>	Dまん延期				
232	188	ノウゼンカズラ	キササゲ	<i>Catalpa ovata</i>	Dまん延期				
233	203	キク	アタクサ	<i>Ambrosia elatior</i>	Dまん延期				
234	203	キク	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	Dまん延期				
235	203	キク	ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>	Dまん延期				
236	203	キク	ヒメムカシヨモギ	<i>Eriqeron canadensis</i>	Dまん延期				
237	203	キク	ハルシオン	<i>Eriqeron philadelphicus</i>	Dまん延期				
238	211	ユリ	ハチミツ(セイヨウアマナ)	<i>Ipheion uniflorum</i>	Dまん延期				
239	224	イネ	ヒゲナガスズメノチャヒキ(オオスズメノチャヒキ、オオキツネガヤ)	<i>Bromus diandrus</i>	Dまん延期				
240	224	イネ	ムクサ	<i>Hordeum murinum</i>	Dまん延期				
241	77	クスノキ	セイロンニッケイ(シナモン)	<i>Cinnamomum verum</i>	EA小笠原・南西諸島				
242	103	マメ	アメリカネムノキ(タイウンネムノキ)	<i>Samanea saman</i>	EA小笠原・南西諸島				
243	128	クロウメモドキ	イヌナツメ(インドナツメ)	<i>Ziziphus mauritiana</i>	EA小笠原・南西諸島				
244	142	ミハギ	タバコソウ(ベニチヨウジ)	<i>Cuphea ignea</i>	EA小笠原・南西諸島				
245	147	ノボタン	シコンノボタン	<i>Tibouchina urvilleana</i>	EA小笠原・南西諸島				
246	150	アカバナ	フクシア・ボリビアナ	<i>Fuchsia boliviana</i>	EA小笠原・南西諸島				
247	150	アカバナ	ツルクソウ(フクシア・マゲラニカ)	<i>Fuchsia magellanica</i>	EA小笠原・南西諸島				
248	151	グンネラ	オニフキ	<i>Gunnera manicata</i>	EA小笠原・南西諸島				
249	151	グンネラ	コウモリガソウ	<i>Gunnera tinctoria</i>	EA小笠原・南西諸島				
250	174	キョウチクトウ	メキシコキョウチクトウ(キバナキョウチクトウ)	<i>Thevetia peruviana</i>	EA小笠原・南西諸島				
251	188	ノウゼンカズラ	ヒメノウゼンカズラ	<i>Tecoma capensis</i>	EA小笠原・南西諸島				
252	203	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク)	<i>Mikania cordata</i>	E小笠原・南西諸島				
253	204	キバナオモダカ	キバナオモダカ(ヌオオオバコ)	<i>Limnocharis flava</i>	EA小笠原・南西諸島				
254	212	リュウゼツラン	フルクラエア・フォエティダ(フォエチダ)	<i>Furcraea foetida</i>	EA小笠原・南西諸島				
255	233	ショウガ	ショウズク(カルダモン)	<i>Elettaria cardamomum</i>	EA小笠原・南西諸島				
256	66	ヒコ	ツルノゲイトウ(ホシノゲイトウ)	<i>Alternanthera sessilis</i>	E小笠原・南西諸島				
257	186	ゴマノハグサ	オトメアゼナ	<i>Bacopa monnieri</i>	E小笠原・南西諸島				
258	224	イネ	シククリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>	E小笠原・南西諸島				

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国内由来の外來種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外來種]

検討作業中

資料10-2

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献。

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載(案)	対策	産業利用	脆弱環境
対策が必要な外来種									
1001	93	ケシ	白山などの高山帯のコマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>	X B 定着初期/分布限	掲載			高山
1002	109	トウダイグサ	屋久島などのアブラギリ(ドクエ)	<i>Vernicia cordata</i>	X B 定着初期/分布限	掲載			
1003	225	ヤシ	九州北部以北の森林内などのシュロ類	<i>Trachycarpus</i> spp.	X D まん延期	掲載			
1004	37	マツ	小笠原諸島などのリュウキュウマツ(オキナワマツ)	<i>Pinus luchuensis</i>	X E 小笠原・南西諸島	掲載			
1005	50	クワ	小笠原諸島などのオジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	X E 小笠原・南西諸島	掲載			
1006	50	クワ	小笠原諸島などのシマクワ	<i>Morus australis</i>	X E 小笠原・南西諸島	掲載			
1007	109	トウダイグサ	小笠原諸島などのアカギ	<i>Bischofia javanica</i>	X E 小笠原・南西諸島	掲載			
1008	57	タデ	高山帯のキシキシ	<i>Rumex japonicus</i>	X X 普通種	掲載			高山
1009	196	オオバコ	高山帯のオオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	X X 普通種	掲載			高山

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献。

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
												原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など									
対策が必要な外来種																													
対策優先種 掲載種の中でも、特に甚大な被害が予想されるため、種ごとに掲げる目標に応じて、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除等の対策を行うことを呼びかける外来種																													
1	150	アカバナ	オオバナミズキンバイなどを含むルドウィジア・グランディフロラ	<i>Ludwigia grandiflora</i> (L. grandiflora ssp. grandiflora)	B定着初期/分布限定	掲載	対策優先		池沼	-	-										南米及び北米南部原産、ヨーロッパで帰化。	2007年に兵庫県のため池で確認。2009年の冬期に琵琶湖湖南湖への侵入が確認された。その後はすさまじい勢いで分布を拡大し、2012年末に南湖のほぼ全域まで分布を広げた。今後はチクゴスズメノヒエを駆逐して湖岸域を覆う可能性もある。	抽水植物	ため池や湖沼に生育。	本種の可能性のある類似種が、觀賞用水草として日本で流通している。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされているが、水質浄化を目的として導入された水草の中に混入した可能性がある。河川や湖沼への水草の導入は、基本的に行うべきでない。	ナガエツルノゲイトウと同様あるいはそれ以上に除草困難である。	その他:藤井委員	水草研究会誌 89号、藤井委員、GCW
2	224	イネ	スバルティナ属	<i>Spartina</i> spp.	B定着初期/分布限定	掲載	対策優先		湿原(汽水域)	-	-										北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカで15~16種類が知られる。	ヒガタアシ(スバルティナ・アルテルニフロラ) <i>S. alterniflora</i> が愛知県と熊本県で分布拡大中。	汽水性の多年草。	海岸近(の河口域、塩沼地、干潟)に生育。	海外では塩沼地の回復や、土壌の浸食防止に利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、植物体の断片により分布を拡大し、干潟の生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。日本でも希少種が生育する貴重な生態系である干潟への影響が懸念されている。河川や干潟等の自然水域への持ち込みは行うべきではない。スバルティナ・アングリカは特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	北アメリカ原産の <i>S. alterniflora</i> が導入されたイギリスで <i>S. maritima</i> と交雑して不稔雑種の <i>S. x townsendii</i> を形成し、それが倍増化して <i>S. anglica</i> が生まれた。スバルティナ・アングリカは特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	外来法:(特定)、W100:(IUCN)、対策:H23.1、専門家:塩沼10 各県:愛知、海外:ISSG、その他:藤井委員	Neira, Carlos, Levin, L. A. and Grosholz, E. D. 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid <i>Spartina</i> , with comparison to uninvaded habitats. Marine ecology progress Series 292:111-126.
3	66	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	C分布拡大大期	掲載	対策優先		池沼	-	-										中央アメリカ原産。	1989年渡来、関東~沖縄の一部に分布。	長さ1m以上、多年草	水辺の湿った土地	本種は特定外来生物に指定され、利用は規制されている。		外来法:特定、村中:B、対策:H20.4、H23.6、専門家:水生28 各県:千葉・兵庫、河川:1.1.5、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物	
4	203	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	Dまん延期	掲載	対策優先		湿原	-	-										北アメリカ原産	園芸植物として明治中期に渡来、北海道~九州、琉球で帰化。	3m、多年草	道端、荒地、畑地、湿原、河原、草地など肥沃で湿った場所に生育する。国立公園の湿原や畦畔林といった自然度の高い環境に繁茂し、問題となっている。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		外来法:村中:B、対策:H20.18、H23.2、専門家:草原40・高山20、各県:北海道・青森・栃木・千葉・愛知・兵庫・鳥取・広島、河川:18.32.35	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物	
限定対策種 比較的普通に見られ、都市域等では対策の必要性は低いものの、生物多様性の保全上重要な地域などで被害を及ぼす場合には対策を行うことが望ましい外来種																													
5	57	タデ	ジャクチソバ(シュッコソバ、ヒマラヤソバ)	<i>Fagopyrum dibotrys</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ヒマラヤ、中国西部原産。	昭和初期に中国から導入。1960年代から野生化、北海道、本州、四国、九州。	1.2m、多年草	林縁や川沿いなどの半陰地、関西の河川敷で急速に繁茂。	種子は食用にされ、若芽や若葉は野菜として食べられる。日本では薬用植物として中国から導入され、近年も薬用として栽培されるが、作物としては栽培されていない。	種子と根茎で繁殖し、半陰地でも生育でき、河川を中心に分布を拡大していること等から、河川を通じて、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	強固な根茎による栄養繁殖によって生育地を拡大し、他の植物を駆逐する。別学名 <i>F. cymosum</i> , <i>Polygonum cymosum</i>	村中:C、河川:17.35.43	便覧、帰化植物、藤井委員、Ylist、有用
6	57	タデ	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ヨーロッパ原産、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカ、オセアニア。温帯~寒帯を中心に分布し、熱帯~亜熱帯の高地にも広がる	明治初期に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	0.5m、多年草	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿地~半湿地を好む。pHの低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。	海外では、鉱業地域の緑化や食用にされる。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	YListでは、標準名 <i>Rumex acetosella</i> ssp. <i>pyrenaicus</i> 、別学名 <i>Acetosella angiocarpa</i> , <i>Rumex angiocarpus</i> 。種子と根茎により繁殖。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシー作用がある。シュウ酸を含む。	村中:C、対策:H20<4、専門家:砂浜24、河川:43.82.86、海外:ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、雑草、花粉、Ylist	
7	57	タデ	ナガバギンギン(チジミスイバ)	<i>Rumex crispus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ユーラシア原産、北アメリカ、南アメリカ、太平洋諸島など、温帯~熱帯に分布。オーストラリアで侵略的。	1891年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	1.5m、多年草	牧草地、樹園地、畑地、路傍、荒地、草原、低木林、市街地などに生育。低地から高地まで生える。日当たりのよい湿ったところを好む。	外国では、薬用や花序がドライフラワーに利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	Jハラダイオウ <i>R. x pratensis</i> は、エノギンギン <i>R. obtusifolius</i> との雑種とされる。外国産ギンギン類は、Jダイオウやマダイオウとの交雑が懸念される。海外では、シュウ酸による羊の中毒が報告されている。別学名 <i>Rumex crispus</i> ssp. <i>fauriei</i>	村中C:、専門家:交雑11*、河川:39.77.90、海外:ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、牧草、Ylist、園芸事典、IPSW	
8	57	タデ	ヒメツルソバ(カンイタドリ)	<i>Persicaria capitata</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										中国南部~ヒマラヤ原産。熱帯~温帯で栽培。	明治中期に渡来し、1960年代以降、野生化。本州(関東以西)、四国、九州、琉球。	長さ0.5m、多年草	市街地や民家周辺の庭先や石垣、コンクリートの隙間に生育する。耐寒性はやや弱い。高温や乾燥に強い。ため雑草化する。伊豆半島など石垣や溶岩の間にはびこっている。自然の岩場でどこまで進出できるか不明である。	觀賞用に渡来した。現在も流通し、鉢物として販売されたり、ロックガーデン等で栽培される。	河川では増加しており、自然の岩場に侵入して雑草化する可能性があること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	原産地では形態の変異が大きい。日本に帰化している型は葉が小さく、密につき、全体が紅紫色を帯びる。別学名 <i>Cephalophilon capitatum</i> , <i>Polygonum capitatum</i>	各県:奄美、河川:0.5,13	便覧、写真図鑑、帰化植物、勝山委員、J、園芸事典、Ylist

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献。

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など					
9	57	タデ	エソノギシギシ(ヒロギシギシ)	<i>Rumex obtusifolius</i> var. <i>agrestis</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ヨーロッパ原産、温帯	明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州。	1.3m. 多年草	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入。	海外では薬用に利用される。国内では本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	JハラダイオウR. × <i>pratensis</i> は、ナガバギシギシ <i>R. crispus</i> との雑種とされる。その他にも複数の雑種が知られる。外国産ギシギシ類は、Jダイオウやマダイオウとの交雑が懸念される。	外來法:要注意、村中:C、FAO:6、対策:H20<4、専門家:草原43-交雑11、各県:青森・愛知・京都、河川:61,105,108、海外:ISSG、その他:藤井委員	便覧、写真図鑑、雑音、外来生物
10	58	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ(アメリカヤマゴボウ)	<i>Phytolacca americana</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										北アメリカ原産、オーストラリア、アジアに分布。	明治初期に渡来。沖縄には戦後、北海道、本州、四国、九州、琉球。	2.0m. 多年草	路傍、空地、荒地、畑地周辺、休耕地、森林伐採跡地に生育。	若芽は野菜にされた。果実は昔、赤ワインの色付けに使われたが、現在は使用を禁止されている。流通、販売されている。時に花材に用いられる。	草本としては大型で、河川等で分布を拡大しており、人体への影響も甚大であることから、栽培にあたっては、逸出させない配慮が必要である。根をゴボウと間違えて食べたり、子供が誤って果実を口にすることがないよう、注意が必要である。	誤って根を食べて中毒症状を起こした事例がある。死亡することもある。果実にも毒がある。	FAO:6、各県:青森・京都、河川:56,95,101	便覧、雑音、牧草、厚生省HP、写真図鑑、帰化植物、有用JF、園芸事典
11	64	ナデシコ	マンテマ(マンテマ)	<i>Silene gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ヨーロッパ原産、アフリカ、西アジア、オセアニア、南北アメリカ、太平洋諸島等、温帯～熱帯、オーストラリア等では雑草化。	江戸時代に園芸植物として渡来。本州、四国、九州、屋久島。	0.5m. 一年草	海浜の砂地や疎林、埋立地、路傍の草地、河川敷、畑地、荒地、市街地に生育。海岸や湖岸の砂丘植生において侵略的。	流通、市販される。	河川で分布を拡大しており、種子が風や動物により散布され、海浜の砂地に侵入すること等から、海岸や湖岸の砂丘植生への影響が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	狭義のマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i> とシロバナマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>galica</i> を含む。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。	河川:30,49,62	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸事典
12	81	スイレン	ハゴロモモ(フサジュンサイ、カモンバ)	<i>Cabomba caroliniana</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		池沼	-	-										北アメリカ東南部原産。	1929年に導入。1950年に野生化が確認。本州、四国、九州。	2.0m. 沈水生の多年草	湖沼、ため池、河川、水路などに生育。水質がやや汚濁した環境にも生育する。	観賞用水草として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、断片の水散布により分布が拡大し、水生の希少種への影響も危惧されること等から、自然水域へは持ち込むべきではない。	愛知県では、ガガブヤやヒシなどの在来水草を圧迫している。ハゴロモモ(ジュンサイ)科 CABOMBACEAE に分類されるようになった。	外來法:要注意、村中:C、FAO:8、専門家:水生26、各県:愛知・愛媛、4.9.12、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、Ylist
13	95	アブラナ	ハルザキヤマガラシ(セイヨウヤマガラシ)	<i>Barbarea vulgaris</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布し、原産地は不明。	明治時代末年に渡来。1960年頃に野生化。北海道、本州、四国、九州に分布。	0.9m. 越年草～短命な多年草	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高1800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では、現在のところ自然生態系に大きな影響を与えるほどの量は生育していない。標高の高い地域にも侵入しているため、自然性の高い環境への影響が懸念される。	外來法:要注意、W100:日本、村中:B、6、対策:H20<4、H23.2、専門家:河原30、各県:青森、河川:18,39,44	世雑、外来生物、便覧、帰化植物、写真図鑑	
14	95	アブラナ	セイヨウカラシナ(カラシナ)	<i>Brassica juncea</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										西アジア原産、温帯を中心に分布し、熱帯の一部まで広がる	奈良時代から平安時代初期頃に中国から渡来したらしいが、戦後分布を広げているのはヨーロッパ、北アメリカから入ったものと考えられている。北海道、本州、四国、九州、琉球。	1.5m. 一年草	河川敷、堤防、畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい温暖地を好み、肥沃地ほど生育が良い。関西地方の河川敷などに大群落がある。	奈良時代から平安時代初期から栽培される。野菜として栽培されるカラシナの原種で、様々な品種が育成されている。種子からはカラシ油がとれ、良質の蜜源植物である。中国では薬用にされる。	河川で分布を拡大しており、大繁茂することがあるため、河原や草原に生育する植物との競合、駆逐が懸念される。河川を通じて、分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	群馬県では太い根が堤防に深く食い込み、堤防の強度低下を引き起こす。アブラナ <i>B. rapa</i> とクロカラシナ <i>B. nigra</i> を合わせた複2倍体、多量に摂取すると中毒の原因になる物質を含む。アレロパシー作用がある。広島では特産野菜との交雑を防ぐために駆除。	村中:C、対策:河原37、専門家:河原28、各県:埼玉・愛媛・群馬、河川:44,76,80	世雑、便覧、牧草、写真図鑑、有用、園芸事典、JF
15	95	アブラナ	オランダガラシ(クレソン)	<i>Nasturtium officinale</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		池沼	-	-										ヨーロッパ、中央アジア原産、南北アメリカ、オセアニアにみられる。	1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。	0.6m. 抽水性多年草	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湖畔から山間の渓流の水辺から水中に群生する。日当たりの良いところを好む。低水温で生育しやすい。	食用に広く利用される。薬用に利用されるほか、水質浄化を目的に導入されることがある。種子を薬用に利用する。	一級河川で分布を拡大するとともに、湧水のあるような清潔な水域にも生育するため、こうした環境に生育する希少種等と競合し、駆逐するおそれがある。農業被害も生じることから、こうした影響を及ぼす水域に持ち込むべきではない。	農業用排水水路の水流を妨げる雑草等としても駆除される。世界的に温帯地域の水路で問題になる雑草である。茎部から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4～5年持続する。群馬県では絶滅危惧種のカワヂシャと生育場所が重なることが確認された。	外來法:要注意、村中:B、FAO:9、対策:H23.1、専門家:水生37、各県:北海道・埼玉・愛知・愛媛・宮崎、河川:40,75,86	世雑、便覧、帰化植物、外来生物、園芸辞典
16	99	ベンケイソウ	ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										中国～朝鮮半島原産。	古い時代に渡来。1941年に九州から報告。本州、四国、九州。	長さ0.3m. 多肉の多年草	都市周辺では舗装道路やコンクリート構造物の隙間に繁殖して害草化。人里や温泉場の石垣、産地、低山の林縁、川原に生える。海岸や山地の岩礫地にも侵入しつづつある。	流通、市販され、グランドカバープランツとして使用されることもある。韓国では野菜として食用にされる。薬用にも利用される。	河川で増加傾向にあり、海岸や山地の岩礫地にも侵入しつづつある。こうした環境には固有な希少種も生育することから、こうした場所に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	通常種子をつけない。	村中:C、専門家:岩場5、各県:青森、河川:37,78,84	便覧、帰化植物、写真図鑑、JF、有用
17	103	マメ	イタチハギ(クロバナエンジュ)	<i>Amorphia fruticosa</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										北アメリカ原産。	1912年に渡来。1940年代以降に本格的に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	4m. 落葉低木	荒地、路傍、崩壊地、土手、河原、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着生育。	庭園樹、砂防用、生垣用に導入。蜜・花粉とも多量に分泌し、蜂が好んで訪花する。また、養蜂業においては蜜源として利用されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	リンゴ炭そ病の発生源とされていることから、リンゴ栽培が行われている場所の周辺では、使用を避けることが望ましい。河川を中心に分布を拡大しており、河原の在来植物と競合、駆逐する等の理由で、多くの都道府県で侵略的な外来植物とされている。河川により種子が拡散される場所への持ち込みを行うべきではない。	H24に改正された養蜂振興法第六條では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	外來法:要注意、W100:日本、村中:B、FAO:7、専門家:河原19、各県:青森・埼玉・京都・兵庫・広島・愛知・愛媛・佐賀、河川:37,78,93、三省:国都・国道	便覧、写真図鑑、農林水産省・林野庁、外来生物
18	103	マメ	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										北アメリカ東南部原産。	1940年に大阪で確認。北海道、本州、四国、九州、琉球。	1m. 多年草	荒地、道端、市街地、空地、攪乱地に広がる。関東以西に多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	一度侵入されると、頑丈な根茎のため、駆除が困難。別学名 <i>Hedysarum paniculatum</i> 、付着しやすい果実で、種子の分散能力が高い。河川でも増加傾向にある。	対策:H23.1、各県:京都・広島、河川:21,49,57	便覧、写真図鑑、勝山委員、帰化植物	

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など
19	103	マメ	シロバナシナガフハギ(スイートクローバ、コゴメハギ)	<i>Melilotus officinalis</i> ssp. <i>albus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x									西アジア原産、アメリカ、ヨーロッパ等、温帯～熱帯に分布し、熱帯では高地に見られる	江戸時代末期(1845年)に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	1.5～3m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育。排水の悪いところや、酸性土壌では生育が劣る。耐干性、耐寒性、耐塩性がある。土壌適応性は大きい。	緑肥、飼料、被覆作物として古くから利用。牧草として導入されたが、経済的に栽培されるには至らなかった。主根が深く伸長し、乾燥に強く、窒素固定能力が高いので、緑肥作物としても栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で繁殖して在来植物への影響が危惧されていることから、河川に侵入して種子が拡散される場所への持ち込みを行うべきではない。	ISSGでは <i>Melilotus alba</i> 、植物体に含まれるクマリンの分解物が牛に有害、海外ではコムギン、オオムギなどの雑草、種子の生産量は多く、風、雨、動物、人間による分散される。	村中:C、専門家:河原29、河川:11,18,16、海外:ISSG	世雑、写真図鑑、便覧、帰化植物、牧草
20	103	マメ	外来クサフジ類(ナヨクサフジ、ピロードクサフジ(シラゲクサフジ))	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> , <i>V. villosa</i> ssp. <i>varia</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										ナヨクサフジは、ヨーロッパ～アジア原産、ピロードクサフジはヨーロッパ～アジア、アフリカ原産。	ナヨクサフジは1943年に渡来し、本州、四国、九州、琉球、ピロードクサフジは1941年渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	茎の長さ1.5m、つる性の一年草	道端、畑地、牧草地、樹園地、荒地、河川敷、草地などに生育。山地まで生え、熱帯では高地にみられる。	両種合わせてヘアーベッチの名で、飼料や緑肥として栽培される。	河原で繁殖することから、カワラヨモギ、メドハギ等の河畔植物と競合し、駆逐する。群馬県では、県の絶滅危惧IA類のレンリソウ自生地に繁殖している。河川に侵入して種子が拡散される場所への持ち込みを行うべきではない。	FAOと群馬県はナヨクサフジ。群馬県ではナヨクサフジが絶滅危惧種の自生地に繁殖。牛が中毒を起こす場合がある。在来のクサフジ等、似た種類が多い。種子は風、雨、動物により分散。アレロパシー作用がある。	FAO:6、専門家:河原32、各県:群馬県、河川:9,16,27,4,4,2	世雑、便覧、帰化植物、牧草
21	112	ニガキ	ニワウルシ(シンジュ)	<i>Ailanthus altissima</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x									中国の北～中部原産、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリア。	1880年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出帰化。	10～25m、落葉高木	路面間隙、舗道の割れ目、河川敷、荒地、土手、丘陵の林縁、耕作放棄地、日当たりの良いところを好む。	庭木、公園樹、街路樹として栽培。群馬県では、第二次世界大戦前までエリサンという輸入蚕の飼料として利用されていた。高温、乾燥、寒気、公害に強く、寒冷地や煙害の強い工場地帯での利用が多い。	海外で侵略的とされ、日本でも河川等で密林を形成して、分布を拡大するとともに、雑木林への侵入も危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所から出芽する根萌芽で増殖する。ウルシ科ではないので、触れてもかぶれることはない。	根萌芽により密林の個体群を形成し、水流阻害、洪水誘発を起す危険性がある。雌雄異株。生長が速い。種子は風や水により散布される。横に伸びる根から出芽する根萌芽で増殖する。ウルシ科ではないので、触れてもかぶれることはない。	村中:C、専門家:雑木13、各県:埼玉・広島・群馬県、河川:37,68,70、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸書
22	141	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x									北アメリカ原産。	1952年に静岡に渡来。近年は飼料に混入し、北海道～九州に帰化。	数m、つる性の一年草	林縁、荒地、道端、原野、樹園地、造林地等に生育する。河川敷飼料畑に大群落。日当たりの良い肥沃な環境を好む。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。規制以前にも、利用に関する情報はなかった。	果実に刺がある。	外来法:特定、W100:日本、村中:A、対策:H20-51、H23-33、専門家:草原47、各県:青森・栃木・埼玉・兵庫・愛知・広島、河川:44,78,84	便覧、写真図鑑、外来生物	
23	150	アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x									北アメリカ東部原産、温帯～亜熱帯	1910年に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。	0.5m、一年草	道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸や河原などの砂地、鳥取砂丘で問題になっている。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	河川でも分布を拡大しているが、海浜については特に対策が必要。	外来法:要注意、村中:B、専門家:砂浜31、各県:愛知、河川:52,84,89、その他:藤井委員	便覧、帰化植物、外来生物	
24	174	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x									南ヨーロッパ原産、アフリカ南部、南アメリカ、大西洋諸島に分布、オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	明治時代に渡来、北海道、本州九州、四国、琉球。	長さ2m、つる性の多年草	観賞用に栽培されたものがしばしば逸出し、人家付近から杉林の林床まで、様々な場所に生育。積雪地帯での生育も旺盛で、半日蔭でも良く育つ。	園芸植物として渡来。様々な園芸品種が観賞用に利用される。全国的なカバープランツとしての利用度も高い。	花が綺麗であることから、野生状態でも容認されることが多い。しかし海外で侵略的な植物とされ、日本でも河川で分布拡大傾向にあり、草原の植物への影響も懸念されている。さらに耐陰性があることから、林床でも繁殖するので、自然環境の中で繁殖することのないよう、適切な管理が望まれる。	種子はあまりつらくない。	専門家:草原27、各県:愛媛、河川:13,26,50、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸書、JF、IPSW
25	178	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	寄生									北アメリカ原産、アジア、ヨーロッパ。	1970年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に帰化。	一年草、つる性の寄生植物	畑地、樹園地、牧草地、道端、荒地、河原、海浜、栽培植物	本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では希少種のハマナシカズラが生育するハマゴウ群落に侵入している。海浜の植物に影響がある場所では駆除が必要か。	外来法:要注意、7 対策:H20-4 各県:愛知・京都・広島・愛媛、河川:48,89,90	世雑、便覧、外来生物	
26	178	ヒルガオ	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-										熱帯アメリカ原産、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなど、温帯～熱帯に分布し、特に熱帯～亜熱帯に多い。	1945年以降に渡来、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布	一年草、つる性植物	畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。日陰に対する耐性もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	分布の中心は九州や東海で、大豆作で甚大な被害が生じている。農耕地から非農耕地への拡散も著しい。作物への混入による品質低下も著しい。	村中:C、河川:8,33,46	世雑、雑管、便覧、黒川委員、写真図鑑	
27	180	クマツヅラ	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-										南アメリカ原産。	1957年頃渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	2m、多年草	市街地の道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、磯地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では、絶滅危惧種が多く生育する河川敷の低湿地にも侵入するので問題とされた。奄美地域では林道沿いで増加。世雑ではヒメクマツヅラ <i>V. litoralis</i> の別学名となっている。その他別学名複数あり。	村中:C、各県:広島・愛知・宮崎・奄美、河川:26,67,74、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑	
28	184	ナス	チョウセンアサガオ属	<i>Datura</i> spp. (<i>Brugmansia</i> spp.)	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x									熱帯アメリカ産のものが多い。	日本には8種が帰化。北海道～九州、琉球に帰化。	一年草～低木	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、荒地、海岸等に生育。	おもに薬用植物として利用される。一年草をチョウセンアサガオ節、園芸植物として利用される多年草をキダチチョウセンアサガオ節またはキダチチョウセンアサガオ属、 <i>Brugmansia</i> に分ける見解もある。	薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。ゴボウ(根)、オクラ(つぼみ)、モロヘイヤやアシタバ(葉)、ゴマ(種子)と違って食べられた事例があるので注意する。	猛毒の神経毒を全草に含有するため、誤食による人体への影響が問題。少量の混入でも飼料全体を破棄せざるを得なくなる。愛知県では、ヨシチョウセンアサガオは被害が問題になるほど生育しておらず、増加もしていないとの記述。	外来法:要注意、FAO:11、各県:愛知、河川:チヨウセンアサガオ:1,2,4、ヨシチョウセンアサガオ:3,7,10、チヨウセンアサガオ:1,2	世雑、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、HP、外来生物、園芸書、JF、Ylist

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など		
29	184	ナス	ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産、温帯～熱帯	明治末期に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に帰化。	0.8m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、河原、市街地などに生育。乾燥や日陰に強い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			茎、葉の脈上、花序などに鋭い刺がある。ソラニンなどの有毒物質を含む。牧草に混入して分布拡大。	外來法:要注意、村中:B、FAO:7、対策:H20<4、H23.2、各県:埼玉・愛知・京都・鳥取・滋賀、河川:27,41,56	世維、雑管、写真図鑑、牧草
30	186	ゴマノハグサ	マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産、亜寒帯～熱帯	1941年渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	0.5m、一年草	牧草地、荒地、路傍、河川敷、芝生の中などに生育。日当たりのよい乾いた砂質土壌に多い。瀬戸内海沿岸でみられる。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			吉野熊野国立公園の七里御浜(第一種特別地域)など海岸線に侵入、繁茂、ゴルフ場などに発生して問題となることがある。種子の寿命が58年との記録あり。海外では牧草地の雑草。	各県:京都、河川:21,53,62	世維、便覧、写真図鑑、環境省、帰化植物
31	196	オオバコ	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											ヨーロッパ原産、オーストラリア等、熱帯～寒帯。	江戸時代末期に牧草種子に混入して渡来、北海道～九州、琉球で帰化。	0.7m、二～多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、市街地、空地、河原、草原、芝地、牧草地など、日当たりの良いところから日陰地まで生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			牧草地や芝地の雑草。草原への影響。	外來法:要注意、FAO:7、対策:H23.1、専門家:草原44、各県:北海道・青森・愛知・愛媛、河川:52,99,102	世維、花粉、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物
32	203	キク	オオブタクサ(クモドキ)	<i>Ambrosia trifida</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x										北アメリカ原産	1952年渡来、北海道～九州、琉球で帰化。	1～6m、一年草	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや湿り気のある場所に大きな群落を作る。	花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。			埼玉ではヨシヤスゲ類など湿性草原の植物を駆逐。愛知県でも低湿地の植物への影響が懸念。飼料穀物や豆類に混入して侵入。	外來法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:8、対策:H20.4、H23.5、専門家:草原48、各県:埼玉・千葉・愛知・京都・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、河川:41,79,86	世維、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物
33	203	キク	ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>sandwicensis</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産、南アメリカ、アジア、オセアニアなどの温帯に分布。	1960年代に渡来、80年代以降に増加、本州、四国、九州で帰化。関西ではホウキギクと置き換わっている場所が多い。	1.5m、一～多年草	路傍、空き地、河川敷、休耕畑、造成地。九州では休耕田、水田、イグサ田に発生する。ホウキギクと同様の場所に生え、混生することが多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			ホウキギクとの間でムラサキホウキギクと呼ばれる不稔の雑種ができる。別学名 <i>Aster subulatus</i> var. <i>ligulatus</i> 他。ホウキギクより後から侵入し分布を拡大。塩湿地への影響が懸念される。	村中:C、各県:埼玉・京都、河川:35,66,87	便覧、写真図鑑、Ylist
34	203	キク	ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>subulatus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産、南アメリカ、アフリカ、オセアニアに分布。	1910年頃に渡来、20年頃には増え、北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島。	1.5m、一～多年草	空地、埋め立て地、畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。明るいやや湿った所を好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			ヒロハホウキギクとほぼ同じ範囲に分布しているが、個体数はより少ない。ヒロハホウキギクとの間でムラサキホウキギクと呼ばれる不稔の雑種ができる。	村中:C、専門家:塩湿15、河川:53,84,83	世維、便覧、帰化植物、写真図鑑
35	203	キク	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-											北アメリカ原産、南ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。	1920年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球で帰化。	1.5m、一年草	湿った草地、水田、水路、休耕田、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育。一般に水辺や湿地に好んで生育。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			種子の寿命は16年に及ぶこともある。水田雑草として、イネや水辺の希少種	外來法:要注意、村中:C、対策:H20<4、H23.1、各県:北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・愛媛・奄美、河川:77,117,121	世維、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物
36	203	キク	ケナシヒメムカシヨモギ(ケナシムカシヨモギ)	<i>Conyza parva</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産。	1926年に牧野富太郎によって新変種として記載された。北海道、本州、四国、九州、琉球、西日本に多い。	1.5m、越年草	道端、空き地などの乾いた陽地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			海浜環境で群落を形成する場合、コマツヨイグサと同様に砂の安定化により植生遷移を進めてしまうおそれがある。ヒメムカシヨモギに似ている。別学名 <i>Conyza canadensis</i> var. <i>pusilla</i> 、 <i>Erigeron canadensis</i> var. <i>levis</i> 、 <i>Erigeron pusillus</i>	河川:11,21,20、その他:藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、Ylist
37	203	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x										北アメリカ原産	明治中期に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。	0.7m、多年草	河川敷、道路沿い、海岸などに大群落を作る。	園芸植物として渡来。ワイルドフラワー緑化等に使用されていた。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。			愛知県でも、カワラサイコやカラハハコを圧迫している。	外來法:W100:日本、村中:C、対策:H20.22、H23.27、専門家:河原42、草原40、各県:千葉・兵庫・愛知・鳥取・広島・佐賀、河川:19,58,86	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物
38	203	キク	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産、世界各地に帰化	江戸時代末期に渡来、明治初年には広く帰化。北海道～九州で帰化。	1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。	若芽は食用にできる。海外では薬用利用もある。国内でも流通がある。			農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。	外來法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:6、対策:H20.5、H23.1、専門家:草原51、各県:青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛、河川:78,119,121	雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、雑用

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
													原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など																
39	203	キク	ペラペラヨメナ(ペラペラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カルピンスキアス、源平小菊、ゲンベイコギク)	<i>Erigeron karvinskianus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-												中央アメリカ原産、アフリカ、ニュージーランド、ハワイ、ヨーロッパ	1949年渡来、本州、四国、九州、琉球で帰化	0.4m、多年草	農耕地、自然林、植林地、河岸、攪乱地、市街地、湿地に生育。日本では、石垣の隙間や川沿いの崖などに生える。箱根や伊豆では、川岸などの自然の岩場にも侵入している。	花卉として栽培される。源平小菊、ゲンベイコギク、エリゲロン・カルピンスキアスの名前で流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも自然の岩場に侵入して在来植物への影響が危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	メキシコヒナギクは琉球でつけられた名前。別学名 <i>Vittadinia triloba</i> 。	FAO:6、各県:広島、海外:ISSG	便覧、帰化植物、勝山委員、Ylist、JF、IPSW	
40	203	キク	マルバフジバカマ(ユーバトリウム・チョコレート)	<i>Eupatorium rugosum</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-												北アメリカ原産。	1896年に渡来、1916年に逸出し、北海道、本州、四国、九州で帰化。関東周辺に多い。	1m、多年草	市街地、路傍の石垣の間、日陰、特にスギ林の下によく生える。	強羅自然公園の植栽品から逸出したと推定されている。ユーバトリウム・チョコレート等の名前で流通している。	耐寒性や耐陰性があり、樹林内へも侵入することから、林床に生育する在来植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	箱根では樹林内に侵入している。Y-Listでは、 <i>Ageratina altissima</i>	その他:勝山委員	便覧、写真図鑑、勝山委員、Ylist、園芸事典	
41	203	キク	ウラジロチチコグサ	<i>Gamochaeta coarctata</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-												南アメリカ原産、新旧大陸に帰化	1970年代前半渡来、本州、四国、九州、琉球で帰化。1990年代から急速に分布を拡大。	0.8m、多年草	公園や庭、乾いた路傍、芝地に生育。都市近郊に多い、ハハコグサと競合。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		芝刈りが種子散布を助長。ブタナと同じような環境に繁殖している。自然生態系への影響は今のところ見られないが、分布の拡大が急速である。別学名 <i>Gnaphalium spicatum</i> 等。	各県:埼玉・広島、河川:15,34,63	便覧、写真図鑑、勝山委員、藤井委員、Ylist	
42	203	キク	キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-	x											北アメリカ原産、温帯～熱帯に分布。	食料植物等として江戸時代末期(1859年)に渡来、北海道～九州、琉球で帰化。	2.0m、多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、空地、土手、草原に群生する。肥沃で湿った場所を好む。	食用としては異臭があるが、漬物にすくとよいといわれる。イヌリンを多く含むので、糖尿病患者の野菜として公的とされ、イヌリンアルコールの原料にもなる。大部分は飼料作物として茎葉、塊茎とも利用するが、単位面積当たりの栄養価は高い。現在も流通している。	河原で繁茂して在来植物と競合、駆逐するとともに、農耕地の雑草にもなっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	H23:1はイヌキイモ <i>H. strumosus</i> 。日本で報告されるイヌキイモはキクイモに含められるとの説あり。いちど畑に植えると耐えさせるのが困難である。	外来法:要注意、村中:C、FAO:6、対策:H20<4、H23:1、各県:埼玉・愛知、河川:44,72,78	世雑、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸事典	
43	203	キク	ブタナ(タンポポドキ)	<i>Hypochaeris glabra</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		高山	-	-												ヨーロッパ原産、温帯に多く、熱帯～亜熱帯にも分布。	1933年渡来、北海道～九州、琉球に分布。	0.8m、多年草	草地、畑地、芝生、市街地に普通に発生し、寒地や山岳地帯で路肩を埋めることがある。耐寒性があり平地から高山地帯まで生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		*ISSGで <i>Hypochaeris radicata</i> 。愛知県でも一部やや自然度の高い草地にも侵入している	外来法:要注意、村中:B、FAO:6、対策:H20<4、H23:1、各県:広島・愛知・愛媛、河川:31,64,79、海外:ISSG*	世雑、便覧、写真図鑑、帰化植物	
44	203	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		高山	-	-												ヨーロッパ原産、アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。世界的にみられる。	江戸時代末期に渡来、北海道、本州、四国、九州で逸出、帰化。特に北海道に多い。	0.8m、多年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。	園芸植物として渡来、庭園で栽培。	海外では畑地の雑草となっている。日本では高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 、マーガレット(モクシユンギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。芝生種子等に混入もある。種子の生産量は多く、寿命が39年に及ぶとの報告がある。各地の国立公園で駆除が行われている。	村中:B、対策:H20.6、H23:1、専門家:草原33、各河川:20,53,67	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、Ylist、世雑	
45	203	キク	アラゲハンゴンソウ(キヌガサギク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー)	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-	x											北アメリカ原産	1930年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出、帰化。	0.9m、二年草	造成地、法面、牧場等に生育。全国の山岳道路沿いに見られ、北海道の原生花園やアポイ岳の麓にも生育。	園芸植物として渡来、グロリオサ・デージー・"Gloriosa Daisy" をはじめ、様々な園芸品種が利用されている。	山岳道路沿いに分布を拡大し、釧路湿原等の生物多様性の保全上重要な地域で駆除の対象になり、草原の在来植物との競合、駆逐が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	オオハンゴンソウの近縁種。アポイ岳の麓で採集、報告された。乗鞍など各地の重要地域で駆除が行われている。牧草種子または家畜飼料に混入して分布を拡大したとされる。	対策:H20<4、専門家:草原27、河川:1,06	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、有用、園芸事典	
46	203	キク	セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	<i>Solidago altissima</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-												北アメリカ原産	観賞用植物として明治時代(1897年頃)に渡来、大正末期から野生化。戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原で帰化。	2.5m、多年草	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増える等と繁茂する。	現在は一般的に栽培される種類ではないが、流通はある。		湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	花粉の飛散量は少なく、花粉症の影響は小さいとの説あり。湿原や草原に侵入して駆除の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ <i>S. canadensis</i> と混同された。	外来法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:6、対策:H20:17、H23:11、専門家:草原54、各県:北海道・青森・栃木・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎・奄美、河川:71,110,111	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸事典
47	203	キク	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> var. <i>leiophylla</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-												北アメリカ原産	明治中期(1880年頃)渡来、北海道～九州で逸出、帰化。	1.2m、多年草	原野、道端や、河川敷に発生。北海道ではセイタカアワダチソウより多い。	園芸植物として渡来。現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。		愛知県では今のところ自然生態系への影響は深刻ではない。 <i>Solidago gigantea</i> ssp. <i>serotina</i> 。北海道では、知床国立公園、ウトナイ湖、礼文島等で駆除が行われている。	外来法:要注意、W100:日本、村中:B、対策:H20<4、各県:北海道・愛知、河川:28,42,47	便覧、写真図鑑、帰化植物、Ylist	
48	203	キク	外来性タンポポ種群	<i>Taraxacum officinale</i> , <i>T. spp.</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		高山	-	-												ヨーロッパ原産、世界中に帰化	セイヨウタンポポ <i>T. officinale</i> は1940年に北海道に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。	0.4m、多年草	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。	セイヨウタンポポやカントウタンポポが流通している。野菜として利用される。	海外では侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポとの交雑が大きな問題とされている。こうした問題を引き起こす可能性がある場所へは、持ち込みを行うべきではない。		外来法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:6、対策:H20:14、専門家:草原45、高山23、交雑42、各県:北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・滋賀・愛媛、河川:66,105,115、海外:ISSG	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、JF、園芸事典	

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など						
49	203	キク	オオオナモミ	<i>Xanthium canadense</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											メキシコ原産、温帯～熱帯に分布。	1929年渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に帰化。	2m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地等に生育し、飼料畑で問題になっている。	JFにはオナモミ <i>Xanthium strumarium</i> が掲載されている。オナモミは薬用や食用にされることがある。		オナモミ(絶滅危惧類(VU))と競合、駆逐、交雑。埼玉ではキタミソウ(絶滅危惧類(VU))の生育地を圧迫。	外来法:要注意、W100:日本、村中:B、FAO:7、各県:埼玉・愛知・京都・広島・愛媛、河川:61,97,100	世雑、雑管、便覧、写真図鑑、JF、外来生物、有用
50	205	トチカガミ	オオカナダモ(アナカリス)	<i>Egeria densa</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		池沼	-	-											南アメリカ原産、温帯	大正時代に渡来、本州～九州、琉球で帰化。京都の深泥池で繁茂。	多年草、沈水植物	湖沼、河川に生育する。日当たりの良い、浅い、停滞水域を好む。	観賞用に販売、利用される。魚の餌、植物生理の実験材料に利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	外来法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:9、対策:H20<4、H23:1、専門家:水生41、各県:埼玉・愛知・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎、河川:30,60,70、海外:ISSG	世雑、便覧、外来生物、JF
51	205	トチカガミ	コカナダモ	<i>Eloдея nuttallii</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		池沼	-	-											アメリカ北東部原産、温帯	昭和の初めに入り、本州、四国で帰化。尾瀬沼で繁茂	多年草、沈水植物	湖沼、河川、池、溝、水路に生育する。日当たりの良い、流水～停滞水域、浅水を好む。	魚の餌、植物生理の実験材料に利用。観賞用の水草として利用されることがある。	河川で分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	外来法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:9、対策:H23:1、専門家:水生40、各県:埼玉・愛知・鳥取・広島・滋賀・愛媛、河川:25,55,62	世雑、雑管、便覧、JF、園芸事典、外来生物、世水
52	211	ユリ	シンテッポウユリ(新鉄砲ユリ、タカサゴユリ)	<i>Lilium x formolago</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											テッポウユリ <i>L. longiflorum</i> とタカサゴユリ <i>L. formosanum</i> の交雑種由来。「タカサゴユリ」と呼ばれているものの中には雑種由来の本種が含まれると考えられる。	本州、四国、九州で逸出帰化。タカサゴユリは1924(大正12)年に降種子が導入され、切り花用に栽培されたが、シンテッポウユリが普及するにつれて廃れた。シンテッポウユリは1939年頃に作出され、1970年代から増えしてきた。	1.5m、多年草	路傍、道路の法面、石垣の隙間などに生育。タカサゴユリは、原産地の台湾では開けた草地から高山まで広く分布。群馬県ではタカサゴユリが山間部へ分布を広げつつある。	シンテッポウユリ、タカサゴユリともに球根が流通している。	花が美しいため駆除の対象になりやすいが、繁殖力が強く、分布を拡大する傾向にある。近縁種のユリ属の中には、ウケユリ <i>Lilium alexandrae</i> などの絶滅危惧種が多く含まれ、これらに対する遺伝的攪乱が危惧される。こうした種類と交雑する可能性がある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	希少種のウケユリが生育する奄美への侵入が危惧される。JFや園芸事典では学名は <i>Lilium x formolago</i> 、タカサゴユリは <i>Lilium alexandrae</i> とされている。容易に結実して多数の種子がとれる。種子は軽いので遠方に散布しやすい。	対策:H20<4、各県:広島・愛媛・群馬・奄美、河川:0,1,3,9,24,24	便覧、帰化植物、Ylist、園芸事典、JF
53	216	ミズアオイ	ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス)	<i>Eichhornia crassipes</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		池沼	-	-											熱帯アメリカ原産	明治年間(一説では江戸時代)に渡来、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、浮遊性の多年草	富栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面。	観賞用として渡来。ピオトープや水質浄化にも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、基本的には自然水域へ持ち込むべきではなく、利用する場合には逸出しないよう適切に管理する。	種子ができない場所も多い。	外来法:要注意、W100:IUCN、日本、村中:A、FAO:12、対策:H20.6、H23.4、専門家:水生38、各県:千葉・愛知・兵庫・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎・奄美、河川:22,34,51、海外:ISSG	雑管、便覧、帰化植物、外来生物、JF、園芸事典
54	217	アヤメ	ヒメヒオウギズイセン(ヒメヒオウギズイセン、モントブレチア)	<i>Crocossmia x crocosmiiflora</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											南アフリカ原産、フランスで19世紀に、ヒオウギズイセン <i>C. aurea</i> と、ヒメトウショウブ <i>C. pottsii</i> と交雑によって作られた園芸品種群、アメリカやアジアに帰化。	明治中期(1890年頃)に渡来、北海道、本州、四国、九州で逸出帰化。	0.8m、多年草	花壇の付近や庭の庭跡など各地で逸出、海岸の草地などに大群落をなして野生化。極めて強健で、ときには荒地や山野で半野生状態になっている。耐寒性は強い。	様々な園芸品種が、花壇等で観賞用に栽培される。	海外で環境雑草となり、日本でも野生化し、河川では分布を拡大、海岸の草地にも繁殖している。このような環境に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されることから、こうした影響を及ぼすおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>Tritonia x crocosmiiflora</i> 。ハワイでは一般的な雑草とされる(GAWW)。オーストラリアやニュージーランドでは環境雑草とされる。ストロンの先に生じた球茎により急速に増殖する。	各県:佐賀、河川:35,68,76	便覧、帰化植物、Ylist、JF、園芸事典、GAWW、GCW
55	217	アヤメ	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-											ヨーロッパからアジア原産、世界各地の水湿地で観賞用に栽培される。	1897(明治30)年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出帰化。	1.2m、多年草	湖沼、ため池、河川、水路、水田湿った畑地、林縁など周辺で繁殖し、湿原や草地にも侵入。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適する。	園芸植物として渡来。民家や公園に植栽される。花が綺麗なため水辺に植えられ、様々な園芸品種がある。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適するとされる。	花が美しいので水辺に植えられ、海外では侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。近縁の絶滅危惧種のカキツバタ等の遺伝的攪乱や、これらを含む水辺や草原の在来植物との競合、駆逐が危惧されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所へは持ち込むべきではない。	地下に横にはう太い根茎があり、分枝して繁殖する。	外来法:要注意、W100:日本、村中:B、FAO:10、対策:H23:2、専門家:水生16、草原38、各県:北海道・青森・埼玉・愛知・広島・佐賀、河川:54,88,98、海外:ISSG	世雑、帰化植物、外来生物、園芸植物、JF
56	224	イネ	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-											北アメリカ原産、暖帯～熱帯	1940(昭和15)年頃に入り、本州(関東以西)、四国、九州。	多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりが良く、土壌が乾いた所に多い。	海外では砂防や牧草に利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。		埼玉では雑木林にも侵入し、センブリ群落を駆逐。愛知県では希少種のウメケ(絶滅危惧類(VU))やウメケモドキ(準絶滅危惧類(NT))と競合。	外来法:要注意、村中:C、対策:H23:1、専門家:草原45、湿地10、各県:栃木・埼玉・愛知・鳥取・広島・愛媛、河川:44,81,93、海外:ISSG	世雑、外来生物、有用

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など								
57	224	イネ	ハルガヤ(スイートバーナルグラス)	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														ヨーロッパ-シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南米等で侵略的。	明治初年に入り、北海道-九州、四国で逸出帰化。寒冷地に多い。	0.7m、多年草	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、林内に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。	牧草として導入されたが、生産性は低くあまり重要視されていない。緑化に利用される。甘みや香りを利用したハーブとして流通、利用されている。	海外で侵略的とされ、日本でも河川等で分布を広げている。耐寒性があり、山地にまでみられることから、自然性の高い草原へ侵入し、在来種と競合し、駆逐することが懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みは、行うべきではない。	村中:B、FAO:7、専門家:草原40、各県:青森・広島、河川:28,62,70	世観、便覧、帰化植物、花粉、牧草、IPSW、JF	
58	224	イネ	コバンソウ(タワラムギ)	<i>Briza maxima</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														ヨーロッパ原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカの温帯、オーストラリアで侵略的。	1868(明治初)年に導入。北海道、本州、四国、九州	0.6m、一年草	畑地、庭、路傍、荒地、草地、沿海地に生育。日当たりの良い所を好み、耐旱性があり、土壌の種類を選ばない。	花壇用またはドライフラワー用に導入。栽培される。耐寒性が強く、きわめて栽培しやすい。	海外で雑草化しており、日本でも河川等で分布を拡大している。海岸砂浜や自然草地に侵入して、在来植物と競合、駆逐するおそれがある。こうした環境に侵入する恐れのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	村中:C、専門家:砂浜20、河川:28,55,68	世観、便覧、JF、写真図鑑、イネ、IPSW、園芸事典	
59	224	イネ	ヒメコバンソウ(スズガヤ、ユレクサ)	<i>Briza minor</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														ヨーロッパ原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカの温帯-暖帯	江戸時代末頃に帰化。1867(慶応3)年には記録がある。本州、四国、九州、琉球	0.6m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地、草地、海岸、山中の草原に生育。日当たりのよい所を好み、乾燥地にも適応。	観賞用に流通、栽培される。耐寒性が強く、きわめて栽培しやすい。	海外で雑草化しており、日本でも河川等で分布を拡大している。海岸砂浜や自然草地に侵入して、在来植物と競合、駆逐するおそれがある。こうした環境に侵入する恐れのある場所への持ち込みは行うべきではない。	河川:36,72,79	世観、勝山委員、JF、イネ、園芸事典	
60	224	イネ	シナダレスズメギヤ(ウイーピンググラス、セイタカカゼクサ)	<i>Eragrostis curvula</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														アフリカ南部原産。温帯-熱帯	1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球	1.2m、多年草	牧草地、路傍、荒地、河原等に生育。日当たりの良い、砂質土壌を好む。	栽培用に品種改良され、世界的にはやせ地の飼料生産に利用されるが草質が良くないため、日本では牧草よりも砂防用に導入され、高速度道路や宅地造成地の土どめ用に利用された。近年は生態系への影響を配慮され、あまり利用されなくなった。	河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。砂の堆積を促進することで、生態系の物理的な基盤を変化させる。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	愛知県ではスキのような大型の植物まで駆逐。河原に生育するカワラノギク(絶滅危惧類(VU))やカワラニガナ(準絶滅危惧(NT))への影響が危惧される。	外来法:要注意、W100:日本、村中:A、FAO:8、対策:H20<4、専門家:河原46、各県:埼玉・愛知・兵庫・広島・愛媛・佐賀・奄美、河川:61,104,107、三省:環・農・林・国都・国道	世観、便覧、外来生物
61	224	イネ	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	Dまん延期	掲載	限定対策		湿原	-	-														北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、ニュージーランド等、温帯を中心に亜熱帯にまで広がる	1927年に千葉県に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.0m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、河川敷に生育。日当たりの良い所、湿った所を好む。水田周辺、道端などに普通な雑草となっている。	1970年代には転換畑での飼料作物として盛んに試作された。水田転換畑に好適な草種とされる。生草、乾草、サイレージに利用される。	河川敷への侵入が問題となっている。湿った場所を好むことから、希少種等が生育する湿地への侵入も懸念される。こうした場所を防止しないよう、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用の際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。	関西の河川では、攪乱後に大群落を形成して他植物を圧倒する。湿地でも旺盛に生育することから、水田での雑草化が早くから懸念されていた。	村中:B、各県:広島、河川:63,105,107	世観、写真図鑑、粗飼料、牧草、藤井委員
62	224	イネ	モウソウチクなどの竹類	<i>Phyllostachys edulis</i> , <i>Phyllostachys</i> spp.	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														モウソウチクは中国原産。マダケP. reticulataや中国原産説もあったが日本原産らしい。ハチクP. nigra var. henonisは中国原産説と日本原産説がある。	モウソウチクは江戸時代に渡来。北海道南部から九州で栽培、逸出。マダケは本州、四国、九州、沖縄で栽培。ハチクは北海道中部以南から沖縄で栽培。	約20m、超大型草本	植林地、里山の二次林や自然林にも侵入し、林床の環境も変えてしまう。	節としての食用、竹材、物を包むのに皮が利用される。	既にある竹林については、放棄すること(適正に利用、管理されることが望ましい)、適切な管理が持続できない場所への新たな持ち込みは行わうべきではない。	広島県では、竹類のうちマダケとハチクが特に二次林等に侵入、拡大し、環境を改変することで問題になっている。	村中:B、FAO:7、対策:H23.1、専門家:雑木47、各県:埼玉・愛知・広島	便覧、樹の花S
63	224	イネ	セイバンモロコシ(ジョンソングラス)	<i>Sorghum halepense</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														ヨーロッパの地中海沿岸原産。温帯-熱帯	飼料植物として1943(昭和18)年に渡来。本州、四国、九州、琉球、小笠原。	2m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、堤防、灌漑路の周辺に生育。温暖、湿潤、多雨地帯で日当たりの良い所を好む。	牧草として利用されることがあるが、若い茎葉や生育不良の新鮮葉は青酸を含むことがあり、家畜が中毒を起こすことがあるので注意が必要である。モロコシS. bicolorとの交雑が試みられ、耐寒性がある二倍体の多年草が牧草として育成されている。	世界的な強毒草とされており、日本でも河川で分布を拡大し、草原に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されている。牧草利用の際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。	芒のない型をヒメモロコシ(ノギナシセイバンモロコシ) f. muticumという。群馬と*はノギナシセイバンモロコシ。世界的に知られた畑の強毒雑草。	村中:B、FAO:6、対策:H23.1、専門家:草原32、各県:埼玉・広島・群馬*、河川:47,71,74、3,8,26* 海外:ISSG	世観、便覧、帰化植物、写真図鑑、牧草、JF、有用
64	224	イネ	ナギナタガヤ(ネズミシツバ)	<i>Vulpia myuros</i>	Dまん延期	掲載	限定対策			-	-														ヨーロッパ、北アフリカ、西アジアの減産。温帯-暖帯。オーストラリアでは侵略的となっている。	明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球。	0.6m、一年草	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。	密な群落を作って他の雑草を抑えるため、近年は果樹園や道端の雑草防除法の一つとして、改良品種を含むナギナタガヤが、流通、販売され、栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。大量に利用されるようになることで、生物多様性の保全上重要な地域にも侵入するおそれがある。果樹園等で利用する際には利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。	これまでナギナタガヤはそれほど大きな問題にはなっていないが、大量に種子が撒かれることにより、周辺への影響が心配される。温帯域の畑地、牧草地の雑草となっている。	村中:B、各県:奄美、河川:52,91,98	世観、勝山委員、便覧、写真図鑑、IPSW
対策優先種、限定対策種以外の対策が必要な外来種																																	
65	47	カバノキ	ヨーロッパハンノキ(オウシュウクロハンノキ)	<i>Alnus glutinosa</i>	A未定着	掲載			湿原																ヨーロッパ、コーカサス、シベリア西部原産	-	20m、落葉高木	湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。	青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	海外:ISSG	便覧、有用、園芸事典、JF	

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
										生物	輸入	競合	交雑	気候	気候	気候	気候						気候	気候	気候	気候						気候	気候
66	50	クワ	フランスゴムノキ	<i>Ficus rubiginosa</i>	A未定着	掲載						()			()									オーストラリア原産、ヨーロッパや北アメリカに導入。	-	30m、常緑高木	自然林、植林地、川岸、低木林、市街地。環境への適応の幅は広い。	日本で観賞用に販売されている。海外では、日陰樹等として広く植えられる。	海外で侵略的な外来種とされており、動物により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	種特異的な受粉者がいないと種子をつけない。同じイテジク属のガジュマルは、小笠原で問題になっている。	海外:ISSG	JF	
67	99	ベンケイソウ	クラッスラ・ヘルムシー	<i>Tillaea helmsii</i>	A未定着	掲載			湿原			()	x		()									オーストラリア、ニュージーランド	-	0.2m、水草	湿地や水辺を好んで生える。水槽内での栽培の難易度は普通。	日本でもアクアリウムで利用。	海外で侵略的な外来種とされており、水により断片が散布されること等から、自然水域への持ち込みは行うべきではない。	アズマツメクサと同じ仲間。ISSGでは <i>Crassula helmsii</i> 、和名(通称名)は本学名による。 <i>Tillaea</i> アズマツメクサ属の数が日本で採集されている。	海外:ISSG	水草、勝山委員	
68	118	カエデ	ノルウェーカエデ(ヨーロッパカエデ)	<i>Acer platanoides</i>	A未定着	掲載						()			()									ヨーロッパからカフカス地域に広く分布。北米の自然林に侵入し、侵略的となっている。	-	落葉高木	海岸、自然林、植林地、攪乱地、市街地に生育。湿潤な温帯地域に生育。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐陰性や耐干性があり、病気への耐性があり、海岸にも生育する。	庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年庭木等として用いられている。	海外で侵略的な外来種とされており、風により種子が散布され、浅く張った根茎が在来種の生育を阻害し、葉から土壌微生物に影響を及ぼし、在来種の生育を阻害する毒素を放出する。北アメリカでは下層植生の衰退が報告されている。冷温な地域において、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。雌雄同株。	海外:ISSG	有用、JF、日本造園学会	
69	118	カエデ	アメリカハナノキ(ベニカエデ)	<i>Acer rubrum</i>	A未定着	掲載						()			()									米国北部、カナダ原産。	-	落葉高木	沼沢地や川岸に生える。	庭木、公園樹、並木として利用される。	絶滅危惧種ハナノキの遺伝的攪乱を引き起こすことから、ハナノキの生育場所の周辺には持ち込まないか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	絶滅危惧種(VU)のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こしている。	その他:勝木委員	樹木、日本生態学会第60回全国大会(2013)講演要旨	
70	135	グミ	ホソグミ(ロシアンオリーブ)	<i>Elaeagnus angustifolia</i>	A未定着	掲載			湿原			()			()									ヨーロッパ南部から西アジアに分布。合衆国で河川を中心に急速に増加。	-	低木	農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地に生育。実生には耐陰性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本との競争に耐え、萌芽生長により広がる。	日本でも、観葉植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にする。	海外で侵略的な外来種とされており、窒素固定能力があるとともに、水や鳥、小型哺乳類動物により種子が散布される。自然水域や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。	海外:ISSG	有用、Ylist	
71	139	ギョリュウ	タマリクス属雑種(ギョリュウ)	<i>Tamarix x hybrid</i>	A未定着	掲載			湿原			()	x		()										農業地域、沿岸地帯、荒地、河口、湖岸、河岸域、攪乱地、市街地、水路、湿地	-	落葉低木	農業地域、沿岸地帯、荒地、河口、湖岸、河岸域、攪乱地、市街地、水路、湿地	日本では、通称名ギョリュウで種名不明なものも流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、水辺の生物や水利用への影響が大きいことから、自然の河岸等や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	<i>T. ramosissima</i> (Worst100で要注意外来生物)と <i>T. chinensis</i> ギョリュウを両親または片親とするすべての雑種。	外来法:要注意、W100: Hybrid Tamarix widespread in U.S. invasion and undetected in native Asian range. PNAS 99:11256-11259.	JF、J. F. Gaskin and B. A. Schaal. 2002. Hybrid Tamarix widespread in U.S. invasion and undetected in native Asian range. PNAS 99:11256-11259.
72	224	イネ	ビーチグラス	<i>Ammophila arenaria</i>	A未定着	掲載						()	x		()									ヨーロッパ海岸地域、北米東部に分布	-	1.2m、多年草	砂丘の砂留めに栽植される。	日本でも販売されている?海外では、砂丘の砂留めに栽植される。一部の地域では、家屋の屋根、籠、椅子の座布団などに利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、海水で分布拡大すること等から、日本の海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。		海外:ISSG	有用	
73	57	タデ	カライタドリ	<i>Fallopia forbesii</i>	B定着初期/分布限定	掲載																		朝鮮、中国原産	八甲田山の後藤伍長銅像のある銅像茶屋からみちのく深沢温泉までの車道を拡幅した法面緑化工事に種子吹き付けて群生地が発生した。	別の手道沿いにも発生しているため、分布域が広がって来ていると推測出来る。	日本では、法面緑化工事に利用。	海外で侵略的な外来種とされており、日本のイタドリと同様に、本種も日本で侵略的となる可能性が高いと考えられる。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	交雑による遺伝的攪乱が懸念。青森県では国立公園内で蔓延することは望ましくないとしている。青森県では学名が <i>F. forbesii</i> となっているが誤り、別学名 <i>Polygonum reynoutria</i> var. <i>elliptica</i> , <i>Reynoutria forbesii</i> , <i>Reynoutria japonica</i> 、海外では日本のイタドリ <i>Fallopia japonica</i> が侵略的となっている。	各県:青森	Ylist		
74	61	ハマミズナ	バクヤギク(エデュリス、莫邪菊)	<i>Carpobrotus edulis</i>	B定着初期/分布限定	掲載							x											南アフリカのケープ地方が原産。ヨーロッパ、オーストラリア、合衆国西部等で侵略的となっている。	愛知県の渥美半島先端部の砂浜に一時かなり広がった。	浸食防止、観賞用、被覆植物として利用され食用や薬用にもされる。日本でも、流通、市販されている。	海外で侵略的な外来種とされており、海浜の生態系への影響が大きく、動物により種子が散布されること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	ハギクソウやハマツツボへの影響が懸念。カルボフロツス属は丈夫で生長が速い。鉢植えではなかなか着花しないが、春に地植えすると夏頃に咲く。土壌のpHや養分条件を変える。	各県:愛知、海外:ISSG	JF、園芸事典、IPSW			
75	92	モウセンゴケ	ナガエモウセンゴケ(ナガエ/モウセンゴケ、ドロセア、インターメディア)等の外来モウセンゴケ類	<i>Drosera intermedia</i> , <i>Drosera</i> spp.	B定着初期/分布限定	掲載			湿原															北アメリカ、ヨーロッパ原産。	岡山県等で問題になっている。	15cm、多年草	ミスゴケ類が育つような湿地に生育。	観賞用に利用されている。	重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ <i>D. rotundifolia</i> との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地への影響も大きいことから、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ <i>D. rotundifolia</i> との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地への影響も大きいことから、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	対策:H20<4、H23.3、専門家:湿地21、各県:千葉、(ナカエウセンゴケ)岡山・愛媛	便覧、写真図鑑、園芸事典	
76	93	ケシ	ハカマオニゲシ(ポタンケシ)	<i>Papaver bracteatum</i>	B定着初期/分布限定	掲載																		イラン原産。	千葉県では平成以前に侵入し、生育量はごく少ない。千葉県以外でも、誤って栽培されている可能性はある。	近縁種のアニゲシ <i>P. orientale</i> は一般的に栽培されているの、誤って混在している可能性がある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されているが、近縁種のアニゲシまたはオニゲシとの交雑で作られた園芸品種との区別が困難なため、誤って流通し、観賞用に栽培されたり、逸出することがある。	不正栽培または自生しているけしを発見した場合は、各地方厚生(支)局、麻薬取締部(支所)、都道府県薬務主管課、保健所、警察署へ連絡することになっている。	麻薬取締法の対象種。園芸事典では、オニゲシ <i>P. orientale</i> の別名とされ、中間形があるため区別が困難とされている。	各県:千葉	便覧、園芸事典、(西田委員)		

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など
77	103	マメ	ナガバアカシア	<i>Acacia longifolia</i>	B定着初期 /分布限定	掲載				-	-	x	()	()							オーストラリア、タスマニア原産。ニュージーランド、南アフリカ、スペイン、ポルトガル、ブラジルで、侵略的。	本州(山口)で逸出、南房総で越冬。	8m、常緑小高木	温帯性。暖地では野外で越冬。窒素を固定。海岸部の山火事が起き易い場所に生育し、河川敷、低木林、草原、森林にもみられる。年間降水量550mm以上は必要。潮風に耐える。	観賞用や砂丘の安定化のために植えられる。いくつかの変種がある。苗木入手やや難。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、動物や水により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	本種には、いくつかの変種がある。	海外:ISSG	便覧、有用、園芸事典、JF、熱帯花木
78	103	マメ	メラノキシロンアカシア(ブラックウッドアカシア)	<i>Acacia melanoxylon</i>	B定着初期 /分布限定	掲載				-	-	x									オーストラリア原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、インド洋、太平洋、南アメリカ、アメリカ合衆国内に分布。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。斜面下部では、同時に植栽されたクスギヤコナラなどを被陰してほぼ純林を形成している。	35m、常緑高木	農耕地、沿岸地帯、河口、自然林、植林地、草原、河岸、攪乱地、低木林、市街地、湿地。常緑のアカシアの中では比較的低温に耐えるので関東以西の沿岸部などの気温が低下しにくい場所では越冬できる。寒さにはかなり耐える。東京でも越冬。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。暖地では、マツクイムシの被害跡地などの植栽に有望とされる。原産地では建築材として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。		海外:ISSG	園芸事典、熱帯花木、岡山理科大学生物地球学部生物地球学植物生態学(渡田研) http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetale/leguminosae/melanoxylon/melanoxylon.htm
79	103	マメ	シュコンルピナス(ルピナス、タヨウハウチワマメ、ノボリソ)	<i>Lupinus polyphyllus</i>	B定着初期 /分布限定	掲載				-	-	x									北アメリカ、カナダ原産。ヨーロッパ、南オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	渡来年代不明、北海道で逸出帰化。	1.5m、多年草	草原、林縁、森林、農耕地、攪乱地、荒地。	園芸植物として栽培。花色別の園芸品種がある。飼料や緑肥にもされる。	海外で侵略的な外来種とされており、日本では草原への影響が問題とされていること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	専門家の回答はルピナス。北海道ではシュコンルピナスはA3、キバナルピナスL. <i>luteus</i> はD、志賀高原で対策が行われている。	対策:H20<4、28、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、IPSW
80	122	ツリフネソウ	アカボシツリフネ(アカボシツリフネソウ、ケーブツリフネ、ケーブツリフネソウ)	<i>Impatiens capensis</i>	B定着初期 /分布限定	掲載			湿原	-	-										北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、帰化が知られている。	1992年渡来、千葉県野田市利根運河で大群落。	0.4-2m、一年草	湿生植物への影響が懸念。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、帰化。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性はある。		在来種のキツリフネI. <i>noli-tangere</i> によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリンツリフネI. <i>biflora</i> の帰化の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。	各県:千葉	便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW
81	150	アカバナ	アメリカミズユキノシタ(ルドウィジア・レベンス)	<i>Ludwigia repens</i>	B定着初期 /分布限定	掲載			池沼、湿原	-	-										北アメリカ-メキシコ-西インド諸島原産。	1970年頃渡来、神奈川県(深泥池)で帰化。	多年草、水草	湖沼や水路等の水辺に生育。	アクアリウム用の観賞植物として栽培。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、日本では湿地への影響が懸念されていること等から、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	外来法:要注意、村中:B、対策:H20<4、H23.1、専門家:水生12、河川:0,0,1	便覧、写真図鑑、GCW	
82	157	セリ	ブラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	B定着初期 /分布限定	掲載			池沼、湿原	-	-										南アメリカ原産。	1998年頃に渡来、熊本に帰化。	長さ1m以上、水生の多年草	川岸や水湿地を好む	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		外来法:特定、村中:B、対策:H20<4、H23.4、専門家:水生19、各県:兵庫・佐賀、河川:0,0,1	便覧、写真図鑑	
83	184	ナス	ダイオウナスビ	<i>Solanum mauritianum</i>	B定着初期 /分布限定	掲載				-	-					()					アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ等	静岡県南伊豆町で、分布を拡大中	10m、低木	農耕地、沿岸、自然林、植林地、河岸、攪乱地、市街地に生育。国内では、谷沿いのモウソウチク林に生育。二次林内であるが、樹林内に広がり、種子繁殖している。	農業試験場で栽培されていた可能性がある。	全草が有毒だが、特に果実が人間にとって有毒。	海外:ISSG、その他:勝山委員	大西:勝山(2011)J. Jpn. Bot 86:253-255.勝山委員	
84	186	ゴマノハグサ	ハビコリハコベ(グロソスティグマ)	<i>Glossostigma elatinooides</i>	B定着初期 /分布限定	掲載			池沼、湿原	-	-	x									オーストラリアの北部、ニュージーランド、アフリカの一部に分布	2008年に愛知県豊川用水で確認。	1cm、水生の多年草	水生の絶滅危惧種への影響が危惧される。	観賞用に用いられる。	シラタマホシクサのような希少種が生育する貴重な生態系である湿地への影響が懸念されていることから、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	各県:愛知	写真図鑑	
85	193	タヌキモ	オオバナイトタヌキモ(ウトリクラリア・ギッパ)	<i>Utricularia gibba</i>	B定着初期 /分布限定	掲載			湿原	-	-										東南アジア、オーストラリア、アフリカ、アメリカ大陸に分布	1930年代にアメリカから観賞魚に随伴して侵入。食虫植物マニアによる栽培から逸出、水草類の随伴種としても侵入、兵庫県で帰化。	浮遊性の一年草	愛知県では希少種のミカワタヌキモの生育地への持ち込みが危惧されている。	観賞用に市販、流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、希少種のミカワタヌキモとの競合・駆逐等が懸念されていることから、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	在来種のイトタヌキモssp. <i>cxoleta</i> の基本種で、種別しない見解もある。食虫植物。	各県:愛知、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、JF
86	193	タヌキモ	エフクレタヌキモ	<i>Utricularia intermedia</i>	B定着初期 /分布限定	掲載			池沼、湿原	-	-										北アメリカ東部原産	1990年に静岡県磐田市で野生化したものは、その後消失した。それ以前から兵庫県、大阪府でも野生化が確認。	多年生の水草	池や湿地に生育する。	観賞用に利用されている。タヌキモ属は、種名が不明なものも含めて、近縁種が多数栽培されている。	希少種のタヌキモ類や、貴重な生態系である湿地への影響が大きいことから、自然環境への持ち込みは行うべきではない。	専門家は外来ミカキグサ類。その他:環境省では、タヌキモ属は種名が不明なものも含めて近縁種が多数栽培されているため、属単位で指定することが適当とあるが、在来種のタヌキモ属との識別が困難なため、特に本種を選定した。自然に分布を拡大する可能性は低い(帰化植物)。タヌキモ属は、種子が風、水、鳥で散布される(園芸事典)。	専門家:湿地8、その他:環境省、角野委員	便覧、写真図鑑、帰化植物、環境省、角野委員

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献、

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

Table with columns: No., 科番号, 科名, 和名(別名、流通名), 学名, 定着状況, 掲載種(案), 対策, 産業管理, 脆弱環境, 定着可能性, 生態系被害, 分布拡大・拡散, 重要地域, 人体, 経済産業, 利用, 付着・混入, 生態的特徴 (原産地や分布, 日本での分布, 生活型, 生育環境など), 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等.

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など						
98	65	アカザ	ホコガタアカザ	<i>Atriplex prostrata</i>	C分布拡大期	掲載				-	-							()				ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリアやニュージーランドで雑草化。	1940年渡来。北海道～九州の一部に帰化。	0.8m、一年草	海岸の裸地や海岸埋立地に群生。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		砂浜での回答は外来ハマアカザ類、別学名 <i>A. hastata</i> 。	専門家: 砂浜 5、塩沼7、河川: 8,14,24	便覧、写真図鑑、Ylist、帰化植物、世雄、GCW
99	66.1	サボテン	ウチワサボテン属	<i>Opuntia</i> spp.	C分布拡大期	掲載				-	-	x										アメリカ大陸の広範囲に250種。	長野県にヒラウチワ(単刺団扇) <i>vulgaris</i> 、沖縄県北大東島にセンニンサボテン <i>O. stricta</i> 、香川県などに種小名不明が帰化。	数mの木になるものもある。	種類によっては耐寒性があり、暖地では野外で生育する。在来の海浜植物を圧迫。愛知県では沿岸域における移入種として、ウチワサボテン属が赤鳥帽子 <i>O. rufida</i> のように漢字の規制の対象となっている。	海外では産業的に重要な種が多く、果実、若い莖節を食用の目的で栽培されるほか、家畜の飼料として、庭の植え込みや利用する。日本でも、単刺団扇 <i>O. vulgaris</i> や赤鳥帽子 <i>O. rufida</i> のように漢字の園芸名がつけられて栽培されるものが多数ある。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布され、日本では、剪定した枝やいらなくなった株が野外に投棄されて逸出したと考えられる。海浜植物や人への悪影響が懸念されることから、こうした環境へ侵入することのないよう、植物体や果実を放置しない等の適切な管理が必要である。	サボテン科の中で最大の属。種類が多く同定困難。センニンサボテンが要注意で IUCNワースト100、ISSGは <i>O. cochenillifera</i> 、 <i>O. ficus-indica</i> 、 <i>O. monacantha</i> 。	外来法: (要注) W100: (IUCN)、対策: H20<4、各県: 愛知、海外: ISSG	観葉、便覧、園芸書典、JF
100	78	メギ	ヒラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。	1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。	3m、常緑低木	実生、挿木などで繁殖。半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。	本属では日本で最も広く栽培されている。庭園や公園に普通に植栽。	河川でやや増加傾向にあり、半日陰を好むこと等から、雑木林への影響が危惧されている。このような環境へ侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	別学名は <i>Mahonia japonica</i> 、近縁種のセイヨウヒラギナンテン <i>M. aquifolium</i> はヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつかの県で影響が危惧されている。	専門家: 雑木 11、河川: 3,9,15	便覧、有用、木本、樹木、園芸書典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会
101	81	スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> cv.	C分布拡大期	掲載			池沼	-	-							()				園芸植物として渡来しているが、渡来年代は不明。セイヨウスイレン(熱帯スイレン) <i>N. x hybrida</i> が広島と徳島で逸出帰化。キバナスイレン <i>N. mexicana</i> が徳島で逸出。愛知県でも野外でしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い、在来の水草の生育に多大な影響を与えている。その他にも各地で生育しているが、外来種との認識がうすく、逸出と植栽の境界が明確でないため、詳細は不明。	約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布する。	浮葉性の多年草	湖沼、水路、人里近くのため池などに多い。	観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温室で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒツジグサと交配した品種も多い。種子や根茎はデンプンを多く含み、食用にされることもある。根茎は薬用にも利用される。	花が美しいため、ため池などにも植えられやすいが、海外で様々な種類が侵略的な外来種とされており、日本でも絶滅危惧種を含む水生生物への影響が懸念されている。セイヨウスイレン <i>N. alba</i> がスリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ロシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. strelata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。	愛知県は在来種のヒツジグサを除くスイレン属、名古屋では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒツジグサ <i>N. odorata</i> が侵略的とされている(ISSG)。ヨーロッパで <i>N. alba</i> が、スリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ロシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. strelata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。	対策: H20<4、各県: 水産 31、各県: 愛知、海外: ISSG	有用、便覧、園芸書典、GAWW、GCW、JF、http://www.bdnagoya.jp/introduction/activities/water_lily.html
102	93	ゲシ	アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> ssp. <i>setigerum</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											北アフリカ原産で世界の各地に帰化。	1964年頃に渡来。関東以南、九州、四国で逸出。	0.8m、越年草	線路や道路に沿った空地に散発的に生える。	花が綺麗なため誤って栽培される。	不正栽培または自生しているけしを発見した場合は、各地方厚生(支)局 麻薬取締部(支所)、都道府県麻薬主管課、保健所、警察署へ連絡することになっている。	麻薬取締部の対象種、ケシ <i>P. somniferum</i> と共通点が多く、同一種の亜種として扱われることもある。別学名 <i>Papaver setigerum</i> 。	対策: H20<4、各県: 千葉、広島、愛媛、河川: 0,1,3	世雄(母種)、便覧、写真図鑑、帰化植物、西田委員、Ylist
103	95	アブラナ	オニハマダイコン	<i>Cakile edentula</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											北アメリカ東岸中北部原産。オーストラリア等で雑草化。	1982年渡来。北海道、本州の一部で帰化。	高さ50cmの一年草	海岸砂丘に生える。	海外では、多肉質の茎葉を食用にする。	青森県では、在来種と競合している様子は見られない。千葉県では生育量は少ないとされている。絶滅危惧種のイソミレのような砂丘地帯に生える。	専門家: 砂浜 7、各県: 青森、千葉、河川: 7,8,15	便覧、帰化植物、浅井(1993)、GCW	
104	102	バラ	コバナキジムシロ(アメリカキジムシロ)	<i>Potentilla heynei</i>	C分布拡大期	掲載			湿原	-	-											中国東北部～朝鮮半島原産。	1930年に栃木県で確認。北海道、本州、九州の一部に帰化。	0.3m、一年草または二年草	畔道など水田の周辺に発生する。平地の湿地近くに生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		河川沿いでキタムソウ(絶滅危惧種: VU)と競合。別学名 <i>P. amurensis</i> 、 <i>P. millegrana</i> 。	各県: 埼玉、河川: 3,5,10	便覧、帰化植物、写真図鑑、Ylist
105	102	バラ	ピラカンサ類	<i>Pyracantha</i> spp.	C分布拡大期	掲載				-	-	x										ヨーロッパ東部からアジアにかけて6種が自生。トキワサンザシ <i>P. coccinea</i> は南東ヨーロッパ～小アジアに分布。タチバナモドキ <i>P. angustifolia</i> は中国原産。ニュージーランドで帰化。アフリカ南部、オーストラリア、ハワイで侵略的。ヒマラヤトキワサンザシ <i>P. crenulata</i> はヒマラヤ原産。ニュージーランドで帰化。アフリカ南部やオーストラリアで侵略的。	トキワサンザシとタチバナモドキは明治時代に渡来し、本州と九州の一部で逸出。ヒマラヤトキワサンザシは昭和初期に渡来し、本州の一部で逸出。	2～6m、常緑低木	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸に生育。耐寒性、耐暑性があり、日当たりさえ良ければ土壌を選ばない。一度定着すれば、耐陰性もある。萌芽により急速に広がる。日本の気候条件下で良く育つ。	花だけでなく果実も美しいので、生垣、庭園樹、鉢物用樹として栽培される。種間雑種から育成された多くの園芸品種がある。雑種の稔性は高い。	河川で増加傾向にあり、丈夫な性質で、鳥により種子が散布されることから、河原の植物への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	河川ではトキワサンザシとタチバナモドキ、その他ヒマラヤトキワサンザシも逸出。実生や挿し木で増やす。刺がある。	専門家: 河原 7、河川: 7,14,37,7,27,44	便覧、樹木、帰化植物、有用、園芸書典、IPSW
106	103	マメ	モリシマアカシア	<i>Acacia mearnsii</i>	C分布拡大期	掲載				-	-	x										オーストラリア南東部タスマニア原産。ヨーロッパ等に分布。アフリカ南部で侵略的。	本州(愛知、大阪、兵庫、広島、山口)、四国(愛媛県)で逸出帰化。	20m、常緑高木	草原、水辺、攪乱地、市街地、水路に生育する。乾燥した温帯地域から湿潤な熱帯地域まで生育する。愛知県田原市の笠山では、蛇紋岩地に侵入し草地植生が消滅。大阪でも越冬するがやや弱い。	観賞用に栽培される。日本の暖地で緑化樹、肥料樹、樹皮に含まれるタンニンの採取のために導入。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥やげっ歯類により種子が散布され、繁殖による環境を改変し、アレロパシー作用もある。国内でも貴重な生態系の消失が報告されていること等から、こうした環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	従来、園芸的に <i>A. mollissima</i> という名前が栽培されてきたものは、本種であることが多い。	外来法: 要注意、W100: IUCN、各県: 愛知、海外: ISSG	便覧、有用、園芸書典、木、IPSW、JF
107	103	マメ	エニシダ	<i>Cytisus scoparius</i>	C分布拡大期	掲載				-	-	x										ヨーロッパ南部原産。アフリカ南部、アジア、ハワイなどに分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出帰化。	3m、常緑低木	道路の法面や宅地造成による新開地などに生える。海外では、草地、荒地、氾濫原、海岸の低木林、硬葉樹林に生育する。	様々な園芸品種が、観賞用に栽培されている。砂防用に種子が撒かれ、繁殖しているケースがみられる。宮崎県では近年、新道法面に多くみられることから、法面緑化に利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、種子が車両、水、鳥によって散布され、急速に分布を拡大すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	影響は、イタチハギとほぼ同等と思われる。棘はない。海外では道路に沿って広がることから、種子が車両に付着して散布されると考えられる。種子は水や鳥により散布される。種子の寿命は長い。	海外: ISSG	便覧、帰化植物、環境省、勝山委員、JF、有用、IPSW

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献、

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
												散布	繁殖	気候	系統						原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など
108	105	カタバミ	オオキバカタバミ(キイロハナカタバミ)	<i>Oxalis pes-caprae</i>	C分布拡大期	掲載				-	-	×								南アフリカ原産、ニュージーランド、アメリカ合衆国、アジアに分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。	1890年代に入り、1961年に帰化が確認。関東-琉球で逸出帰化。	0.2m、多年草	森林、草原、川岸、海岸、畑地、庭、牧草地、樹園地、荒地などに生育。日当たりが良い、肥沃地を好む。鱗茎で繁殖。地中海沿岸の海岸地域で非常に多くみられる。冬に繁茂し、耐寒性がある。		観賞用に栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、本州太平洋側の雪の降らない地域で明るい落葉広葉樹林に侵入するおそれがあるため、こうしたおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	じわじわと広がっている。一度入り込むと駆除が難しい。家畜に有害。	海外・ISSG	世雄、便覧、写真図鑑、岡山委員、IPSW、園芸事典
109	109	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	C分布拡大期	掲載				-	-	×								中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。	園芸植物として江戸時代に渡来。関東-琉球で逸出帰化。	15m、落葉(熱帯では常緑)高木	自然林、植林地、草原、攪乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、日光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。		庭木、公園樹、街路樹として植栽。盆栽にも利用。種子の油脂は有毒だが、ろそうき、せっけん、薬用等に利用。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥や水により種子が散布され、土壌環境にも影響する。日本でも河川で分布を拡大しており、草原や雑木林等への影響が懸念されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所や自然水域の周辺では、利用を控える等の配慮が必要である。	繁殖は実生で行う。別学名 <i>Sapium sebiferum</i> 。急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンも増加する。	村中:C、専門家:草原23・雑木10、各県:兵庫、河川:23,50,64、海外:ISSG	便覧、樹木、有用、Ylist、園芸事典、JF
110	151	アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	C分布拡大期	掲載														南アメリカ原産。	大正年間に渡来。北海道-九州、琉球で帰化。	種子は作らない	湖沼や河川でみられる。		観賞用の水草として導入されたが、特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	外来法:特定、W100:日本、村中:A、対策:H20:11、H23:15、専門家:水生35、各県:栃木・埼玉・千葉・京都・愛知・兵庫・広島・佐賀・宮崎、河川:23,29,46、海外:ISSG	雑管、便覧、写真図鑑	
111	156	ウコギ	カミヤツデ(ツウソウ(通草)、ツウダボク(通脱木))	<i>Tetrapanax papyrifer</i>	C分布拡大期	掲載						×								中国南部、台湾原産。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国で雑草化。	1935年以前に渡来。関東-九州、四国、琉球で逸出、帰化。	5m、常緑低木	湿潤な土壌を好む。河川敷などで繁殖。関東地方では寒さで傷んで落葉低木となる。		日本では暖地に観賞用に栽培され、乾燥した場所から湿った場所まで繁殖。関東地方では寒さで傷んで落葉低木となる。	鳥により種子が散布され、河川敷等で繁殖。小型の在来種を被除したり、景観的にも問題になっている。こうした問題を引き起こす恐れのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	神奈川県で増殖し駆除。地下に伸ばした根から新苗を作る。増殖は実生、挿木、株分けによる。生長は早い。別学名 <i>T. papyrifera</i> 、 <i>T. papyrifera</i> 、 <i>T. papyrifera</i> 。	各県:愛媛 2,2,4、河川:2,2,4	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、Ylist、GCW
112	157	セリ	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>	C分布拡大期	掲載						×								ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。	1959年渡来。北海道、本州の一部で帰化。	2m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育。		海外では、古くから薬用植物として利用されたが、現在は使用されない。古代ギリシアの処刑の毒として利用された。本種が市販されているとの情報は得られなかった。	薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。野外に生育しているものを、山菜のシヤク <i>Anthriscus sylvestris</i> 等と過って食べないよう注意が必要である。	有毒植物で、家畜にも影響。	外来法:要注意、FAO:7、各県:千葉、河川:0,0,2	世雄、便覧、牧草、有用、(黒川委員)
113	157	セリ	ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>	C分布拡大期	掲載														北アメリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アフリカに帰化。	1960年頃に渡来。千葉、神奈川県、兵庫、琉球などで帰化。	水生の多年草	やや湿った土地や水中に群生する。		観賞用に栽培される。ビオトープに導入されている可能性がある。	日本では湿地への影響が懸念されており、水散布により分布が拡大する可能性が高いことから、自然水域への持ち込みは行うべきではない。	1件はウチワゼニクサとなっていた。USDAでは <i>H. prolifera</i> の別学名とされている。	対策:H23:2、各県:愛知	便覧、写真図鑑、圃場植物、USDA
114	170	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	C分布拡大期	掲載														中国中南部原産。オーストラリア等に帰化。ニュージーランド、南アフリカ、コンチネンタルアメリカ南部等で、有害雑草となる。	明治初年に渡来。関東-九州で逸出帰化。	10m、常緑小高木	農耕地、沿岸地域、自然林、河川、攪乱地、湿地に生育。乾燥した場所から湿った場所に生える。日本では、近畿地方では河川敷に樹林が形成されるなど、河川で急速に分布を拡大。里山二次林などに侵入。		・大気汚染に強く、耐潮性、耐陰性があり、移植が容易で生長が早いので、街路樹や公園樹としてよく植栽される。 ・花が少なくなった梅雨前後に咲くことから、養蜂業においては初夏の有力な蜜源として利用されている。また、生産される蜂蜜も高品質である。 ・干した果実が漢方薬で利用される。 ・中国ではろそうきの原料となるイボタロウムシ培養樹として広く利用される。	海外で侵略的な外来種とされている。日本でも大量に熟す果実が鳥により散布され河川等に広く逸出し、雑木林や極相林への侵入も危惧されている。防除対策が実施されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所では、種子の散布を防ぐ等の配慮が必要である。	・愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。 ・H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	外来法:要注意、村中:C、対策:H20<4、H23:1、専門家:雑木34、極相21、各県:愛知・兵庫・愛媛、河川:5,30,46、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、農林水産省、JF、有用、園芸事典
115	176	アカネ	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i>	C分布拡大期	掲載						×								北アメリカ原産。アジア、オーストラリア、南アメリカなどに帰化。	1927年に渡来。本州、四国、九州で帰化。	0.5m、一年草	砂地がかかった道端、河川敷、海岸に多く、芝生、時に林縁に自然植生の一員のように生育。		本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	鳥取砂丘で防除の対象となった。三重県明和町の大淀海岸でも駆除が行われた。	外来法:要注意、村中:B、対策:H20:4、専門家:河原28、各県:愛知、河川:20,37,42	便覧、写真図鑑、外来生物
116	178	ヒルガオ	外来ノアサガオ類	<i>Ipomoea</i> spp. (<i>Pharbitis</i> spp.)	C分布拡大期	掲載														アサガオ類は、熱帯アメリカや熱帯アジアに分布する。ノアサガオはヨーロッパ南部、アフリカ南部、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的となっている。	・アメリカアサガオ <i>I. hederacea</i> (<i>P. hederacea</i>) は江戸時代末期(1882年頃)渡来。現在のものは輸入穀物に混ざって入ったものと考えられる。北海道、本州、四国、九州、琉球。 ・マルバアサガオ <i>I. hederacea</i> var. <i>integriscula</i> は北アメリカ原産。1971年以前に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 ・マルバアサガオ <i>I. purpurea</i> (<i>P. purpurea</i>) は江戸時代に渡来。本州以南。 ・ノアサガオ <i>I. indica</i> は紀伊半島以南に分布するが、園芸品種が各地で逸出(外来系統のノアサガオはオオバアサガオ <i>I. learii</i> として区別する見解がある)。	・イロモチアサガオ、オーシャンブルー「Ocesn Blue」、宿根アサガオ、クリスタルブルー、琉球アサガオなどと呼ばれるノアサガオの外来系統の園芸品種が盛んに栽培され、逸出している。 ・1975年に作出されたアサガオとマルバアサガオの交雑品種のヨウジロアサガオ <i>Ipomoea nil</i> x <i>I. purpurea</i> など、様々な園芸品種が流通、利用されている。 ・垂直面緑化(グリーンカーテン)の有望種とされる。	・アサガオ属 <i>Pharbitis</i> は、ヒルガオ属 <i>Ipomoea</i> に含める文献が多いので、ここではアサガオ類とした。 ・オオバアメリカアサガオはノアサガオの外来系統を区別したものの、宮崎はオオバアメリカアサガオ <i>I. learii</i> 。 ・ソライロアサガオ <i>I. tricolor</i> をセイヨウアサガオまたはアメリカアサガオと呼ぶことがあるので混同しないよう注意が必要。 ・栄養繁殖系栽培品種はいずれも自家不和合性で種子はできないが、葉柄近くから発根して根付く。	各県:愛媛・富山、河川:アサガオ17,29,26、マルバアサガオ5,13,20、マルバアサガオ13,24,24	世雄、便覧、写真図鑑、JF、園芸事典、圃場植物、IPSW				

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案)【国外外来種】 **検討作業中**

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
										生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など						
117	180	クマツツク	シチヘンゲ(ランタナ)	<i>Lantana camara</i>	C分布拡大期	掲載																	北アメリカ南部-熱帯アメリカ原産	江戸時代末期(1866年)に園芸植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出。帰化。	3m. 半つる性の低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コパノランタナ <i>L. montevidensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が多く作出されている。暖帯域では路地。温帯では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味がある。海外では食用や香辛料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いられる。	海外で侵略的な外来植物とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるので、温暖な地域の特に重要地域では、こうした種類を用いる。	土壌中に窒素を蓄積。自家受粉も高受粉も行い、淡紅色系統のものが果実を良くつける。乗虫は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。小笠原・南西諸島にも掲載。	外來法:要注 意。W100、U.C.N、村中:C、FAO:8、専門 家:海洋島28、 各県:愛知・愛 媛・小笠原・奄 美・海外: ISSG	世維、便覧、 熱帯花木、外來 生物、有用、JF
118	182	アワゴケ	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>	C分布拡大期	掲載			池沼、 湿原														ヨーロッパ原産、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに帰化。	1996年渡来。福島、栃木、群馬、千葉、神奈川、山梨に帰化。	水辺の小型の多年草	水田、用水路、小規模の河川のほか、水際の湿地では陸生型となって生育する。関東北部のクレスン栽培地も多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		湿地性の在来植物に悪影響。	対策:H20<4、 各県:栃木・群 馬、河川:0.01	便覧、帰化植 物、写真図鑑、 GCW
119	185	フジツツク	フサフジツツク(ニシキフジツツク、チヂブフジツツク、ブッドレア)	<i>Buddleja davidii</i>	C分布拡大期	掲載																	中国西部原産。合衆国西部に分布、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	園芸植物として渡来するが、渡来年代不明。北海道、本州、九州では沢沿い、堤防の堆積地、林縁、造成地などの明るく開けた場所に群生している。長野県長谷村の三峰川支流の黒川や戸川河川敷で、広範囲で繁殖を続け、アシ原やヤマギを駆逐している。	2m. 半常緑低木	自然林、河岸、崩壊地、草原、攪乱地、市街地、水路、湿地に生育。排水の良い向陽地を好み、寒さに強い。路面間隙雑草の性質が強く、舗道の割れ目やコンクリートブロックの間でも生長。山地の崩壊地や道路法面で優占群落を形成し、分布を拡大している。	多数の園芸品種があり、日本でブッドレアとして觀賞用に栽培される。切り花にもされる。中国では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、草原を森林化すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	繁殖は種子によるが、挿木でもできる。洪水で流され易く、川岸が浸食しやすくなる。ニュージーランドでは林業被害を引き起こしている。	村中:C、各 県:兵庫県28、 河川:0.6、6、 海外:ISSG	便覧、写真図 鑑、有用、JF、 園芸事典、 IPSW、 http://www.kkr.mlit.go.jp/rokkou/rokkou/vegetation/sp/184/index.html 、 http://www.nagano.go.jp/modules/news/article.php?storyid=878
120	186	ゴマノハグサ	ウキアゼナ(バコパ・ロトンディアオリア、カラカワクサ)	<i>Bacopa rotundifolia</i>	C分布拡大期	掲載			池沼、 湿地														北アメリカ原産、東アジアに分布。	1954年渡来。北海道、本州、四国、九州の一部で帰化。西南暖地のイグサ田の雑草となっている。	長さ 0.6m. 浮遊性の一年草	池沼、河川敷、溝、水田などの水湿地に生育する。日当たりの良いところを好み、土壌の種類を選ばない。種子繁殖する。	觀賞用に販売、利用される。屋外での水鉢栽培に適する。水槽では強光下で水中栽培できる。	種子で繁殖し、絶滅危惧種の水草を駆逐し、水田雑草となることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	群馬県ではトリゲモ類やミズマツバなどの絶滅危惧種との競合、駆逐の危険性が高い。アメリカの水田雑草である。	各県:群馬、 河川:1,2,5	世維、雑管、 便覧、写真図 鑑、水害
121	186	ゴマノハグサ	ヒサウチソウ	<i>Bellardia trixago</i>	C分布拡大期	掲載																	地中海沿岸原産、北アメリカやオーストラリアにも帰化。	1982年渡来。三重、愛知、徳島、香川に帰化。木曾三川や琵琶湖岸で繁茂中。	0.3m. 半寄生の一年草	荒地、海岸近くの草地に生える。	利用に関する情報は得られなかった。		カリフォルニアの侵略的な外来植物にあげられている。一度侵入すると防除困難な害草である。	その他:藤井 委員	便覧、写真図 鑑、植物、 藤井委員、 IPCW
122	186	ゴマノハグサ	セイヨウヒキヨモギ	<i>Parentucellia viscosa</i>	C分布拡大期	掲載																	地中海沿岸原産、ヨーロッパ、南北アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア。	1973年渡来。本州、四国、九州、琉球で帰化	0.7m. 半寄生の一年草	路傍、堤防に生育。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		専門家:草原 7、各県:広島、 河川: 2,10,23	便覧、帰化植 物、写真図鑑、 GCW	
123	186	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	C分布拡大期	掲載																	ヨーロッパ-アジア北部原産。南アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ。	渡来年代不明。本州、四国、九州で帰化。	1m. 多年草	湿地、河原、水田。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		絶滅危惧種のカワヂシャとの交雑が確認されている。	外來法:特定、 村中:A、対 策:H20<4、 H23.6 専門家: 交雑24、各 県:栃木・愛知・京 都・兵庫・広島・ 佐賀、河川: 6,17,36	便覧、写真図 鑑、外來生物
124	203	キク	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>	C分布拡大期	掲載																	北アメリカ原産	大正時代に園芸植物として渡来。北海道-九州で逸出。	1.5m. 多年草	山村などで野生化している。	近年はあまり栽培されない。アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	外來法:要注 意。W100、日 本、村中:C、 河川:2,2,4	便覧、写真図 鑑、園芸事典、 陸山委員
125	203	キク	コウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>	C分布拡大期	掲載																	北アメリカ原産	大正時代に園芸植物として渡来。北海道-九州で逸出。	0.7m. 多年草	山野に生える。	アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	河川:2,6,11、 その他:藤井 委員	便覧、写真図 鑑、園芸事典、 陸山委員
126	203	キク	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>	C分布拡大期	掲載																	ヨーロッパ原産。北アメリカ、アフリカ南部、オーストラリア。	1960年代渡来。北海道、本州、四国、琉球で帰化。	1.5m. 一-二年草	原野や河川敷に生える。肥沃で湿ったところを好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		シカによる食害を受けにくく、駆除も困難で増加が危惧。国立公園の北海道利尻島など自然度の高い環境にも定着。	外來法:要注 意。FAO:6、 対策:H20<4、 H23.1、専門 家:草原26、各 県:北海道・愛 知、河川: 5,13,19、海外: ISSG	世維、雑管、 便覧、写真図鑑
127	203	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	C分布拡大期	掲載			池沼														中央-南アメリカ原産	1995年渡来。関東-四国、九州で帰化。	1.0m. 多年草	河川や水路の水中や水際で繁茂する。	觀賞用に利用された。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		治水や水利用の障害になっている。	外來法:特定、 村中:B、対 策:H20.8、 H23.5、専門 家:水生26、各 県:栃木・埼玉・ 千葉・愛知・兵 庫・佐賀、河 川:0.0,2、海 外:ISSG	便覧、写真図鑑

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など						
128	203	キク	コウリンタンポポ (エフデタンポポ)	<i>Hieracium aurantiacum</i>	C分布拡大期	掲載			高山	-	-											ヨーロッパ原産、西アジア、北米にかけて広く分布。	明治中期に渡来、戦後帰化した。北海道～九州で逸出帰化。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。	0.5m、多年草	原産地では高山に生える。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育。乾いたところによく、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強くない肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。	園芸植物として渡来。花壇やロックガーデンに植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、貴重な生態系である高山帯でも生育できる。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。北米の一部では強毒雑草になっている。	各県：北海道、河川：5.6.6、海外：ISSG	世雄、便覧、帰化植物、環境省、園芸辞典、有用、JF
129	203	キク	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											アフリカ(マダガスカル)原産	1976年渡来、本州、四国、九州で帰化。	0.7m、一年草	海辺の埋め立て地や空き地などに生える。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。		急性中毒は引き起こさないが、肝毒性や発がん性を有するヒロリジジナルカロイドが乳汁へ移行するという報告もあり、非意図的に人的被害をもたらす危険性もある。コウベギクやカシュウロギクの名での報告がある。	外来法：特定、対策：H20<4、H23.1、専門家：草原18、各県：千葉、愛知、兵庫、河川：0,0,5	便覧、帰化植物、写真図鑑、黒川委員、農研機構、http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease/poisoning/fireweed.html
130	204	オモダカ	ナガバオモダカ (ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria graminea</i>	C分布拡大期	掲載			池沼、湿原	-	-											北アメリカ原産、世界各地で栽培	1975年頃に渡来、千葉、神奈川、東京、京都、和歌山、岡山で帰化。	0.6m、抽水性の多年草	池沼や河川に生育。天然記念物の京都の深泥池で繁茂。雌雄異株で日本には雌株のみ	ジャイアント・サジタリアの名でアクアリウムで栽培。	天然記念物の深泥池で繁茂するなど、水辺に生育する希少種と競合し、駆逐することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	外来法：要注意、村中：B、対策：H20<4、専門家：水生19、各県：愛知、河川：0,1,1	便覧、写真図鑑、帰化植物	
131	205	トチカガミ	外来セキショウモ (オオセキショウモ (ジャイアントパリスネリア)、セイヨウセキショウモに酷似した外来種)	<i>Vallisneria gigantea</i> , <i>Vallisneria</i> spp.	C分布拡大期	掲載			池沼	-	-											オオセキショウモ：栃木県佐野市、栃木・群馬県境のオノ川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。セイヨウセキショウモに酷似した外来種：千葉県松戸市、愛知・岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認されている。	多年生、常緑の沈水植物	湖沼、河川など日当たりの良い水域	オオセキショウモ・アクアリウムプラントとして販売されている。セイヨウセキショウモに酷似した外来種：アクアリウムプラントとしてセイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である(早稲倉ほか、未発表)。	水辺に生育する希少種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、自然水域へは持ち込むべきではない。	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ藻が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群ともに国内での有性繁殖は確認されていない。この項の文章は藤井ほか(未発表)による。在来種はセキショウモV. <i>nsatans</i> とコウガイモV. <i>denseserrulata</i> 、セイヨウセキショウモV. <i>spiralis</i> とパリスネリア・ナナV. <i>nanalis</i> はISSGに掲載。	海外：ISSG、その他：藤井委員	水草、藤井、牧、未発表、早稲倉ほか、未発表	
132	220	イグサ	コゴメイ	<i>Juncus</i> sp.	C分布拡大期	掲載			湿原	-	-											ユーラシア産の <i>J. inflexus</i> に似るが別種。	1990年渡来、本州の一部で帰化。各地の河川敷に急速に分布を拡大。	1.5m、多年草	沿海地、河川敷、湿地に生える。	本種の利用状況に関しては不明であるが、イグサ属の植物は種小名が不明なものを含めて、複数種が流通、利用されている。近縁種のイグサは、豊表の材料にするために栽培されるほか、薬用等にも利用する。	水湿地に生育する在来種のイグサが消失するなど、水辺に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込むべきではない。	近年、各地の水湿地で在来イグサが消失し、本種に置き換わっている。原因は不明だが、競合(繁茂干渉?)などの問題が懸念される。在来種の <i>J. effusus</i> var. <i>decipiens</i> は茎の髄が連続しているため区別できる。	河川：0,0,6、その他：藤井委員	便覧、帰化植物、藤井委員、JF
133	221	ツユクサ	ノハカタカラクサ(トキワツユクサ、トリスカンティア・フルミネンシス)	<i>Tradescantia fluminensis</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											南アメリカ原産、アジア、太平洋諸島に分布、ヨーロッパ南部、オーストラリア、北アメリカ南部で侵略的。	昭和初年に渡来、本州、四国、九州で逸出帰化。	多年草	石垣、崖地、路傍、林床などやや湿った日陰に生える。	園芸品種を含めて、観葉植物として利用。	海外でも侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大している。耐陰性があるため、雑木林や植相林の林床や水辺への侵入が、確認または危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込むべきではない。	外来法：要注意、専門家：雑木23、植相21、各県：千葉、愛知、広島、愛媛、宮崎、河川：14,37,51、海外：ISSG	便覧、帰化植物、外来生物、有用、JF、園芸事典、IPSW	
134	224	イネ	オオハマガヤ(アメリカハマニク)	<i>Ammophila brevifoligulata</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											北アメリカ原産、ヨーロッパに分布し、雑草化している。	1976年渡来、1955年頃から日本各地の飛砂防止に植栽。青森、秋田、山形、千葉、宮崎、静岡で逸出帰化。	1m、多年草	沿岸地域に生育する。	北米では砂止め利用されている。北日本や日本海側を中心に、飛砂防止に植栽。	海外で雑草化している地域があり、根や株で分布を拡大し、生態系を改変するおそれがある。日本の海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	近縁種のビーチグラスA. <i>arenaria</i> は侵略的な植物にあげられている。海岸植物への影響が懸念。種子による繁殖は行わず、地下茎により栄養繁殖。	各県：千葉、河川：0,2,2	便覧、帰化植物、有用、ISSG、GCW、USDA
135	224	イネ	シロガネヨシ(パンバグラス)	<i>Cortaderia selloana</i>	C分布拡大期	掲載				-	-											南米(アルゼンチン)原産、アフリカ南部に分布、ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。	明治時代の中期に渡来、関東、四国、琉球で逸出帰化。	3m、多年草	海岸砂丘、撈乱地、荒地、低木林、草原、川岸、水路、湿地に生育。日本では庭園や道路沿いに各地で栽培され、ときに逸出する。東北、北海道での露地越冬は不可能。	園芸品種を含めて流通、利用されている。法面緑化への利用も確認されている。切り花、ドライフラワーにも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、風による種子散布で分布を拡大している。増殖は株分けで行う。実生もできるが、花序の大きさに変異が出やすい。葉緑が鋭いので皮膚が切れることがあり、生育場所はレクリエーション等に利用できない。	公園内で逸出したものが、管理上の問題となっている。増殖は株分けで行う。実生もできるが、花序の大きさに変異が出やすい。葉緑が鋭いので皮膚が切れることがあり、生育場所はレクリエーション等に利用できない。	海外：ISSG	便覧、写真図鑑、小林委員、園芸事典、JF、IPSW
136	224	イネ	キシュウスズメヒエ(カリマタスズメヒエ)	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>distichum</i>	C分布拡大期	掲載			池沼、湿原	-	-											北アメリカ原産、暖帯～熱帯	1924年渡来、1945年以来急速に分布を拡大。本州、四国、九州、琉球。	0.5m、多年草	水田、溝、湿地、水路、ため池、砂浜に生育する。日当たりの良い所、肥沃な水湿地を好む。	かつて転換畑での飼料作物として試作されたことがある。近年の利用に関する情報は得られなかった。		水田の強毒雑草。	外来法：要注意、村中：B、対策：H23.2、専門家：水生31、各県：愛知、広島、愛媛、河川：43,72,79	世雄、便覧、写真図鑑、帰化植物、牧草
137	224	イネ	チクゴスズメヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>	C分布拡大期	掲載			池沼、湿原	-	-											北アメリカ南部原産。	1970年代に福岡県筑後地方で確認、本州、四国、九州、琉球の一部。	多年草	湿地、水路、水田に生育。キシュウスズメヒエと分布が重なるが、より水深の深いところに生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		キシュウスズメヒエの変種。防除困難な水田雑草。	FAO：C、対策：H20<4、H23.2、専門家：水生21、河川：7,9,23	雑草、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雄

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など						
138	226	サトイモ	ポタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	C分布拡大期	掲載			池沼	-	-	x										南アフリカ原産。	昭和初期に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原。	0.3m、浮遊性の水草	池沼、河川、水田、水路など日当たりの良いところに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	在来の水生植物に深刻な影響を及ぼす。	外来法:特定、W100:日本、村中:A、対策:H20.6、H23.7、専門家:水生36、各県:千葉、愛知、京都、兵庫、広島、滋賀、佐賀、宮崎、河川:2.12.24、海外:ISSG	外来生物、便覧	
139	231	カヤツリグサ	アメリカカヤミズグサ	<i>Carex scoparia</i>	C分布拡大期	掲載			湿原													北アメリカ原産	1986年に香川県丸亀市で採集、北海道(右狩川下流の湿地、勇払原野等)、本州の一部、香川で確認	0.6m、多年草	湿地や濡った草地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		その他:勝山委員	帰化植物、便覧、勝山委員	
140	231	カヤツリグサ	メキシコカヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>	C分布拡大期	掲載			湿原	-	-											熱帯アメリカ原産、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど温帯-熱帯。	1959年に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原。	1.0m、多年草	河川、畑、溝、湿地などに生育。日当たりが良く、土壌の湿った所を好む。湛水条件下での生育は良くない。土壌の種類は選ばない。水辺に急速に分布拡大している。水辺の裸地を好むが、強固な根茎を持っていて永続性が高く、植生遷移を急速に進めるおそれがある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	保護対象の湿地への侵入の可能性もある。水湿地の微小植物にとっては大きな脅威となりうる。愛知県では自然度の高い場所に侵入することは少なく、在来植物への影響は限定的との記載。	外来法:要注、各県:愛知、河川:17.45.52	世雑、勝山委員、便覧、写真図鑑	
141	51	ヤルマ	ヤツデグワ	<i>Cecropia peltata</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	x									熱帯アメリカ原産		20m、常緑高木	森林の低地に多く自生	沖縄等の暖地や温室などで観賞用に栽培される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。	*旧分類のイラクサ科。	外来法:要注、W100:JUCN、海外:ISSG	ブラジル、外来生物、藤井委員	
142	51	ヤルマ	ケクロピア・シュレベリアナ	<i>Cecropia schreberiana</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	x									コスタリカ、ジャマイカ等が原産。ボリネシア等に導入。		20m、高木	日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、攪乱地に生育。	日本では温室での栽培例がある。	*旧分類のイラクサ科。	海外:ISSG	藤井委員	
143	101	トベラ	シマトベラ(トウソゴ)	<i>Pittosporum undulatum</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()										オーストラリア東部原産、台湾にも野生化。	小笠原で野生化する。	12m、低木	関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、攪乱地、低木林に生育。	日本でも栽培されている。海外では、防風のために植えられ、ゴルフクラブや薪炭に利用され、観賞用としても利用、ミツバチの蜜源にもなる。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布されることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。	海外:ISSG	園芸事典
144	144	フトモモ	タチバナアデク(ピタンガ)	<i>Eugenia uniflora</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	x									ブラジルを中心に熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカにも導入。		常緑の低木または小高木	自然林、植林、草原、低木林。海外では、果樹として栽培されたものが野生化。	日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	海外:ISSG	有用、Ylist、JF	
145	144	フトモモ	ムラサキフトモモ(ヨウミヤクアデク、メンゲラック、ムレザキフトモモ)	<i>Syzygium cumini</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()										インドから東南アジア、マレーシア、オーストラリア北部に広がる。		30m、木本	自然林に生育。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件下で生育。洪水や干ばつにも耐える。	各地で紫色の果実を食用するために栽培される。インドネシアでは薬用、種なしの品種もある。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	海外:ISSG	有用、Ylist、JF	
146	147	ノボタン	アメリカカサノボタン	<i>Clidemia hirta</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	x									熱帯アメリカ原産		2m、低木	自然林、草原、水辺、攪乱地、低木林	海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物による。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥、人、車などによって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実がつく。増殖は実生で行い、発芽もよい。挿し木もできる。南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。	外来法:要注、W100:JUCN、村中:C、海外:ISSG、その他:藤井委員	園芸事典、藤井委員
147	156	ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサイア)	<i>Schefflera actinophylla</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()										オーストラリア、ニューギニア原産、ハワイなど太平洋諸島で侵略的		30m、高木	自然林、攪乱地、市街地	観賞用に栽培される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥によって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	海外:ISSG	JF、IPSW	
148	163	ヤブコウジ	コウトウタチバナ(セイロンマンリョウ)	<i>Ardisia elliptica</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()										アジア-オセアニアに分布。		常緑低木	熱帯の泥湿海岸地域に分布。海浜や湿潤な森林等に生育。	観賞用に利用される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、鳥によって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	外来法:要注、W100:JUCN、海外:ISSG	Ylist、JF、外来生物	
149	175	ガガイモ	オオバナアサガオ	<i>Cryptostegia grandiflora</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	x									マダガスカル原産とされるが原産地ははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。		常緑のつる性木本	農耕地、自然林、植林、氾濫原、河岸、攪乱地、低木林、水路、湿地、海浜	観賞用としてフェンスに寄せたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱仕立てで庭木としている。刈りこめは低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取され、第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海浜地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生(取り挿し)、取木、散布による分布拡大・拡散もいないので、掲載には当たらないと考える(日本造園学会)。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会
150	188	ノウゼンカズラ	トラノツメ(ネコノツメ)	<i>Macfadyena unguis-cati</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	x									メキシコ、ガテマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。オーストラリア、合衆国南東部、アフリカ南部で侵略的。		常緑つる性、多年草	自然林、植林、草原、攪乱地、市街地。若い時は耐陰性がある。	海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノツメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	Macfadyena=Dolichandra。案外に耐寒性がある。軽い霜では害をうけず、日本の中部以西の暖地ならばよく戸外で生育し、つるは長く伸びる。挿し木で簡単に発根し、よく生長する。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
												競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など							
151	189	キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ(ウリパローレルカズラ)	<i>Thunbergia grandiflora</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	×	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	インド-東南アジア原産。オーストラリアやハワイで特に問題になっている。オーストラリアでは特に最も問題のある外来植物の一つとなっている。	10m. 木質のつる植物	自然林、植林地、攪乱地、川岸、海岸に生育。日本では、関東南部、横浜などで最近、路地での越冬がみられる。	観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまう。海外では、薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、水により茎や根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	寒さで傷みやすいが、回復も早い。小笠原では近縁種の <i>T. laurifolia</i> が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist	
152	212	リュウゼツラン	アツバチトセラ(サンスベリア)	<i>Sansevieria trifasciata</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	×	()	()	()	()	()	()	()	()	()	熱帯西アフリカ原産。ハワイで野生化。オーストラリアでは環境雑草。台湾で侵略的な外来種。	1.0m. 多年草	海外では栽培された場所から逃げ出している。越冬には12-15 必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば近い低温にも耐える。	観葉植物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖する。アフリカでは葉から繊維を採取。	海外で侵略的な外来種とされ、近縁種が小笠原で繁茂していること、鳥や動物による分布拡大があること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	近縁種のチトセラ <i>S. nilotica</i> が小笠原の父島、母島、弟島、姉島、姪島などに野生化。耐陰性がある。	海外:ISSG	有用、園芸事典、JF、Ylist、PIER、GCW		
153	224	イネ	ダイサンチュク(タイサンチュク)	<i>Bambusa vulgaris</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()		()	()	()	()	()	()	()	()	()	東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。	15m	日本の暖地では露地でどうにか越冬できるが、運出した箱は先が枯れる。	庭園観賞、製紙・建築用、防風用に栽培される。若いだけのこは食用にされる。建築など各種の用途に用いられる。	海外で侵略的な外来種とされ、除去する際に根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	近縁種のホウライチク <i>B. multiplex</i> インドシ原産説と九州、琉球野生説がある。	海外:ISSG	有用、園芸事典、Ylist、JF、木本		
154	225	ヤシ	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>	EA小笠原・南西諸島	掲載						()	×	()	()	()	()	()	()	()	()	()	オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニューギニアなどで侵略的。	20m	露地栽培の北限は九州南端で、栽培は可能である。	優美な姿を觀賞するために栽培される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、水や鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。		海外:ISSG	有用、園芸事典、JF		
155	33	サンショウモ	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-										北アメリカ原産。オーストラリア、東南アジア、中央アフリカ等に広く分布。	1950年ごろ渡来。大阪で帰化。沖縄では1970年中期に渡来。	浮遊性の水草	2006年、恩納村の農業用水ため池を覆い尽くしている状態が確認。水温が高いと短期間で異常繁殖を繰り返す。	沖縄で、一部の愛好家により栽培。現在も観賞用に販売、利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、国内でも繁茂が確認されている。近縁種のサンショウモ <i>S. natans</i> (絶滅危惧 類(VU))との競合、駆逐や、遺伝的攪乱が危惧される。水により胞子が散布されること等から、自然水域へは持ち込むべきではない。	別学名 <i>S. auriculata</i> 。熱帯では水田雑草となる。養魚場の雑草にもなる。近縁種のサンショウモ <i>S. natans</i> は絶滅危惧 類(VU)	外来法:要注意、W100:1UCN、FAO:10、各県:愛媛、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、外来生物、世水、JF、世水	
156	43	モクマオウ	トクサバモクマオウ(トキワギョリュウ)	<i>Casuarina equisetifolia</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-	×									オーストラリア原産。アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海で侵略的。	20m. 常緑高木	琉球には1明治初期、小笠原には1905(明治38)年に導入され、野生化	日当たりの良い砂地。種子の生産量、発芽率が高い上に、放線菌と共生して痩せ地でも良く育つ。耐暑性、耐風性、耐雨性、耐潮性、耐石灰岩地、耐砂地、耐乾性がある。	海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で問題とされている。生物多様性の保全上重要なこうした地域での利用は、可能な限り控える等の配慮が必要である。	落ち葉が林床に蓄積し、アレロパシー作用もある。奄美地域では、アジサン類の営巣地であるサンゴ砂にはびこり、野鳥の営巣地が破壊されたとされる。	対策:H20<4、専門家:海洋鳥29、各県:小笠原、奄美、海外:ISSG	便覧、写真図鑑、IPSW、有用、林野庁		
157	50	クワ	バンノキ	<i>Artocarpus altiiis</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-	×									ニューギニアからメラネシア原産。世界各地で栽培。台湾では侵略的植物。	30m以上、常緑高木	石垣島の一部の自然林内に多数の実生が確認されている。おそらく栽培品から鳥散布で分布域を拡大したものである。	世界各地の熱帯地域で栽培される。	栽培品種には種子がある二倍体と、種子のない三倍体がある。どちらも海外では食用にされる。観賞用にも栽培される。日本でも、市販、流通され、温室等で栽培される。	台湾では侵略的な外来種とされ、日本でも石垣島では野生化が確認され、西表島への影響も懸念されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>A. incisus</i> 、 <i>A. communis</i> 。石垣島や西表島のシイ・カシ林には定着する可能性が高くて高く、定着してしまえば植生に多大な悪影響を与えると思われる。沖縄では実生苗発生はあるが、鳥散布は観察されていない。海外ではコウモリが種子を散布。	その他:横田委員	Ylist、有用、JF、園芸事典、日本造園学会	
158	51	イラクサ	コゴメズ(コメバコケミズ、ヒレア・ミクロフィラ)	<i>Pilea microphylla</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-										南アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、ハワイ等の太平洋諸島、台湾等。	0.2m. 多汗性の一年草	戦後、沖縄と鹿児島に渡来。1991年に東京、1998年に神奈川県で確認。本州と九州の一部、琉球で帰化。	低地の敷石、石垣の間、湿った岩やコンクリートの隙間に生える。沖縄では通年みられる。	ビレア・ミクロフィラの名前で園芸用に流通、販売されている。	海外で環境雑草などとされ、日本でも南西諸島の水湿地で繁茂し、石灰岩露頭の陰湿環境に生育する微小植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは持ち込むべきではない。	増殖は挿し木、種子によるが、挿し木で容易に発根するので、通常は挿し木が遣いられる。匍匐性の種では、株分けで容易に殖やせる。	その他:藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸事典、GCW	
159	57	タデ	ツルドクダミ(カシュウ、何首烏)	<i>Fallopia multiflora</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-										台湾原産。合衆国、ハンガリー	木質つる性の多年草	江戸時代(享保5(1720)年)に長崎を経由して江戸で栽培。北海道、本州、四国、九州で逸出。	市街地周辺の路傍や生け垣などに生える。	乾燥した塊根は何首烏(かしゅう)と呼ばれ、漢方薬として用いる。	台湾での圧倒的に旺盛な生育状況から、南西諸島に侵入した場合、生態系に多大な悪影響を与えることが危惧される。生物多様性の保全上重要なこうした地域へは持ち込むべきではない。	別学名 <i>Polygonum multiflorum</i> 、 <i>Pleuropterus multiflorus</i>	その他:横田委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典、Ylist、GCW	
160	58	ヤマゴボウ	ジュズサンゴ	<i>Rivina humilis</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-	×									北アメリカ南部から中央、南アメリカに分布。	1m. 常緑の多年草	明治時代後期に移入植物に混入して小笠原の父島に侵入。沖縄へは復帰後観賞用に導入。岡山、宮崎に分布。	小笠原では湿り気のあるやや暗い林内で純群落を形成。沖縄では庭園を中心に雑草化。	観賞用に流通し、栽培される。果期が長いので、温室内で鉢物とするか地植えにする。南米のコロンビアでは染料を採取するために栽培される。	結実までの生長期間が短い上に、果期が長く、鳥により散布されるため分布を拡大しやすい。小笠原では、在来の下層植生、林床の草本、シダ類を駆逐し、樹木の発芽も抑制されている。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	10-12 で越冬。株元に落ちた果実は自然に良く発芽し、4-5 月で結実する。鳥により種子が散布される。実生または挿し木でふやす。春に種子をまくと秋から冬に結実するので、一年草としても扱われる。	各県:小笠原	便覧、帰化植物、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、GCW	
161	62	スベリヒコ	ケツメクサ(ヒメマツバボタン、ケツメグサ)	<i>Portulaca pilosa</i>	E小笠原・南西諸島	掲載						-	-										熱帯アメリカ原産。東南アジアなどに帰化。	0.3m. 多肉質の一年草	1939年までに渡来。1954年に熊本で採集。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	乾燥した日当たりのよい道端、敷石の間、畑、砂地に生育。沖縄県では集落や耕作地に広く帰化しているだけでなく、海岸の隆起サンゴ礁や岩礁にも生える。	観賞用に栽培されるマツバボタンに比べて花が小さい。一般的には販売や栽培は行われていない。	海岸の岩礁は、固有種オキナワマツバボタンや今年7月に横田委員らが記載したアマミマツバボタンの生育環境と大きく異なるため、これらの種にとっては競合種となる。繁殖力が強く、水挿しで発根する。別学名 <i>Portulaca australis</i>	その他:横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、帰化植物、Ylist		

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会議以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

Table with columns: No., 科番号, 科名, 和名(別名、流通名), 学名, 定着状況, 掲載種(案), 対策, 産業管理, 脆弱環境, 定着可能性, 生態系被害, 分布拡大・拡散, 重要地域, 人体, 経済産業, 利用, 付着混入, 原産地や分布, 日本での分布, 生活型, 生育環境など, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等.

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
												競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など								
181	203	キク	タワダギク	<i>Pluchea odorata</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-	x													北アメリカ～南アメリカ北部原産。ハワイでは深刻な雑草となっている。	沖縄では戦後帰化したのち、広範囲に広がり、貴重植物群落にまで侵入している。沖縄周辺の島でも見られるようになった。1968年に和名が名づけられた。奄美地域への侵入も危惧される。	3m, 低木	当初、沖縄本島中部の日当たりの良い原野を中心に散在。現在では沖縄本島全域とその周辺の島でも見られるようになった。	海外では、ハーブティーとして利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	ヒイラギギ属	各県:奄美	便覧、写真図鑑、GAWW
182	203	キク	アメリカハマグルマ(ミツバハマグルマ)	<i>Sphagneticola trilobata</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-														フロリダ南部～熱帯アメリカ原産	沖縄には1970年代初期に渡来した。香川、宮崎、琉球、小笠原に帰化。	長さ5m, 多年草	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で猛繁殖。畑地の雑草となっている。	法面等の被覆用やつり鉢に利用される。	海外で侵略的な外来植物とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁殖している。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>Wedelia trilobata</i>	外来法:要注意。IUCN 村中:C, 専門家:砂浜5, 各県:小笠原・奄美, ISSG, その他:藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、JF、外来生物
183	212	リュウゼツラン	アオリリュウゼツラン(リュウゼツラン)	<i>Agave americana</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-	x													合衆国西部～メキシコ原産。ヨーロッパ、アフリカ南部、オーストラリア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパの南部と地中海諸島、アフリカ南部、大西洋諸島で侵略的。	1879(明治12)年に輸入。静岡、香川、小笠原、沖縄に帰化。	2.5m, 他肉性の常緑多年草	小笠原では岩場で群落形成。荒原植生を駆逐。耐寒性が強く、関東以西では露地植えが可能である。	初めは繊維原料植物として導入されたが、後に導入されたサイザルアサ <i>A. sisalana</i> に比べて繊維質が弱いため栽培が中止された。近年は、様々な斑入りの園芸品種が観賞用に栽培される。メキシコでは発酵酒の原料となる。	海外で侵略的な外来植物とされ、日本では小笠原諸島では在来種を駆逐している。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	単にリュウゼツランというときは、葉に斑が入った栽培品種フクリュウゼツラン 'Marginata' をさす。種子は風で散布される。植物体の断片で繁殖する。	各県:小笠原、海外:ISSG	便覧、観葉、園芸事典、JF、IPSW
184	224	イネ	シマスズメノヒエ(ダリグラス)	<i>Paspalum dilatatum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-														南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島。	1915年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島。	1.5m, 多年草	畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育。湿った肥沃地を好む。耐干性、耐暑性があり、酸性土壌に適応する。	暖地型牧草で、乾草および放牧用に適する。日本で育成された品種もある。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。	奄美諸島や小笠原の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	村中:C, 各県:広島・奄美、河川:47,78,88, 三省:国道	粗飼料、便覧、写真図鑑、世雄、帰化植物
185	224	イネ	タチスズメノヒエ(ベイジグラス)	<i>Paspalum urvillei</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-														南アメリカ原産。北アメリカ、アフリカ、オーストラリア、アジアなどに分布。	1958年福岡で確認。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原などに分布。	1.5m, 多年草	畑地、芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園に生育。日当たりの良い湿った土壌を好む。発芽適温は30～35℃。	本種の利用状況に寛する情報は得られなかった。	-	鹿児島、沖縄のサトウキビ畑の強害雑草となっている。種子と根茎で繁殖。種子の形成量が多く、水、動物、人間により伝播。種子は休眠性を持っており、アレロパシー作用もある。株は冬枯れしないので、大株になると伐去が難しくなる。繁殖力が極めて強い。宮崎県では近年、椎葉村などの奥地にも広がっている。	村中:C, 各県:広島・宮崎・奄美、河川:19,42,64, 海外:ISSG	世雄、雑音、便覧、写真図鑑、帰化植物
186	224	イネ	ムラサキカオススキ	<i>Saccharum formosanum</i> var. <i>pollinioides</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-														復帰後(1972年)に帰化。1976年に沖縄本島名護市二見の道路法面で採集された。発見された当時は数株だけの小群落であったが、沖縄本島中部以北に普通にみられるようになった。	台湾原産	1.5m, 多年草	日当たりの良い原野にみられる。北部山地では林道を介して侵入をあげつつあり、自然植生への影響が懸念される。	台湾では、時に栽培される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	別学名 <i>Erianthus formosanus</i> var. <i>pollinioides</i> 。奄美地域への影響も危惧されている。	各県:奄美	便覧、写真図鑑、Ylist、目録、園芸事典
187	225	ヤシ	トウ属の一種(カラムス)	<i>Calamus</i> sp.	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-	x													トウ属は約375種がインドからマレーシア熱帯地域に分布。台湾には3種が自生。	石垣島で栽培品が広がっており、今後分布域を拡大する可能性が高い。	つる性	腐植質の多い土壌を好む。多湿を好み、とくに幹の細い種類は湿地に自生するため乾燥に弱い。	日本ではカラムスの名前で観葉植物に利用されている。全体に刺が多く鉢栽培には不適。タイワントウ(シマトウ、水藤、スイトウ、スイトスル) <i>C. formosanus</i> 、ロタントウ <i>C. rotang</i> (<i>C. roxburghii</i>) 等が販売、栽培される。	西表島や石垣島の自然林に定着し、在来植物との競合、駆逐が危惧される。棘があることから、人的な被害も予想される。駆除は困難になると予測される。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	未同定のため、トウ属かどうか断定できない。西表島や石垣島の自然林に定着すると、棘による人的な被害も予想され、駆除は困難と思われる。	その他:横田委員	有用、横田委員、Ylist、園芸事典
188	231	カヤツリグサ	シュロガヤツリ(カラカサガヤツリ)	<i>Cyperus alternifolius</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-														マダガスカル原産。世界の熱帯に広く帰化	1937年以前に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で帰化	0.6～1.2m, 多年草	池、河川の岸辺、湿地に生える。古くから栽培されていたものが暖かい地方で逸出していたが、寒さにはかなり強く、最近では関東南部でも越冬し、野生化するようになった。	パピルスに類似した美しい形をしているため、古くから温室で観賞用に栽培される。切り花にも利用される。マダガスカルではむしろやこもを編むのに利用される。小鉢栽培に適した園芸品種シュロガヤツリ(グランキリス) <i>C. alternifolius</i> 'Grancilis'も、流通、栽培される。水温は20～25℃にすれば旺盛に生育する。越冬温度は5℃(くらい)。とくに乾燥させなければ池に入れなくても良い。	小笠原では河床で株となり群落を形成。在来の湿地植物(シダなど)を駆逐し、流水路を狭め、水棲生物(魚類、甲殻類、水棲昆虫、クモ、サギ類)にも影響を与えている。自然水域への持ち込みは行うべきではない。	Ylistでは本学名は広義とし、 <i>C. alternifolius</i> ssp. <i>flabelliformis</i> を標準名としている。別学名 <i>C. alternifolius</i> var. <i>obtusangulus</i> <i>C. involucreatus</i> 、 <i>C. alternifolius</i> var. <i>flabelliformis</i> 。増殖は株分けが普通であるが、実生でも、挿木も可能である。	専門家:水生、各県:小笠原、河川:9,17,22	便覧、帰化植物、写真図鑑、有用、Ylist、園芸事典
189	233	ショウガ	ハナシュクシャ(シュクシャ、バタフライジンジャー)	<i>Hedychium coronarium</i>	E小笠原・南西諸島	掲載				-	-	x													インド～マレーシア原産。オーストラリア、南アメリカ、アゾレス諸島、マスカリン諸島、太平洋諸島に分布。アフリカ南部、ハワイ諸島で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。沖縄への渡来年は不明。山口、宮崎、琉球、小笠原で帰化。	2m, 多年草	湿性林、湿地、川岸など、やや湿り気のある場所を好む。自生地では林内に生育する。熱帯では周年、日本では夏から秋にかけて開花する。	切り花や観賞用に広く栽培される。根茎や花の精油を薬用や香水に利用する。根茎のデンプンを食用にする。多くの種間雑種がつけられている。	奄美地域では、国の天然記念物、国立公園特別保護地区である湯湾岳の頂上に植えられて問題とされている。海外で侵略的な外来植物とされ、林内でも生育できるため、生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	めったに結実しないため、おもに根茎による栄養繁殖で増える。	各県:奄美、海外:ISSG	写真図鑑、便覧、有用、JF、園芸事典、IPSW

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文庫

第2回植物WG会議以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 (生物)	輸入	生態系被害 (競合)	交雑	気候	永続	重要地域	人体	経済	産業	利用	付着	混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
																							原産地や分布	日本での分布	生活型									
<p>適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種) 産業又は生業を維持する上で重要で、代替性がなく、その利用にあたっては留意事項に割って適切な管理を行うことが必要な外来種</p> <p>野外的に広がる用途としては、緑化及び牧草としての利用が挙げられますが、それぞれについての基本的な管理の考え方は次のとおりです。また、種ごとに記載する「利用上の留意事項」には種の特性に応じた情報を掲載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化……………(ゾーニング的な考え方について記載) ・牧草……………(牧草地での管理を適切に行うことについて記載) 																																		
190	203	キク	栽培キク属	<i>Chrysanthemum</i> cv.	B定着初期/分布限定	掲載		産業管理		-	-														キク属は200種類以上あり、北半球の温帯域を中心に分。代表的な観賞用のキク(イエギク) <i>C. x morifolium</i> は中国原産とされ、チョウセンノギク <i>C. zawadskii</i> ssp. <i>latilobum</i> とシマカンギク <i>C. indicum</i> の交雑により育成されたと考えられる。	奈良時代の初期から栽培。シロムシヨケギク(ジョチュウギク) <i>C. cinerariifolium</i> とアカムシヨケギク(ベルシャジョチュウギク) は北海道、 <i>C. ooccineum</i> シュンギク <i>C. coronarium</i> は、千葉、東京、神奈川県、広島で逸出。	一年草〜亜低木	キク(イエギク)は、比較の耐寒性があり、関東以西では野外で越冬する。	奈良時代の初期から広く栽培。	絶滅危惧種を含むキク属の遺伝的攪乱を引き起こすことから、絶滅危惧種で交雑が確認されているオオイワインチョンやナカガワノギクを始め、野生キク属の生育場所の周辺では利用を控えるか、花粉をつけない品種を利用する等、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	キク属は交雑しやすいことが古くから知られ、19世紀にはイエギク×イソギク(ハナノギク) (ウゴシオギク) が確認されている。その他、イエギク×シマカンギク=サンインギク、サンインギク×ノジギク=ニジガハマギク、ナカガワノギク×シマカンギク=ワジキギク、シオギク×ノジギク、サツマノギク×シマカンギク、オオイワインチョン×リュウノウギク=トガクシギク、キシオギク×シマカンギク=ヒノサキギク、アワコガネギク×リュウノウギク=シロバナアブラギク、イエギク×コハマギク=ミヤトジマギク、イエギク×ノジギク、シオギク×リュウノウギク、キシオギク×リュウノウギク、シマカンギク×リュウノウギクの雑種が知られている。キク属には、絶滅危惧種として、イワギク(VU)、オオイワインチョン(VU)、オオシマノジギク(VU)、キクタノギク(NT)、チシマコハマギク(VU)、チョウセンノギク(EN)、トカラノギク(NT)、ナカガワノギク(NT)、ヒレオギク(VU)、ワカサマハマギク(NT)が含まれる。ハナアブにより、お供えのキクの花粉が運ばれていることも指摘されている。	10	専門家: 交雑	花粉、有用、園芸事典、いがり(2007)、中田(1997)
191	89	マタタビ	キウイフルーツ(シナサルナシ)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	C分布拡大期	掲載		産業管理		-	-													中国原産で、ニュージーランドで改良されて品種が渡来。	本州と四国の一部で逸出	8m、つる性の落葉木本	幼木時代には寒害を受けやすいが、樹齢が進めば休眠中の耐寒性は相当に強くなる。遅霜、風害には弱い。土壌条件は乾燥、過湿にも弱い。ミカンの育つところなら良く育つ。	1969年に実生苗と導入苗から初結実をみて、近年栽培面積が増加している。様々な品種がある。	河川で増加傾向にあり、鳥により種子が散布されること等から、雑木林への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所で栽培を中止する場合は、つるが周囲に伸びたり、種子が運ばれることのないよう、適切な管理が望まれる。	耕作放棄地等からつるが伸び出して周囲の植生を圧迫する可能性がある。種子をつけ始めると急速に分布拡大の危険性がある。雌雄異株なので、結実には両性の株が必要。別学名 <i>Actinidia deliciosa</i> , オニサルナシ(広義) <i>Actinidia chinensis</i>	7、各県、埼玉・愛媛、河川: 0,5,10	専門家: 雑木委員、河川: 愛媛、河川: 0,5,10	便覧、木本、有用、JF、Ylist、園芸事典	
192	102	バラ	セイヨウヤブイチゴ(ブラックベリー)	<i>Rubus armeniacus</i>	C分布拡大期	掲載		産業管理		-	-													ヨーロッパまたは北アメリカ原産。オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ南部で侵略的。	昭和初期に渡来? 北海道~九州の多くの地域で帰化。	2~6m、つる性の低木	草原、低木林、森林、川岸、撓乱地に生育。日本では、平地や低地の主に道路沿いに生える。条件の良いところは藪になる。	ブラックベリーの名で各地で栽培され、果実は生食やジャム、ワイン製造に利用。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布され、栄養繁殖を行うこと等から、周辺に逸出することのないよう、適切に管理する必要がある。	葉柄および葉脈の裏に堅い刺がある。茎の先端が発根して栄養繁殖を行う。別学名 <i>R. fruticosus</i> 。この種はヨーロッパ系のブラックベリーの総称名。よく似た種類多数区別され、分類が難しい。	その他: 西田委員、河川: 1,1,3	便覧、帰化植物、写真図鑑、Ylist、有用、JF、IPSW		
193	102	バラ	ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	Dまん延期	掲載		産業管理		-	-		x											中国四川省、湖北省原産。北アメリカ、太平洋諸島、レユニオン島に分布。	奈良時代からあり、本州(関東以西)、四国、九州で野生レユニオン島に分布。	5m、常緑高木	日本では、暖地の石灰岩地に生える。海外では、農耕地、自然林、植林地、河岸、荒地、撓乱地に生育する。	様々な品種が食用に栽培される。薬用にも利用される。海外でも食用や観賞用に栽培される。	ビワが生育する石灰岩地は、特有な植物群落が生ずる貴重な環境である。そのため、そうした場所に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	太平洋諸島やレユニオンでは侵略的な外来種となっている。	13、ISSG	専門家: 岩場、海外: 13、ISSG	便覧、木本	
194	103	マメ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>	Dまん延期	掲載		産業管理		-	-		x											北アメリカ合衆国、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、南アメリカに分布。	明治8年の渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。	25m、落葉高木	市街地や海岸から低山地までの荒地、土手、野原などにしばしば群生する。	・庭木、街路樹、砂防林、肥料木、薪炭材等に利用される。・アカシア蜂蜜として単花蜜で高品質な蜂蜜が生産されるため、養蜂業においては最重要蜜源植物のひとつ。・アカシア蜂蜜は国産蜂蜜では最も高価で取引されている。特に長野県、秋田県等のアカシア蜂蜜主産県では、開花状況によって年度変動はあるものの、8割から9割がアカシア蜂蜜であり、代替となる種は現在のところ存在しない。	・河川を中心に分布を拡大しており、北海道他9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれには配慮するほか、生物多様性保全上重要な地域では使用を避けることが望ましい。・リンゴ炭そ病が高温多湿化の梅雨時に、ニセアカシアの花弁が果実に着着することで伝播するとの報告があり、リンゴ園周辺では、使用を避けることが望ましい。	・H24に改正された養蜂振興法第六十二条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国、地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	外来法: 要注意、W100: 日本、村中: A、FAO: 10、対策: H20<4、H23.4、専門家: 北海道・青森・埼玉・兵庫・愛媛・鳥取・愛媛、河川: 56,89,97、三省、国道、海外: ISSG	便覧、帰化植物、雑草、農水産省		

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物輸入	生態系被害 競合 交雑 変異	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など
195	103	マメ	ムラサキツメクサ (アカツメクサ、ア カクローバ、レッド クローバ)	<i>Trifolium pratense</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	高山	-	-										ヨーロッパ東南部 原産。北アフリカ、 アジア、オセアニア、 南北アメリカ等。亜寒帯～温帯 に多く、熱帯の一部 まで広がる	日本には江戸時代に導入、 北海道、本州、四国、九州、 琉球、	0.7m、多 年草	畑地、芝地、路傍、荒地などに 生育。市街地の道路から山岳 地帯の道路法面までごく普通 にみられる。冷涼、湿潤な気 候に適し、耐寒性はかなり強 い。	・飼料用(放牧・採草兼用)や緑化 用等として広く利用されており、多 くの種苗会社から種子が販売され ており、公的機関及び民間種苗会 社での品種開発も行われている。 ・牧草として利用する際は、種子が 結実する前に収穫するため、種子 が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 ・マメ科牧草は窒素固定をするた め施肥量の削減や、栄養価(タン パク質)の向上の観点から非常に 重要な牧草であり、世界的に利用 されている。特に、アカクローバは 栄養価と生産性が高い種であり、 これらの点において我が国で利用 可能な代替種はない。 ・多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 ・一般的にアルファルファやシロク ローバよりも耐暑性や永続性に劣 ることから、琉球(奄美)～沖縄地 方での雑草化は、仮にあっても非 常に短期的なものと考えられる。	河川での分布の拡大が確認され ている。ムラサキツメクサが侵入 する寒冷地や山岳地帯には、自 然性が高い地域や、希少種の生 育環境が含まれている。そのため、 このような場所で利用する場合 には、種子の逸出を防止する 配慮が必要である。牧草利用す る際には、牧草地外への種子の 逸出を防止するために、結実前 に刈り取り、周縁部の草刈りを適 切に行うとともに、利用しない種 子については放置せずに適切に 処分するよう努める。その他の非 意図的な外来種の混入を防ぐ観 点から、種子証明のある種子の 利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センタ ー法第10条三)として、増殖を行 っている。 ・北海道のブルーリストでA2(本 道の生態系等へ大きな影響を及 ぼしており、防除対策の必要性 について検討する外来種)に分類 されている。 また、礼文島において生育が確 認されているとの報告がある。 種子と匍匐茎による繁殖する。 種子は、風、雨、動物、人間によ り分散される。海外では雑草化し ている地域がある。	村中:C、各 河 川:67,107,112	世雄、便覧、 写真図鑑、牧 草、環境省、農 林水産省、有用
196	103	マメ	シロツメクサ(ホウ イトクローバ)	<i>Trifolium repens</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	高山	-	-										ヨーロッパ原産。 ヨーロッパ、北アフリ カ、アジア、オセ アニア、南北アメリ カ等。亜寒帯～温 帯に分布し、一部 は熱帯に広がる。 オーストラリアで 侵略的となっている。	日本には江戸時代初期に入り、 後に輸入されたものが広が った。北海道～琉球に分布 する。	茎の長 さ1m、多 年草	畑地、牧草地、路傍、荒地など に生育し、高地まで生える。 耐寒性が強く、土壌の種類を 選ばない。	・飼料用(放牧・採草兼用)や緑化 用等として広く利用され、多くの 種苗会社から種子が販売されて おり、公的機関及び民間種苗会 社での品種開発も行われている。 ・牧草として利用する際は、種子 が結実する前に収穫するため、種 子が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 ・マメ科牧草は、窒素固定をする ため施肥量の削減や栄養価(タン パク質)の向上の観点から非常に 重要な飼料作物であり、世界的に 利用されている。特に、シロクロー バは、暑さに比較的強くかつ栄養 価と永続性が高い種であり、これ らの点において我が国で利用可能 な代替種はない。 ・多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 ・緑化植物として広く利用されて おり、在来種の製品も一部開発さ れているようだが、国内産在来種 は、十分な生産・供給体制が確保 されておらず、そのため海外産在 来種を使用している実態。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地 やり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、広く利 用されており、代替となる種を特 定することは現時点において困難	海外で侵略的な外来種とされ、 日本でも河川での分布の拡大が 確認されている。耐寒性がある ことから、特に高地にある草原へ の影響が危惧されている。山岳地 帯にある国立公園では、駆除の 対象となっている。こうした環 境は自然性が高い、希少種の生 育環境が含まれる。希少種の生 息・生育する自然草原の周辺や 国立公園の中では可能な限り利 用を控えるか、利用する場合は 、種子の逸出を防止する配慮 が必要である。牧草利用する際 には、牧草地外への種子の逸出 を防止するために、結実前に刈 り取り、周縁部の草刈りを適切 に行うとともに、利用しない種 子については放置せずに適切に 処分するよう努める。その他の非 意図的な外来種の混入を防ぐ観 点から、種子証明のある種子の 利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センタ ー法第10条三)として、増殖を行 っている。 ・北海道のブルーリストでA2(本 道の生態系等へ大きな影響を及 ぼしており、防除対策の必要性 について検討する外来種)に分類 されている。 ・白山国立公園や、中部山岳国 立公園の立山黒部アルペンル ートなどで駆除の対象となってい る。 ・種子と匍匐茎により繁殖する。 種子は風、雨、動物、人間に分 散される。家畜が食べても種子 は生存している。畑地、休耕地、 果樹園、芝生の雑草とされる。 オーストラリアでは、ダニの宿主 となって在来植物に大きな損害 を与えた。	村中:B、 FAO:7、対策: H20.6、専門 家:草原47、各 河川: 78,118,121、 三省:環・農・林・ 国都:ISSG	世雄、便覧、 雑管、農林水産 省・林野庁、IP SW
197	224	イネ	コヌカグサ(レッド トップ)	<i>Agrostis gigantea</i>	Dまん延期	掲載		産業管理	湿原	-	-										ヨーロッパ原産。 北アフリカ、アジ ア、オセアニア、南 北アメリカ等。温帯 ～亜寒帯、合衆国 やカナダで侵略的 とされる。	明治初年に導入され、北海 道、本州、四国、九州、琉球 (奄美大島)	1.0m、多 年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、 草原、湿地、水辺などに生育。 日当たりの良い所を好む。 耐寒性が強く、強酸性土壌に 生え、耐旱性もある。湿潤であ れば土壌の種類を選ばないが、 一般に粘質土壌～壤土に多 く、やせた土地にも適する。	・飼料用、特に放牧用として利用 されている。種子流通量は多くは ないが、国内の種苗会社から販 売されている。 ・牧草としては、生産性や栄養価 はあまり高くないものの、やせた 土地などの条件不利地や林間放 牧での利用においては、代替とな る種はほとんどない。 ・いくつかの県の奨励品種に登録 されており、生産が奨励されてい る。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地 やり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、広く利 用されている。	・河川での分布拡大のほか、三 省調査でも法面緑化地周辺で逸 出が確認されている。青森県や 栃木県では自然草原に侵入し、 問題となっている。 ・国立公園や草原に特有な希少 種等が生育する自然草原の周辺 では可能な限り利用を控えるか、 このような場所で利用する場合 には、種子の逸出を防止する配 慮が必要である。牧草利用する 際には、牧草地外への種子の逸 出を防止するために、結実前に 刈り取り、周縁部の草刈りを適 切に行うとともに、利用しない 種子については放置せずに適切 に処分するよう努める。その他 の非意図的な外来種の混入を 防ぐ観点から、種子証明のある 種子の利用が望ましい。	別学名 <i>Agrostis alba</i> 、 種子、地下茎および匍匐茎で繁 殖する。1穂当たりの生存種子 数は約1,000個、休眠期間が短 く、湿潤な土壌表面で容易に発 芽する。土壌中の種子の寿命は 5年以上、アレロパシー作用を持 つ。 世界的に温帯～亜寒帯地域に みられる畑地雑草で、コムギ、 オムギ、エンバク、牧草類、果 樹類の減収や品質低下をもたら す。日本でもコムギ、バレイシ、 テンサイ畑の雑草とされる。在 来種が再生するような環境では、 コヌカグサを緑化につかうべき ではないとされる(ISSG)。近 縁種にクロコヌカグサ <i>A. nigra</i> と の間に中間型がある。	村中:B、各 河川: 52,87,93、三 省:環・農・林・ 国都:ISSG	便覧、イネ、世 雄、雑管、牧 草、粗飼料、花 粉、農林水産 省・林野庁、 Ylist、GCW
198	224	イネ	カモガヤ(オー チャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>	Dまん延期	掲載		産業利用		-	-										地中海～西アジア 原産。ヨーロッパ、 アジア、オセアニア、 南北アメリカ等の温帯	1861～1864年(文久年間)に 渡来、1868年(明治初年)に アメリカから導入、北海道、 本州、四国、九州、琉球	1.5m、多 年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、土 手、草地、河川敷、林縁、湿 地、沿岸域等に生育。日当た りの良い温暖地で、肥沃な所 を好む	・飼料用(主に採草用)としてチ モシーと並び最も広く利用され ており、沖縄を除く全国で栽培 されており、特に北海道～東北 地方では基幹となる草種。世 界的に利用されている牧草種 のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種 子が結実する前に収穫するため、 種子が飛散して繁殖する可能性 は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売され ており、公的機関及び民間種苗 会社での品種開発も行われてい る。 ・生産性・永続性・栄養価等の観 点から、代替となる草種はない。 ・多くの県の奨励品種に登録さ れており、生産が奨励されてい る。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊 地やり面等の緑化)の観点から 非常に優れていることから、広く 利用されている。	・海外で侵略的な外来種とされ、 日本でも河川で分布を拡大し、 三省調査でも法面緑化地周辺で 逸出が確認されている。特に、 北海道や本州の亜高山帯にある 国立公園の自然草原へ侵入し、 草原に特有な希少種等への影 響が問題となっている。このよ うな場所で利用する場合には、 種子の逸出を防止する配慮が 必要である。牧草利用する際 には、牧草地外への種子の逸出 を防止するために、結実前に刈 り取り、周縁部の草刈りを適切 に行うとともに、利用しない種 子については放置せずに適切に 処分するよう努める。その他 の非意図的な外来種の混入を 防ぐ観点から、種子証明のある 種子の利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センタ ー法第10条三)として、増殖を行 っている。 ・トウモロコシ、モロコシ、コム ギ、牧草、果樹の雑草、イネ科 やマメ科の牧草種子に混入して、 品質を低下。	外来法:要注 意、W100:日 本、村中:A、 FAO:10、專 門家:草原42、 各県:青森・埼 玉・愛知・兵庫 ・富山、河川: 57,104,105、 三省:環・農・林 ・国都:国道	便覧、農作物 写真図鑑、 世雄、雑管、 花粉、外来生 物、IPSW、農 林水産省・林 野庁

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献、

第2回植物WG会議以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型	生育環境など					
199	224	イネ	オニウシノケグサ (トールフェスク、 ケンタッキー31フェ スク)	<i>Festuca arundinacea</i>	Dまん延期	掲載		産業管理		-	-							()			ヨーロッパ、北ア フリカ、西アジア原 産、亜寒帯～暖帯	1905(明治38)年に導入、北 海道、本州、四国、九州、琉 球、亜高山帯の自然公園に も侵入	2.0m、多 年草	牧草地、市街地、運動場、庭、 路傍、荒地、河原、林縁等に 生育、日当たりの良い、肥沃 で水分の豊富な所を好む。	・チモシーやオーチャードグラスと比較 すると栄養価は劣るが、環境変異に強 いため飼料用(主に放牧用)や緑化用と して全国で利用されている。特に、寒地 型の永年生の牧草としては、関東以西 の温暖地で利用可能な種が非常に少 なく、代替品種はない、世界的に利用さ れている牧草種のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種子が結実 する前に収穫するため、種子が飛散し て繁殖する可能性は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売されており、 公的機関及び民間種苗会社での品種 開発も行われている。 ・多くの県の奨励品種に登録されてお り、生産が奨励されている。 ・生態系環境配慮型「トールフェスク」と して、農研機構及び雪印種苗が共同開 発した「MST-1(無花粉トールフェス ク)」や生産性の低い「ボンサイ300 (矮性トールフェスク)」という品種が開 発されているが、種子の価格が高いと して生産性が低いこと等から、緑化用と しての利用に限定されており、代替は 非常に困難。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やの り面等の緑化)の観点から非常に優れ ていることから、広(利用)されている。 ・奄美地域では、要注意外来生物に選 定される等で利用されなくなった。	・海外で侵略的外来種とされ、 日本でも河川で分布を拡大し、三 省調査で法面緑化地周辺で逸出 が確認されている。特に、北海道 や本州の亜高山帯にある国立公 園の自然草原へ侵入し、草原に 特有な希少種等への影響が問題 となっている。このような場所で 利用する場合には、種子の逸出 を防止する配慮が必要である。 ・牧草利用する際は、牧草地が への種子の逸出を防止するため に、結実前に刈り取り、周縁部の 草刈りを適切に行うとともに、利 用しない種子については放置せ ずに適切に処分するよう努める。 その他の非意図的な外来種の混 入を防ぐ観点から、種子証明の ある種子の利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センター 法§10 三)として、増殖を行っ ている。 ・オーストラリア、ニュージーラ ン、合衆国の一部地域で侵略的 となっている。	外来法:要注 意、W100:日 本、村中:A、 FAO:8、専門 家:草原43、各 県:青森、栃木、 埼玉、愛知、広 島、佐賀、奄美、 河川: 61,99,112、三 省:環、農、林、国 道	世雑、花粉、 外来生物、 IPSW、農林水 産省・林野庁
200	224	イネ	ドクムギ属(ネズミ ムギ(イタリアンラ イグラス)、ホソム ギ(ベレニアルライ グラス)、ネズミホ ソムギ(ハイブリッ ドライグラス)等)	<i>Lolium spp. (L. multiflorum, L. perenne, L. x hybridum)</i>	Dまん延期	掲載		産業管理		-	-	x									ヨーロッパ原産、 温帯～暖帯	明治時代に入り、北海道、本 州、四国、九州、琉球。	1.0m、一 年草多 年草	畑地、樹園地、路傍、空地、荒 地に生育、日当たりの良い、 温暖な肥沃地を好む。	・飼料用(主に採草用)として全国 で利用されており、関東以西の半 年生牧草としては、(おそらく)最も 利用されている草種。北海道・沖 縄を除く地域では、基幹となる草 種。 ・牧草として利用する際は、種子 が結実する前に収穫するため、種子 が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 ・多くの種苗会社から販売されてお り、公的機関及び民間種苗会社 での品種開発も行われている。 ・多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 ・比較的耐湿性を有することから水 田裏作での栽培に適していること や、さらに生産性・栄養価・嗜好性 等非常に優れており、代替となる 種はない。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地 やのり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、利用され ている。	河川での分布拡大のほか、三省 調査でも法面緑化地周辺で逸出 が確認されている。特に、河川敷 への侵入が問題となっている。国 立公園や、特有な希少種等が生 育している河川敷周辺では可能 な限り利用を控えるか、このよ うな場所で利用する場合には、種 子の逸出を防止する配慮が必要 である。牧草利用する際は、牧 草地外への種子の逸出を防止す るために、結実前に刈り取り、周 縁部の草刈りを適切に行うと ともに、利用しない種子について は放置せずに適切に処分するよ う努める。その他の非意図的な外 来種の混入を防ぐ観点から、種 子証明のある種子の利用が望ま しい。	・(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センター 法§10 三)として、増殖を行っ ている。 ネズミムギ(イタリアンライ グラス)やホソムギ(ベレニアルラ イグラス)、これらの雑種であるハイ ブリッドライグラス等が利用され る。	外来法:要注 意、村中:B、 FAO:8、対 策:H23-2、專 門家:河原37、 各県:青森、栃 木、埼玉、愛知、 兵庫、広島、奄 美、河川: 42,66,82 56,100,108、 三省:環、農、国 道	世雑、雑管、 花粉、粗飼料、 農林水産省・林 野庁
201	224	イネ	オオアワガエリ(チ モシー)	<i>Phleum pratense</i>	Dまん延期	掲載		産業管理		-	-										ヨーロッパ～シベ リア原産、温帯	明治初年に入り、全国に分 布	1.0m、多 年草	畑地、樹園地、路傍、荒地に 生育、冷涼で多湿の気候を好 み、年降水量が1,000mm以 上、肥沃な日当たりの良いと ころに多い。	・牧草として優れた性質を持ち、栽 培品種も多い。 ・飼料用(主に採草用)としてオー チャードと並び最も広く利用(沖 縄県を除くほぼ全国)されており、北 海道～東北地方では基幹となる草 種で、北海道で利用される牧草の うち最も面積が広い、世界的に利 用されている牧草種のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種子 が結実する前に収穫するため、種子 が飛散して繁殖する可能性は通常 はない。 ・多くの種苗会社から種子が販売 されており、公的機関及び民間種 苗会社での品種開発も行われてい る。 ・多くの県の奨励品種に登録され ており、生産が奨励されている。 ・生産性・永続性・栄養価等の観点 から、代替となる牧草種はない。 ・緑化植物として広く利用されてお り、在来種の製品も一部開発され ているようだが、国内産在来種 は、十分な生産・供給体制が確保 されておらず、そのため海外産在 来種を使用している実態。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地 やのり面等の緑化)の観点から非 常に優れていることから、利用され ている。	自然草原への侵入が問題となっ ている。国立公園や、特有な希少 種等が生育している自然草原の 周辺では可能な限り利用を控え るか、このような場所で利用す る場合には、種子の逸出を防止す る配慮が必要である。牧草利用 する際は、牧草地外への種子 の逸出を防止するために、結実 前に刈り取り、周縁部の草刈りを 適切に行うとともに、利用しない 種子については放置せずに適切 に処分するよう努める。その他の 非意図的な外来種の混入を防ぐ 観点から、種子証明のある種子 の利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務 (飼料作物の増殖に必要な種苗 の生産・配布 家畜改良センター 法§10 三)として、増殖を行っ ている。	外来法:要注 意、村中:B、 FAO:9、対 策:H20<4、專 門家:草原38、 各県:愛知、河 川:24,39,34、 三省:国道	世雑、農林水 産省・林野庁

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

資料10-2

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候						永続	原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など
202	224	イネ	ギネアキビ(ギネアグラス、ギネアキビ、イヌキビ)	<i>Panicum maximum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載		産業管理		-	-													熱帯の東アフリカ原産。18世紀から20世紀初頭までに熱帯アジアから太平洋・豪州に導入された。現在は、アフリカ、南ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカの熱帯、亜熱帯の各地に広く分布。南アメリカの熱帯地域と太平洋地域のガラパゴス諸島やハワイ諸島で侵略的となっている。	1971年渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球(奄美大島、沖縄島)で帰化。	2m. 多年草(短年性の品種もある)	本来は熱帯アフリカの肥沃な土壌で自生し、最適降雨条件は1,000~1,300mmとされているが、各地に導入されるのに伴い、遺伝的に変異し、多くの生態型がある。耐旱性、耐湿性、耐踏圧性、耐暑性の高い様々な品種が含まれる。路傍、荒地、畑地、牧草地、草地、岩石地、川岸、攪乱地に生育。日当たりの良い湿った所を好み、乾いた土壌にも適応する。	・暖地型(永年性)牧草として、関東-沖縄地方で飼料利用されている牧草種。 ・センチュウ抵抗性があることから、緑肥としてもハウス等での利用が行われている。 ・牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 ・生産性や栄養価が高いことから、飼料的価値は非常に高く、多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・品種開発も公的機関及び民間種苗で行われている。 ・特に沖縄地方で利用可能な草種は限定されるため、代替は困難。	・海外で侵略的外来生物とされ、奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島は固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	ISSGでは <i>Urochloa maxima</i> 、その他別学名多数あり。 ・(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布)家畜改良センター法第10(三)として、増殖を行っている。 種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。種子の生産量は9000個以上/株で、休眠性を持つ。	各県:奄美、河川:0.2、1、海外:ISSG、その他:藤井委員	便覧、写真図鑑、農林水産省、草種、帰化植物、世雄、IPSW
203	224	イネ	アメリカスズメノヒエ(パビアグラス、オニスズメノヒエ)	<i>Paspalum notatum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載		産業管理		-	-												南アメリカ原産。北アメリカ、アフリカ、南アジア、オーストラリアに分布。	1969年渡来。本州、四国、九州、琉球。	0.8m. 多年草	畑地、樹園地、牧草地、水田、路傍に生育。関東以西の日当たり良い湿ったところに生育。土壌の種類を選ばない、耐干性がある。	・飼料用(主に放牧用)として利用されている暖地型の永年性牧草で、関東以西で利用されている。九州地域での利用が盛ん。 ・生産性の高い永年性の牧草としては、耐暑性をもちつつ越冬可能(琉球地域を除く)な種は、他にシマズメノヒエ(ダリスグラス)が知られている程度であり、代替種はない。 ・国内で開発された品種もあり、種子も流通している。 ・いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	・奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島の固有種や希少種の生息・生育地の周辺などでは可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際は、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈を適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	種子と根茎で繁殖する。種子形成量が多く、風、雨、動物、人間で伝播する。アレロパシー作用がある。熱帯-亜熱帯で牧草地から逃げ出して雑草となっている。雑草帯ではイネ、野草、芝草、柑橘類、材木に発現する。海外では危険性の高い植物との評価がある。ブラジルでは深刻な雑草、キューバでは重要な雑草、アルゼンチンやハワイでは一般的な雑草等となっている。	村中:C、各県:広島、奄美、河川:13.41.58、三省:国道	世雄、便覧、水産省、農林水産省、林野庁、GAWW、GCW、PIER	
204	224	イネ	ナビアグラス(ナビアグラス、エレファントグラス、ペルレーグラス)	<i>Pennisetum purpureum</i>	E小笠原・南西諸島	掲載		産業管理		-	-												熱帯アフリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、東南アジア等、世界の熱帯-亜熱帯で栽培され、暖帯の一部にまで分布。アフリカ南部、合衆国南東部、ガラパゴス諸島で侵略的とされる。	1926(昭和初)年に奄美大島に導入され、1955-1965年にかけて九州、沖縄で広く栽培された。千葉県、東京都、鹿児島(奄美諸島)、琉球で帰化。関東以北では、高さ2-4mまでに生育できるが、出穂することなく、冬も越せない。	2-5m. 多年草	畑地、水田、水路、畦畔、溝路傍、森林、草地、荒地、川岸、海岸の砂浜等、幅広い環境に生育する。年間降水量1,000mm以上、日当たりの良い所、湿った土壌を好み、土壌の種類を選ばない、耐旱性が強く、耐冠水性や耐霜性はやや劣る。	・暖地型(永年性)牧草として九州-沖縄地方の無霜地帯で利用があり、世界的に利用されている。主に青刈り、サイレージとして利用されるが、放牧利用されることもある。 ・栄養価及び生産性が高いため、飼料的価値が高く、鹿児島県(奄美)及び沖縄県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・九州-沖縄地方で利用可能な草種は限定されるため、代替は困難。 ・種苗はおもにアフリカ、アメリカ等で行われている。種内の形態的変異が大きい。近縁のトウシロ(パールミレット) <i>P. typhoides</i> の雑種は、不稔であるが生育がよく、飼料に適している。 ・土壌侵食防止や防風のために植え付け、程で根根をいいたり、用い	海外で侵略的となっている地域があり、奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島は固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	奄美地域には鹿児島県RDB準危惧のシマチカラシバ <i>P. sordidum</i> が生育。種子と根茎により繁殖する。種子形成量が多く、ほとんど不稔であるため、主に根茎による繁殖が行われる。繁殖は3-4根節ずつ切った茎を挿すか、株分けによる。茎の断片は1節あると再生し、伝播の重要な手段となる。熱帯-亜熱帯の牧草地から逸出して雑草化している。イネ病害虫の寄主となることも知られている。	各県:奄美、その他:藤井委員	写真図鑑、農林水産省、便覧、世雄、有用、粗飼料、IPSW	

評価を行ったものの掲載種(案)としなかった種

206	189	キツネノマゴ	ヒメタテハグロ(ハイグロフィラ・ポリスペルマ)	<i>Hygrophila polysperma</i>	A未定着																			アジア原産、北アメリカに分布	-	多年生の水草	湖や水路、花を開くチャンスは水槽では少ない、丈夫で広い適応範囲を持つ美しい水草。	日本でも観賞用にいくつかの品種が利用されている。通常、ハイグロといえは本種を指すほどポピュラー。	日本でもアクアリウムプラントとして人気の高い植物だが、これまで野生化したとの情報はない。	海外:ISSG	Ylist、水草、魚野委員
207	204	オモダカ	セイヨウオモダカ	<i>Sagittaria sagittifolia</i>	A未定着																			ヨーロッパ原産、温帯-熱帯	-	0.9m. 多年草	沼、水路、河川に生育する。日当たりの良い、浅水中を好み、土壌の種類を選ばない。	日本での栽培は未確認。海外では、薬用や食用に利用。	オモダカと良く似ている。植物園等で栽培されているが、野生化のリスクは限られ、仮に逸出しても繁殖する可能性は低いと考えられる。	海外:ISSG	世雄、園芸事典、魚野委員
208	204	ハナイ	ハナイ(ハナクサイ)	<i>Butomus umbellatus</i>	A未定着																			ヨーロッパ原産、温帯、中国東北部の湿地ではきわめて普通に自生	-	0.8m. 水生の多年草	水辺、水田に生育する。日当たりの良い水湿地であれば、土壌の種類を選ばない。南ヨーロッパでは水田雑草。	観賞用に利用されることがあるが、日本で販売されているかは未確認。海外では、葉で籠や敷物を作る。根茎を食用にすることがある。	植物園等で栽培されることがあるが、野生化のリスクは限られ、仮に逸出しても繁殖する可能性は低いと考えられる。	海外:ISSG	世雄、有用、園芸事典、Ylist、魚野委員
209	205	トチカガミ	ヨーロッパフロッグビット	<i>Hydrocharis morsur-ranae</i>	A未定着																			アジアとヨーロッパ原産、北アメリカに分布	-	一年生の浮遊植物	湖沼、水路、湿地に生育	日本でも販売されている。	在来種のトチカガミは <i>H. dubia</i> = <i>H. morsur-ranae</i> var. <i>asiatica</i> = <i>H. asiatica</i> 。植物園等で栽培されることがあるが、野生化のリスクは限られ、仮に逸出しても繁殖する可能性は高いと考えられる。	海外:ISSG	水草、園芸事典、魚野委員
210	205	トチカガミ	ストラティオテス・アロイデス	<i>Stratiotes aloides</i>	A未定着																			ヨーロッパ原産。	-	水中	庭池向きの水草で、通常は水に浮かんで生活することが多く、根は水中に垂れるが、時に浅水中の泥土に定着する。繁殖は種子またはランナーより子株を生じて行う。	日本では入荷が少な(珍しい)水草だが、栽培されている。	関東において越冬する。今後、問題が発生すると考えられるため検討が必要。海外では、有害雑草や環境雑草とされている。植物園等で栽培されることがあるが、野生化のリスクは限られ、仮に逸出しても繁殖する可能性は低いと考えられる。	その他:環境省	水草、環境省、魚野委員
211	216	ミスアオイ	ハイホティアオイ	<i>Eichhornia azurea</i>	A未定着																			南アメリカ、南アジアに分布	-	浮遊性の多年草	浅水中では泥土に着生する。水面下に全く形状の異なる水中葉をつくる。通常、水槽では水中葉を用いる。	日本でも、観賞用に利用される。	ホテアアオイの近縁種。植物園等で栽培されることがあるが、野生化のリスクは限られ、仮に逸出しても繁殖する可能性は低いと考えられる。	FAO:9	世雄、水草、魚野委員

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害	分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
													競争	交雑	気候	永続						原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など		
212	46	ヤナギ	ギンドロ(ウラジロハコヤナギ、ハクヨウ)	<i>Populus alba</i>	B 定着初期 / 分布限定					-	-		()									中央アジア、ヨーロッパ原産	明治時代に渡来。北海道、本州で砂防用に植栽、北海道で逸出。	30m. 落葉高木	海外では、農耕地、自然林、林縁、草地、河川敷、市街地に生育。土壌の種類は選ばないが、日当たりの良い所を好む。北海道には海岸等に生育。	庭園樹、街路樹、バルブ材、砂防などに植林。		北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。明治時代から利用されているが、上記以外に日本での侵略性に関する情報は得られなかった。	海外:ISSG	便覧、樹木		
213	173	ミツガシワ	ハナガガバタ(バナナプランツ)	<i>Nymphoides aquatica</i>	B 定着初期 / 分布限定					-	-											北アメリカ東部原産	1990年に兵庫県のため池で野生化が確認されたが、その後消失した。その他に分布拡大の情報はない。	浮葉性の多年草	ため池など	現在も観賞用に販売、利用されている。			外来法:要注意、FAO:7	写真図鑑、魚野委員、水草		
214	108	アマ	キバナノマツバニンジン	<i>Linum medium</i>	C 分布拡大期					-	-											北アメリカ原産。韓国で帰化以外の情報はなかった。	1943年渡来。本州・九州で帰化。	0.8m. 一年草	関東地方では、雑木林の中に在来の植物に混じって発生することがある。造成地などに群生する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			別学名 <i>L. virginianum</i> 。自然草地にも生育するが、個体数は多いものの在来種を圧倒するような状況は見られない。検討不要では？希少種の生育する湿地にも侵入するが、葉を広げないことから競合の影響は小さい？	専門家:湿地 14. 河川: 4.9.10	便覧、写真図鑑、帰化植物、藤井委員、Ylist、GCW	
215	109	トウダイグサ	シナアブラギリ(オオアブラギリ)	<i>Vernicia fordii</i>	C 分布拡大期					-	-											中国南部原産。オーストラリアや合衆国に帰化。	大正初年に渡来。近畿以～九州で逸出帰化。	12m. 落葉高木	在来種の樹林に侵入し競合するおそれがある。	桐油の質はアブラギリ <i>A. cordata</i> より良好で、日本でも一部栽培されている。昔は和傘や提灯用の油紙に利用された。中国では薬用に、インドネシアでは香料とする。			別学名: <i>Aleurites fordii</i> 。JFには掲載されていない。古い時代から利用されているが、それほど侵略性にはなっていない？今後の利用も多々あると思われるため、掲載種としなかった。	各県:愛媛	便覧、樹木、JF、園芸書、有用、GCW	
216	183	シソ	ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>	C 分布拡大期					-	-		()									ヨーロッパ原産。北米で帰化。	1975年に渡来。本州、九州の一部で逸出、帰化。やまな、	0.7m. 多年草	畑地、溝、土手、水路、あぜ、湿った牧草地、林縁などに生育。気候的には涼涼で、湿潤な肥沃地を好む。生活環境に対する適応性が大きい。	香料に用いる。日本には栽培用に導入され、一部に帰化。近年の利用に関する情報は得られなかった。			多形な種で、地理的な変異が認められている。在来種のハッカ <i>Mentha arvensis</i> var. <i>piperascens</i> は変種で、競合する可能性がある。不快な臭いがある。本属は種間交雑が容易に起こるが、交雑種はしばしば不稔とされる。	河川:0,4,12	世維、便覧、写真図鑑、帰化植物、園芸書	
217	183	シソ	マルバハッカ(ニガハッカ)	<i>Mentha suaveolens</i>	C 分布拡大期					-	-		()									ヨーロッパ原産。ニュージーランド等に帰化。	渡来年代不明。関東～四国、九州で逸出、帰化。	0.8m. 多年草	湿った道端や空地に生える。人家付近で野生化する。繁殖力が旺盛である。	ハーブとして栽培され、多用される。			<i>M. rotundifolia</i> は本種とナガバハッカ <i>M. longifolia</i> の雑種ではないかと考えられている。	河川:0,1,19	便覧、写真図鑑、帰化植物、園芸辞典、GCW	
218	183	シソ	アメリカハッカ	<i>Mentha x gentilis</i>	C 分布拡大期					-	-											ヨーロッパ、北アメリカ	渡来年代は不明だが、1931年に大阪で採集。北海道、本州、四国で、まれに帰化。	0.8m. 多年草		日本での本種の栽培に関する情報は得られなかった。			ヨウシュハッカとオランダハッカ(ミドリハッカ)の雑種。ハッカの仲間では雑種を作り易い。	河川:0,2,10	便覧、帰化植物	
219	186	ゴマノハグサ	コテングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia</i> ssp. <i>serpyllifolia</i>	C 分布拡大期					-	-		()									ヨーロッパ原産。南北アメリカ、中国、ニュージーランドに帰化。	1947年渡来。北海道、本州、四国で帰化。亜高山帯の林縁にまれに帰化している。栃木県ではシカによる在来植物の食害と、足への付着により分布を拡大。	0.2m. 多年草	畑地、樹園地、牧草地、芝生、路傍、林縁などに生育する。肥沃で湿った所を好む。よく分枝してマット状に広がる。	北海道では水田畔のカバープラントに使われたことがある。			在来種のテングクワガタ <i>V. serpyllifolia</i> ssp. <i>humifusa</i> は亜種。	各県:栃木、河川:0,0,6、海外:ISSG	世維、便覧、帰化植物、写真図鑑	
220	224	イネ	ハガワリトボシガラ	<i>Festuca heterophylla</i>	C 分布拡大期					-	-											ヨーロッパ中南部～西アジア原産。	1985年渡来。本州、四国、九州で帰化。	1.2m. 多年草	路傍などに野生化。長野県霧ヶ峰、富士山登山道で採取、分布拡大の可能性あり。	砂防または法面緑化用として利用。			侵略性に関するその他の情報が得られなかった。	各県:広島、河川:0,4,3	便覧、帰化植物、イネ	
221	64	サデシコ	ムシドリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	D まん延期					-	-											ヨーロッパ原産。各国で観賞用に栽培され、野生化。	江戸時代末期に観賞用植物として渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。	0.7m. 一年草	河川敷、市街地、荒地、道端に生育。病虫、害虫も丈夫である。日当たりと排水の良い肥沃な土壌を好む。	観賞用植物として花壇などで栽培。玉咲きの園芸種などもある。			河川で分布を拡大しており、河原に生育する植物や景観への影響が懸念される。河川を通じて、分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	専門家:河原 17. 河川: 50,97,104	便覧、写真図鑑、有用、園芸書、JF、帰化植物	
223	95	アブラナ	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>	D まん延期					-	-	x										ヨーロッパ原産。南北アメリカ、アジア、アフリカ、オセアニアなど温帯に分布。	明治初年に渡来。北海道、本州、四国、九州。	1.0m. 一年草	河原、線路沿い、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育。日当たりのよい温暖地を好み、肥沃地ほど生育が良い。	油糧植物として利用。開花前は野菜としても利用。近縁種のアブラナ <i>B. rapa</i> は、江戸時代以前から油糧用に栽培されていたが、セイヨウアブラナにとって代わられた。アブラナの品種としては、カブやハクサイ等の野菜や、観賞用のハナナ(ナ)ハナ <i>B. rapa</i> var. <i>amplexicaulis</i> 等が栽培される。景観改善や観光等の目的で植栽される場合が多い。	河川で分布を拡大しており、在来植物への影響が懸念されることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	反芻家畜では中毒症状を起す。堤防弱体化の原因の一つとされる。種子散は動物や水で運ばれ、土壌中での寿命は長い。ではない。	各県:広島、愛媛、群馬、河川:19,46,74	写真図鑑、世維、便覧、有用、園芸、花粉、牧草、帰化植物、園芸書、典、JF、江川、加藤		
224	95	アブラナ	ショカツサイ(ハナダイコン、オオアラセイトウ、ムラサキハナナ)	<i>Orychophragmus violaceus</i>	D まん延期					-	-	x										中国原産。	江戸時代に導入されたが、一般的になったのは1939年に持ち込まれた種子により広められたため。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.5m. 越年草	路傍、堤防、土手、林縁などに生育。	路傍や堤防などに人為的に播種されることも多い。花がリラと称し、空き地にまかれることがあった。	春植物と競合し、駆逐するおそれがあることから、こうした生活型を持つ絶滅危惧種が生育する場所には、持ち込みない配慮が必要である。			埼玉県ではスミレ類やアマナなどの在来種を駆逐。群馬県でも在来の春植物を駆逐。一度植えると毎年こぼれ種から育つ。持続的土壌ソーダバンクを形成。種子は重力散布。検討不要ではとの意見あり。	対策:H23-1、各県:埼玉、群馬、河川: 8.28.42	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、手塚、園芸辞典、JF
225	150	アカバナ	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	D まん延期					-	-	x										北アメリカ原産。温帯	明治後期に渡来。北海道～九州、琉球で帰化。	2m. 一年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、川岸、荒地などに生育。上高地や鳥取砂丘で駆除。	根や若芽が食用としてときに利用され、また果実に含まれる脂肪酸をとるために栽培されることがある。			アレチマツヨイグサとの区別が十分でないため、分けての評価は困難か？アレチマツヨイグサとの中間型あり。検討不要？	外来法:要注意、村中:B、対策:H23-1、各県:青森、愛知、京都、河川:74,116,119	世維、便覧、帰化植物、藤井委員、勝山委員、園芸書	
226	150	アカバナ	アレチマツヨイグサ	<i>Oenothera parviflora</i>	D まん延期					-	-	x										北アメリカ東部原産。	明治時代(?)に渡来。北海道～九州、琉球で帰化。	1.5m. 二年草	開けた攪乱された場所に生育。最近ではメマツヨイグサより多く見られる。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			メマツヨイグサとの区別が十分でないため、分けての評価は困難か？花弁の間に隙間がある。メマツヨイグサとの中間型あり。検討不要？	村中:B、対策:H20<4、各県:草原46、各県:京都、河川:0,0,5	便覧、写真図鑑、帰化植物、藤井委員、勝山委員	

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献。

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性 生物 輸入	生態系被害 競合 交雑 改変	分布拡大: 拡散				重要地域	人体	経済産業	利用	付着・混入	生態的特徴		利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
												散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など
227	150	アカバナ	マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i>	Dまん延期					-	-	x						()			南アメリカ原産、アフリカ等温帯～亜熱帯	1851年に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	1m、2-多年草	樹園地、路傍、河原、土手、荒地などに生育する。日当たりの良い肥沃地を好み、海岸、河原の砂地にしばしば大群落を作る。	園芸植物として渡来、ドライフラワーとして流通、利用される。	-	検討不要?	専門家: 砂浜27、河川: 27,51,50	世雄、便覧、写真図鑑、藤井委員、JF
228	176	アカネ	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i>	Dまん延期					-	-	x						()			北アメリカ原産、アジアの温帯。	1953年渡来、本州(関東以西)、四国、九州。	一年草	水田の畦道、河原の湿地、草原に生育。マット状を呈する。	ダム湛水斜面緑化植物として利用。	-	九州の筑後川中流域の河岸の牧草地に多発して問題。大量利用されることに懸念はあるが、侵略性に関する情報は、あまり得られなかった。	村中C、河川: 7,19,27	便覧、写真図鑑、緑化植物、今村・内田(2011)、緑化植物ML、応用生農工学第4回勉強会
229	178	ヒルガオ	マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>	Dまん延期					-	-	-						()			熱帯アメリカ原産、温帯～熱帯	嘉永年間(1850年前後)に渡来、本州、四国、九州に帰化。	一年草、つる植物	畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育。日当たりのよい所を好み、土壌環境への適応性は大きい。	観賞用に流通、利用されている。	-	飼料畑、果樹園、路傍で問題雑草。侵入年代が古く、これ以上の分布拡大、重要地域への侵入はあまりなさそうか?	各県: 京都、河川: 28,52,57	世雄、雑管、便覧、写真図鑑、JF、園芸重典
230	178	ヒルガオ	マメアサガオ(ヒメアサガオ、ヒラムシアサガオ)	<i>Ipomoea lacunosa</i>	Dまん延期					-	-	-						()			北アメリカ原産、アジアに分布。	戦後に輸入食料に混ざって渡来、1955年に東京近郊で帰化。北海道、本州、四国、九州、琉球で帰化。	1-3m、つる性の一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、河川敷などに生育。日当たりが良い肥沃地を好み、	本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	分布拡大は顕著ではなく、重要地域への侵入はあまりなさそうか?	各県: 京都、河川: 22,56,62	世雄、便覧、写真図鑑、緑化植物
231	186	ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ(ニウタバコ)	<i>Verbascum thapsus</i>	Dまん延期					-	-	x						()			ヨーロッパ原産、アジア、オーストラリア、南北アメリカなど寒帯～温帯	明治初年に、観賞用に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球で帰化。	2m、一年草	畑地、牧草地、放牧地、路傍、荒地、鉄道の路肩などに生育する。日当たりの良い砂質土壌に多い。土質を選ばずよく育ち、こぼれ種子で増えている。	近縁種との雑種を含む園芸品種が観賞用に栽培される。薬用に用いられる。	海外で侵略的な外来種とされ、草本としては大型であること、種子の生産量が多く寿命も長いこと等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	専門家: 河原40、河川: 21,34,44、海外: ISSG	世雄、便覧、緑化植物、JF、園芸重典、有用	
232	188	ノウゼンカズラ	キササゲ	<i>Catalpa ovata</i>	Dまん延期					-	-	x						()			中国原産	庭園樹として古い時代に渡来、本州、四国、九州で逸出帰化。東京都多摩川で多数が生育。	10m、落葉高木	しばしば人家近くの川岸などに野生化している。	古くから暖地で、薬用または観賞用に栽培される。材を下駄などに利用したり、若葉を食用にもした。	-	種子は風散布される。古くから利用されているわりには、確認河川数は多くなく、侵略性に関する情報が少なかった。	河川: 10,21,19、その他: 環境省	便覧、木本有用、日本緑化学会誌 34(1)、69-74、園芸重典、JF
233	203	キク	ブタクサ	<i>Ambrosia elatior</i>	Dまん延期					-	-	x						()			北アメリカ原産、アジア、ヨーロッパに帰化	明治初期渡来、北海道～九州、琉球に帰化。	1.5m、一年草	畑地、牧草地、空地、道端、河川敷、土壌の種類や水分に対する適応性が大きく、畑を放置するとブタクサ群落になる。	若芽は煮てから水にさらして食べられる。果実には約20%の油脂を含み、食用になる。研究用にブタクサ花粉が販売されている。花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や蕾の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。	遷移が進むと消えるが、シードバンクを作る。	外來法: 要注意、村中: C、各県: 北海道、青森、愛知、京都、鳥取、愛媛、河川: 61,97,102	世雄、花粉、便覧、写真図鑑、緑化植物、有用	
234	203	キク	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	Dまん延期					-	-	-						()			南アメリカ原産、世界の暖帯～熱帯に分布	1920年前後渡来、北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。	1.8m、越年草	畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、河川敷などに生える。土壌の種類や環境条件に対する適応性が大きい。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	種子の生産量多く、極めて遠方まで飛散する。埼玉ではカラヨモギやカラハハコと競合。検討不要? ISSGは別学名 <i>Conyza floribunda</i> 。古くから侵入しており、一定の影響はあるが、利用による分布拡大の可能性は大きくないとの判断。	外來法: 要注意、W100: 日本、村中: B、対策: H20<4、各県: 埼玉、愛知、京都、愛媛、奄美、河川: 67,105,107 海外: ISSG	世雄、雑管、便覧、写真図鑑、藤井委員、Ylist	
235	203	キク	ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>	Dまん延期					-	-	-						()			北アメリカ西部原産	明治初期に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原で逸出帰化。	1.2m、一年草	河川敷の草地、路傍、空地に生える。	ハルシャギクは園芸植物として渡来、コレオプシスの通称名で様々な園芸品種が流通、利用されている。	河原の在来植物との競合、駆逐が懸念されている。近縁種のオオキンケイギクは特定外来生物に指定されており、他の近縁種も同様の影響が懸念される。こうした影響を及ぼす場所への持ち込みは行うべきではない。	村中: C、対策: H23.2、専門家: 河原9、各県: 埼玉、河川: 24,39,52	便覧、緑化植物、写真図鑑	
236	203	キク	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	Dまん延期					-	-	-						()			北アメリカ原産、世界の温帯～熱帯	1870年頃に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。	1.8m、一年草	短期間に全国に分布を拡大した典型的な帰化雑草。畑地、樹園地、牧草地、空地、道端等に生える。肥沃地を好み、耐旱性が大きい。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	特定の除草剤への抵抗性を獲得。検討不要? 古くから侵入しており、一定の影響はあるが、利用による分布拡大の可能性は大きくないとの判断。	外來法: 要注意、村中: B、各県: 埼玉、愛知、京都、愛媛、奄美、河川: 78,118,121	世雄、雑管、便覧、写真図鑑、緑化植物、藤井委員	
237	203	キク	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	Dまん延期					-	-	-						()			北アメリカ原産、温帯～熱帯に分布	1920年頃に渡来、北海道～九州、琉球に帰化。	1.0m、多年草	畑地、水田畔、牧草地、道端、空地、芝地などいたる所にみられる強害草。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	種子ならびに根茎による繁殖力が強力。古くから侵入しており、一定の影響はあるが、利用による分布拡大の可能性は大きくないとの判断。	外來法: 要注意、W100: 日本、村中: C、対策: H20<4、各県: 草原45、各県: 青森、埼玉、愛知、京都、滋賀、愛媛、河川: 50,74,75	世雄、雑管、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物	
238	211	ユリ	ハナニラ(セイヨウアマナ)	<i>Iphæion uniflorum</i>	Dまん延期					-	-	-						()			アルゼンチン原産、世界各地で観賞用に栽培	明治年間に花卉として導入、本州、四国、九州。	0.2m、多年草	旺盛に繁殖するため、植えられたものが各地で逸出して、帰化状態になった。耐寒性がある。	様々な園芸品種が流通し、花壇等に植えられている。	旺盛に繁殖し、河川等で分布を拡大している。土手に繁茂した場合、在来の春植物(アマナやスマミ類など)との競合が懸念される。こうした影響を及ぼすおそれのある場所へは、持ち込むべきではない。	別学名 <i>Brodiaea uniflora</i> 。増殖は小球を母球からはずして行う。オーストラリアでは環境雑草とされている。	河川: 2,3,10	便覧、写真図鑑、藤井委員、Ylist、JF、有用、GCW
239	224	イネ	ヒゲナガスズメノチャビキ(オオスズメノチャビキ、オオキツネガヤ)	<i>Bromus diandrus</i>	Dまん延期					-	-	-						()			地中海沿岸原産、ヨーロッパ、アフリカ、東アジア、オーストラリア、南北アメリカの温帯～暖帯	1912(明治45)年に渡来、第二次大戦後に広がった。北海道、本州、四国、群馬県では2000年以降に急速に拡大。	0.8m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、港湾、埋立地などに生育。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。	種子を食用とする場合がある。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	飛散距離は広くないが、花粉症の原因植物。畑地雑草。侵入年代が古く、河川での分布拡大はみられず、利用されていないので、影響が大きくなる可能性は低いと考えた。	FAO: 7、専門家: 砂浜5、各県: 広島、群馬、河川: 5,17,17	世雄、便覧、写真図鑑、北海道	

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性	生物輸入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
												競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など								
240	224	イネ	ムギクサ	<i>Hordeum murinum</i>	Dまん延期																				ヨーロッパ原産、アジア、オセアニア、南北アメリカ、太平洋諸島等。温帯～暖帯、合衆国西部で侵略的。	明治初年(1868年)に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布	0.6m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地、草地などに生育、日当たりの良い所を好み、乾燥した土壌に耐える。海外では砂漠、砂漠の低木林、乾燥した草原に生育。	オオムギの品種改良のための遺伝資源として使われたことがある。現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。		世界的には温帯でみられる畑地雑草となっており、コムギ、オオムギ、エンバク、サトウダイコン、アルファルファなどに雑草害を及ぼす。侵入年代は古い、利用されていないためか、河川では分布を拡大していない。	専門家:砂浜18、河川:2,8,4	便覧、写真図鑑、世雑、鹽化植物、IPSW
241	71	クスノキ	セイロンニッケイ(シナモン)	<i>Cinnamomum verum</i>	EA小笠原・南西諸島																				インド、マレーシア、セイロン島原産		10m、高木	排水が良く日当たりのよい暖かい場所に育つ。増殖は実生による。	樹皮は桂皮として薬用や調味料に用いる。日本でも栽培されている。		日本で広く栽培される可能性は低いと判断した。	海外:ISSG	園芸事典、JF、有用
242	103	マメ	アメリカネムノキ(タイワンネムノキ)	<i>Samanea saman</i>	EA小笠原・南西諸島																				熱帯アメリカ原産		10m、常緑高木	乾季の長い地域では落葉樹的になる。公園、街路、広場、家の周り等に植栽。生長には高温と十分な湿度や広い場所が必要。	苗木入手容易。海外では、若い葉は果実として飼料、豆果はアルコール製造に利用。木材は細工物に利用。		学名 <i>Enterolobium saman</i> 、 <i>Albizia saman</i> 、テレビCMで知られる木。枝が大きく広がるので強風で倒れやすい。日本で広く利用され、分布を拡大する可能性は低いと判断した。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、JF
243	128	クロウメモドキ	イヌナツメ(インドナツメ)	<i>Ziziphus mauritiana</i>	EA小笠原・南西諸島																				熱帯アフリカやアジアに分布、インドや東南アジア、中国南部で栽培		2m、低木	農耕地、自然林、河岸、攪乱地、乾燥した熱帯地域に植え入れられる。牧草地、森林、サバンナで侵略的。	インドでは、ナツメよりも本種の方が果実として重要。市場でも果実が売られる。飼料、薬用、材、薪炭にも利用。日本でも流通している。		乾燥した環境を好み、日本で広く栽培される可能性は低いと判断した。	海外:ISSG	有用、JF
244	142	ミソハギ	タバコソウ(ベニチョウジ)	<i>Cuphea ignea</i>	EA小笠原・南西諸島																				メキシコ原産、ハワイ等に侵入		1m、低木状の草本	自然林、植林地、川岸、攪乱地、湿地に生育。	本属の中では最も普通に栽培される。苗木入手容易。この属の植物は、ほかに10種あまりが観賞用に利用される。日本でも、観賞用に鉢植えや花壇に栽培される。		野生化することは稀との記述があった。ISSGにあまり詳しい記述なし。	海外:ISSG	有用、園芸、熱帯花木、JF
245	147	ノボタン	シコンノボタン	<i>Tibouchina urvilleana</i>	EA小笠原・南西諸島																				ブラジル原産。ハワイやレユニオンで侵略的。		1.5m	農耕地、自然林、攪乱地、低木林、市街地	この属で最も広く観賞用に栽培される。日本でも観賞用に栽培される。苗木入手容易。繁殖は挿し木。		性質は強く、冬は3 以上を保てば良い。日の良く当たるところに置き、よく肥えた培養土で栽培。ISSGの記述少ない。繁殖は挿し木によるので、逸出による分布拡大及び重要地域への侵入の可能性は低いと考えられる。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、日本造園学会
246	150	アカバナ	フクシア・ボリビアナ	<i>Fuchsia boliviana</i>	EA小笠原・南西諸島																				ペルー～アルゼンチン原産。ハワイやレユニオンで侵略的。		5m、低木	自然林、植林地、攪乱地	日本でも栽培可能。種子が販売されていた。変種も数種ある。		園芸的に広く栽培されているフクシアは、別の種類を交配して作られた品種群。ISSGの記述少ない。	海外:ISSG	熱帯花木、有用
247	150	アカバナ	ツリウキソウ(フクシア・マガラニカ)	<i>Fuchsia magellanica</i>	EA小笠原・南西諸島																				チリ～アルゼンチン原産。ハワイやレユニオンで侵略的。		3m、低木	林縁、低木林、森林、川岸。耐寒性はフクシアの中では最も強く、関東以南の環境には耐えるが、暑さには弱い。	日本でも栽培可能。販売されている。種内の変異が大きく、変種や園芸品種などがいくつもある。		園芸的に広く栽培されているフクシアは、本種と別種を交配して作られた品種群。暑さに弱いため、日本では侵略的ににいくと判断した。	海外:ISSG	熱帯花木、有用、IPSW
248	151	ゲンネラ	オニブキ	<i>Gunnera manicata</i>	EA小笠原・南西諸島																				南ブラジル原産		2m、草本	日当たりがよく、深い肥沃な土地で、池や流れの縁など十分に水の供給できる場所に適する	この属の最大になり、観賞用に庭園等に植え入れられる。日本でも栽培される。流通している。		旧分類のアリトウグサ科。窒素固定するシアバクテリアと共生。侵略性は未知な地域が多いとされている。強風、熱風により葉が損傷しやすい。冬期には根株を防寒する必要がある。	海外:ISSG	有用、園芸事典、JF
249	151	ゲンネラ	コウモリガサソウ	<i>Gunnera tinctoria</i>	EA小笠原・南西諸島																				チリからコロンビアに分布。ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランド等で侵略的。		1.5m、多年草	沿岸地帯、自然林、河岸、湿地。日当たりがよく、深い肥沃な土地で、池や流れの縁など十分に水の供給できる場所に適する。	日本でも栽培される。流通している。海外では食用、薬用、染料等に利用される。		旧分類のアリトウグサ科。窒素固定するシアバクテリアと共生。強風、熱風により葉が損傷しやすい。冬期には根株を防寒する必要がある。日本では台風の影響を受けると判断した。	海外:ISSG	園芸事典、JF、IPSW
250	174	キョウチクトウ	メキシコキョウチクトウ(キバナキョウチクトウ)	<i>Thevetia peruviana</i>	EA小笠原・南西諸島																				熱帯アメリカから西インド諸島原産。		5m、常緑小高木	農耕地、攪乱地、低木林、市街地。耐陰性はない。	観賞用に栽培される。果実の核を装飾用に利用。薬用に利用。苗木入手容易。		有毒植物である。耐陰性がなく、攪乱地を好み一時的な植物とのことから、侵略性は高くないと判断した。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、Ylist、園芸事典、JF
251	188	ノウゼンカズラ	ヒメノウゼンカズラ	<i>Tecoma capensis</i>	EA小笠原・南西諸島																				南アフリカ原産。合衆国やオーストラリア等に侵入。		2.5m、ややつる状の常緑低木	攪乱地、市街地。日当たりの良い場所を好み、やや乾燥気味の高温で周年開花。	鉢物として多く利用。壁に沿って育つたり、生垣にする。日本で栽培されることはある。苗木入手容易。色変わり園芸品種がある。		Y-Listでは <i>Tecomania capensis</i> 。繁殖は挿し木または取り木。発根は容易で丈夫で作り易い。攪乱地に生育し、植栽により分布拡大すること等から、侵略性はそれほど高くないと判断。	海外:ISSG	有用、熱帯花木、JF、園芸事典
252	203	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク)	<i>Mikania cordata</i>	E小笠原・南西諸島																				旧世界の原産で、アメリカ、アジア、太平洋諸島の熱帯～亜熱帯に分布。	1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見。本島中部一帯で繁茂し、西表島にも侵入した。周年にわたって開花する。M. micranthaへ	20m以上、つる植物	畑地、樹園地、牧草地、川岸、路傍、荒地に生育する。雨量が1,500mm以上で肥沃な湿った所を好み、乾いた所には少ない。日陰地では生育が悪い。湿地環境で深刻な影響を与えている。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		写真図鑑の引用文献の学名はいずれも <i>M. cordata</i> だが、 <i>M. micrantha</i> として記述。種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物などによる。節を含む茎の断片による伝播は人間による。	その他:横田委員、M. micranthaへ	Ylist:写真図鑑、横田委員、M. micranthaへ、世雑
253	204	キバナオモダカ	キバナオモダカ(ヌマオオバコ)	<i>Limncharis flava</i>	EA小笠原・南西諸島																				熱帯アメリカ原産。世界の熱帯地域に広く帰化		0.8m、多年草		観賞用に温室で栽培。日本でも栽培されている。海外では、若葉や花序は野菜として食用にされる。		旧分類のオモダカ科。植物園等で栽培されているが、野生化のリスクは限られ、仮に逸出しても繁殖する可能性は低いと考えられる。	海外:ISSG	有用、Ylist、魚野委員

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国外外来種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

2014.3.26版

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載種(案)	対策	産業管理	脆弱環境	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
										生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など	
254	212	リュウゼツラン	フルクラエア・フォエティダ(フォエチダ)	<i>Furcraea foetida</i>	EA小笠原・南西諸島						()	x		()	()										ブラジル原産。ハワイやレユニオン等で侵略的。	-	2.5m、多肉の草本	農耕地、自然林、攪乱地、低木林に生育する。	海外では觀賞用や纖維をとるために利用される。日本でも販売されている。葉に斑の入る園芸品種もある。	-	珠芽の重力散布のみ？オオコウモリが散布の可能性もあり。ISSGの記述少ない。	海外:ISSG	園芸事典、JF、PIER
255	233	ショウガ	ショウズク(カルダモン)	<i>Elettaria cardamomum</i>	EA小笠原・南西諸島						()	x		()	()										インド南西部の原産。スリランカ、マレーシア等で栽培。	日当たりの良くない温室内で鉢作りをすると、植物体は良く育つが、花茎は出にくい。	3m、多年草	自然林、植林地、越冬温度は8-12℃。	種子を香辛料にする。	-	繁殖は地下茎の株わけか、種子による。日本で大量に栽培されたり、侵略的になる可能性は低いと判断した。	海外:ISSG	有用、園芸事典、JF
256	66	ヒユ	ツルノゲイトウ(ホシノゲイトウ)	<i>Alternanthera sessilis</i>	E小笠原・南西諸島					-	-	x													南アメリカ原産。北アメリカ、アジア、オーストラリアなど、熱帯～亜熱帯を中心に温帯の一部にまで広がる。	1935年以前に沖縄に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島。	長さ0.5m、一年草～多年草	水田、休耕地、湿地、畦畔、河原、沼沢、林縁などに生育する。日当たりの良いところ～半日陰地に生育するが、湿った方が生育が良い。	海外では、若芽や葉が野菜として利用され、ときに栽培される。中国では薬用にする。園芸的に栽培されるのは、 <i>A. ficoidea</i> 'Sessilis'と思われる。	-	特定外来生物のナガエツルノゲイトウの近縁種。水田雑草だが、サトウキビ畑にも侵入する。日本に古くから侵入しているにも関わらず、それほど大きな問題になっていない？	河川:13.21.26、海外:ISSG	世雑、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、有用、園芸辞典
257	186	ゴマノハグサ	オトメアゼナ	<i>Bacopa monnieri</i>	E小笠原・南西諸島					-	-	x													北アメリカ等が原産。ケイマン諸島に侵入。	戦後渡来、沖縄に帰化。	0.3m、水生の多年草	池、水路、溝などの岸辺に生育する。日当たりの良い水湿地であれば、土壌の種類は選ばない。	インドでは薬用にされる。パコバ類は販売、利用されている。	-	国内で、新たな定着や分布拡大の情報が得られなかった。	外来法:要注意、FAO:7、海外:ISSG	世雑、便覧、水草
258	224	イネ	シンクロナイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>	E小笠原・南西諸島					-	-	x													熱帯アメリカ原産。北アメリカ、南ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、太平洋諸島など熱帯～亜熱帯に分布。	関東以西に帰化。琉球、小笠原では古くから帰化。	0.8m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい肥沃地を好み、乾いた土壌～湿った土壌に適応。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	対策の回答ではクリノイガC. browniiだが、シンクロナイガと考えられる。小笠原では返還時(1968年)頃の勢力はないものの、動物や人に付着して広がり、群落を拡大する。侵入年代が古く、勢力が衰えてきたこと、利用による分布拡大の可能性が低いことから掲載対象外とした。	対策:H20:<4、各県:小笠原	世雑、便覧、写真図鑑

侵略的外来種リスト(仮称)植物の掲載種(案) [国内由来の外來種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外來種] 検討作業中

本資料は掲載種(案)を選定するために、既存情報の一部を記載し、項目ごとの評価を行ったものである。掲載種の付加情報については、さらに内容の追加や整理を行う。

第1回リスト会議以降に変更した種類または項目、第1回リスト会議以降に追加した文献。

第2回植物WG会合以降に変更した種類または項目

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況	掲載(案)	対策	産業利用	脆弱環境	定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散													付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等												
												重要地域	人体	経済・産業	利用	分布	問題となっている地域	生活型	生育環境など																										
1001	93	ケシ	白山などの高山帯のコマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>	XB定着初期/分布限定	掲載			高山	-	-																										北海道・本州中北部、千島・カムチャッカ・樺太・シベリア東部	白山など、コマクサが分布していない高山帯に持ち込まれ、駆除の対象となっている。コマクサの分布域への持ち込みは、遺伝的攪乱を引き起こす。	0.1m、多年草	高山の砂礫地に点々と生える。	市販品が流通、販売されている。	産地が異なるものや不明なものを持ち込みは、遺伝的攪乱を引き起こすので行うべきではない。高山帯は、自然公園法等により植物の植栽が規制されている。	自然公園法の指定植物。	専門家:高山22、その他:白山で駆除	草本、JF
1002	109	トウダイグサ	屋久島などのアブラギリ(ドクエ)	<i>Vernicia cordata</i>	XB定着初期/分布限定	掲載																														本州(中部地方以西)、四国、中国、九州、朝鮮半島、中国、台湾。	屋久島ではシカが食べないために国立公園内でも急激に増えている。	15m、落葉高木	山地に生えるほか、栽培される。強健で生長は比較的早く、湿潤な土壌、日当たりを好む。剪定、移植に耐える。	種子からとれる桐油は有毒だが、乾性油としてすくね、印刷用インクやペンキ、油紙などに利用。昔は和傘に塗った。樹皮のタンニンには染色や皮なめしに利用。材は下駄や器具に利用。	強健で生長は比較的早く、シカの食害を受けにくいことから、在来種との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>Aleurites cordata</i> 、中国の広東省と福建省が原産で日本には約300年前に渡来したとされたが、中国には自生しないことから、現在は日本が原産と考えられている。種子が原因の食中毒の事例がある。増殖は実生による。	その他:日本生態学会	便覧、千葉県植物誌、Ylist、目録、樹花4、木本有用、園芸事典	
1003	225	ヤシ	九州北部以北の森林内などのシュロ類	<i>Trachycarpus</i> spp.	XDまん延期	掲載																														シュロ <i>T. fortunei</i> は九州の原産で中国にも分布。トウシュロ <i>T. wagnerianus</i> は中国原産	本州以南に分布	7m、常緑高木	市街地を中心に野生状態のものが見られる。	市販品が流通、販売されている。	二次林にも自然林にも侵入するので、特に温暖な地域では、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	シュロとトウシュロの識別はやや困難。ISSGはシュロ <i>T. fortunei</i>	専門家:雑木38、極相25、各県:埼玉、海外:ISSG	便覧、木本、JF	
1004	37	マツ	小笠原諸島などのリュウキュウマツ(オキナワマツ)	<i>Pinus luchuensis</i>	XE小笠原・南西諸島	掲載						X																								吐噶喇列島以南の琉球	小笠原で問題。落葉層による他種の発芽抑制。	25m、常緑高木	暖地の森林に生える。	庭木、防風・防潮樹に利用される。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、小笠原諸島など自然分布域でない場所では可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	母島・父島の松枯れの原因のマツノダラカミキリがリーパーノールに食害されて、再繁茂。	対策:H20<4、各県:海洋島25、各県:小笠原	木本、樹木、JF	
1005	50	クワ	小笠原諸島などのガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	XE小笠原・南西諸島	掲載							X																							屋久島以南・琉球、台湾・中国大陸南部・東南アジア・インド・ニューギニア・オーストラリア	小笠原の父島で野生化して問題。	20m、常緑高木	海岸近くに生える。	南西諸島では防風、防潮用のほか木陰樹としても植えられ、市販品が流通、販売されており、観葉植物としても利用される。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	果実は食べられる。ISSGの表題は <i>Ficus microcarpa</i>	専門家:海洋島6、各県:小笠原、海外:ISSG	木本、JF、観葉植物	
1006	50	クワ	小笠原諸島などのシマグワ	<i>Morus australis</i>	XE小笠原・南西諸島	掲載																														九州南部、南西諸島から中国大陸、インド東部	小笠原諸島でオガサワラグワとの交雑が問題となっている。	10m、落葉高木	低山地の林内に生える。	養蚕用に栽培される。市販品が流通、販売されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	クワ属の在来種の生育場所の周辺では、可能な限り利用を控えるか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	シマグワ <i>M. australis</i> とヤマグワ <i>M. bombycis</i> を分ける見解と、ヤマグワ(シマグワ <i>M. australis</i> として同種とする見解がある。	専門家:海洋島24、交雑24、各県:小笠原	木本、有用、園芸事典、樹木、JF	
1007	109	トウダイグサ	小笠原諸島などのアカギ	<i>Bischofia javanica</i>	XE小笠原・南西諸島	掲載							X																							琉球(沖縄諸島、八重山列島)	小笠原や奄美地域で問題	25m、半常緑性高木	森林に広くみられるが、野生化どうか不明な所も多い。	庭木、街路・防風樹。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	首里金城の大アカギは文化財保護法で天然記念物に指定。	W100:日本、村中:A、対策:H20<4、専門家:海洋島34、各県:小笠原・奄美	木本、樹木、JF	
1008	57	タデ	高山帯のギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>	XX普通種	掲載			高山	-	-																									日本本土、朝鮮・中国・千島・樺太	北海道、早池峰、立山	1.0m、多年草	原野や道端の湿地に多い	市販品が流通、販売されている。薬用や染色に利用される。	ギシギシ属の植物は雑種を作りやすく、希少種の遺伝的攪乱が懸念される。ギシギシ属の生育場所の周辺には持ち込まないが、花粉の散布を防止するよう配慮する。	日本では最近報告はないが、シュウ酸を含むので中毒を起こす。	対策:H20<4	草本、雑草、花粉、牧草、JF、園芸事典、世雄	
1009	196	オオバコ	高山帯のオオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	XX普通種	掲載			高山	-	-																									千島・樺太、北海道・琉球、朝鮮、中国	白山、立山	0.5m、多年草	日当たりの良い道端や荒地に普通	市販品が流通、販売されている。葉に斑が入る園芸品種が栽培される。	高山植物であるハクサンオオバコとの交雑が確認され、遺伝的攪乱が危惧されている。こうした問題は野生品の非意図的な持ち込みによると思われるが、栽培品についてもこうした問題を引き起こさないよう、オオバコ属の希少種の生育場所の周辺には持ち込みを行うべきではない。	対策:H20:14	草本、雑草、花粉、JF、園芸事典		

<種の抽出に利用した既存の文献等>

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

特定外来生物(12種)と要注意外来生物 (84種)

IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に　に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種(既に全種が　に含まれている)。日本生態学会 (2002)外来種ハンドブック . 地人書館 .

村中ら (2005)掲載の108種(　河川重視の評価)。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷲谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討 . 保全生態学研究10: 19-33 .

F A O方式による雑草性リスク評価の結果、6点以上の特に注意すべき外来植物(* は今後導入される可能性のある外来植物)

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会 (2008)外来生物のリスク管理と有効利用 . 養賢堂 .

地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種 (数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書 .

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書 .

専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種 (数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価　http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

北海道ブルーリスト2010 , http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/

カテゴリーA2 : 本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種 (カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載)

青森県 (2006)青森県外来種対策学術調査報告書 - 青森県外来種リスト - . http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf

カテゴリーA(侵略的定着外来種) : 本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種

栃木県、長谷川順一 (2008) 栃木県の自然の変貌 , 自然の保全はこれだよいのか (自刊) .

近年増加が顕著な帰化植物

群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和 (2009) 外来植物の脅威 - 群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法 - . 上毛新聞社事業局出版部 .

県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種

埼玉県環境防災部みどり自然課 (2005) 埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそののある侵入的外来植物について . 改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編299-306pp .

危険度 5　極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コカナダモ、オオフサモなど17種

・すでに在来の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイヨウタンポポなど

危険度 4　非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタビなど25種

・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの

侵入した植生のタイプ:河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等

千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書 .　http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

愛知県環境部自然環境課 (2012) 愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012 (STOP!移入種　守ろう！あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～付属資料抜刷)

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf

環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種

愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「条例」という。)において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそののある移入種13種

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html

滋賀県で注意すべき外来生物、10種　http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/shiga.html

ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、**指定外来種**　http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/kyoseijourei.html#kisyo_gairai

京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト

被害甚大種(京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種) 5種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html

被害危険種(京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種)のうち特に被害が大きいと認められる種37種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html

兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応、兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

2警戒種(生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種)

鳥取県生物学会 (2007) 鳥取県の外来性動植物のリスト(2007) . 山陰自然史研究3:37-45 .

本県への影響大とされる10種

岡山県、外来食虫植物の除去 (岡山県自然保護センター) http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html

広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点 . 比叢科学224:1-18 .

ランクA: 広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそののある種64種

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種

佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1262/_33058/_33943/jourekiseishu.html

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会 (2011)改訂・宮崎県版レッド - データブック宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県環境森林部自然環境課、植物のブラックリスト11種類

小笠原諸島、延島冬生(2010)小笠原諸島に侵入している外来植物の現状 . 植調44(1)5-13 . 侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種

奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所 (2010)平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出(規制)植物種検討調査業務報告書 .

多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種 (表の数字は3回の調査での確認河川数で、下記に該当する種は太字で示した)

河川水辺の国勢調査1・2・3 3 巡目調査結果総括検討(河川版) (生物調査編)平成20年3月　国土交通省河川局河川環境課　http://www3.river.go.jp/gaiyou.htm

a.多くの河川で確認されている

1巡目から3巡目までのいずれかで、出現率(出現河川数 / 対象河川数) が50%を超えるもの (史前帰化植物を除く)。

b.確認される河川数が急激に増えている

1巡目から3巡目までに確認河川が4倍以上、または2巡目から3巡目までに確認河川数が2倍以上になった種

(各回の対象河川数の違いは出現率として補正して算出、1巡目や2巡目の出現河川数が0の種類も含む、3巡目の確認河川数が10以上を対象)

1巡目: H 2 ～ H 7 に78河川で実施、2巡目: H 8 ～ H12に119河川で実施、3巡目: H13 ～ H17に121河川で実施

緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種 (括弧内は調査実施主体の略)

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局 (2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書 .

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。

海外の評価

ISSG掲載の在来種以外 :Lists of Invasive Alien Species (IAS) , http://www.issg.org/database/reference/Index.asp

その他

検討委員からの情報提供